

平成 30 年度スポーツ庁委託事業
スポーツ産業の成長促進事業
「スポーツビジネスイノベーション推進事業」
①スポーツ経営人材育成・活用

スポーツ経営人材育成・活用
に係る調査報告書
(海外スポーツビジネス大学院に関する調査等)

平成 31 年 3 月

国立大学法人筑波大学

本報告書は、平成 30 年度スポーツ庁委託事業として国立大学法人筑波大学が実施したスポーツ産業の成長促進事業「スポーツビジネスイノベーション推進事業」①スポーツ経営人材育成・活用（スポーツ経営人材育成・活用についての検討）の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認が必要です。

目次

I. 目的	2
II. 実施概要	4
III. 調査結果	11
(1) 海外スポーツビジネス大学院ランキング上位 40 校を対象とした文献検索	12
スポーツビジネス大学院コースランキング	12
国、大学院区分	13
コース区分	14
コース設立年	18
定員	18
修了期間、学費	19
応募必須事項	25
カリキュラム内容	26
(2) 国内有識者へのインタビュー調査	53
(3) 入口調査「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」	60
(4) 企業・団体調査「スポーツ MBA 設置ニーズ」	92
(5) 出口調査「TIAS 修了生調査」	129
(6) 海外スポーツマネジメント大学院の提携関係に関するフィージビリティ調査	155
(7) 有識者会議	162
IV. 補足資料	171
【付録 1】 (2) 国内有識者へのインタビュー調査 質問票	171
【付録 2】 (3) 入口調査「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」調査票	172
【付録 3】 (4) 企業・団体調査「スポーツ MBA 設置ニーズ」調査票	176
【付録 4】 (5) 出口調査「TIAS 修了生調査」調査票	185

I. 目的

我が国の持続可能なスポーツ産業の活性化は、スポーツ市場を拡大させ、その収益をスポーツ環境の充実に再投資することが必要である。政府は「未来投資戦略 2017」において学位（スポーツ MBA）の創設を見据えた教育機関の設立に向けて必要とされる人材像や教育カリキュラムについて検討し、育成体制の在り方を 2018 年度中にまとめるとしている。また本年の「未来投資戦略 2018」では、スポーツビジネス特有のスキルを身に着けることができる学科（スポーツ MBA）や教育プログラムの提供にむけたカリキュラムや教材等の開発支援、育成体制の在り方について本年度中に結論を得るとしている。

こうした政府の方針に先立って、スポーツ庁は経済産業省とともに、平成 28 年にスポーツ経営人材プラットフォーム協議会を開催し、スポーツビジネスを推進する上でスポーツ経営人材が今日不足している状態を指摘した。さらに平成 29 年度に「スポーツ経営人材育成・活用事業」によって経営人材の要件として、スポーツ組織の経営に対するコミットメント意識の強さや、組織の「ビジョン」や「アイデンティティ」への思いの強さといったマインドセットと、スポーツ組織を運営するために必要となる経営資源の有効活用するための能力である一般的なビジネススキルとスポーツビジネス特有のスキルの 2 種類のスキルセットが求められる要件として挙げられた。

平成 29 年度の事業の調査から現状のスポーツ組織人材のマインドセットはトップマネジメント人材において求められる水準から大きく不足していること、さらにスキルセットにおいては、トップ・ミドル・実務担当の 3 つの階層において一般的なビジネススキルが不足していることやトップマネジメント人材においてはスポーツ特有のスキルも不足していることが指摘された。これらの結果から、スポーツ団体の経営に求められるビジネススキルが基本的には一般的なビジネススキルと変わらないという調査結果や経営大学院における MBA コース受講者間のネットワーク構築の重要性を踏まえ、既存の MBA コースにスポーツビジネス特有のビジネススキルを学ぶ科目を導入したスポーツ MBA の設置が望ましいとされた。

一方、文部科学省で開催されている「経営系大学院機能強化検討協力者会議」では、一般の企業活動においても国境のボーダレス化が加速度的に進む中で、海外企業の MBA フォルダーとの交渉が不可避的な状況が発生しており、多様性に対応できる経営人材の養成が我が国の経営系大学院において喫緊の課題としている。このように一般企業のグローバル化が進展するのと軌を一にして、スポーツビジネスにおいても 2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック、2021 年ワールドマスターズ等の国際スポーツイベントが我が国で開催される。近年の我が国のスポーツビジネスは、国際スポーツ競技団体との交渉や折衝の急激な増加、グローバルな協賛企業との取引、国際的なテレビ放送権やインターネット放送権の販売、グローバルなスポーツエージェンシーとのビジネスが必要になり、今後のスポーツ経営人材はグローバル市場で活躍できることが課題でもある。

そこで、本事業の目的は、グローバルなスポーツ市場で活躍できる経営人材を育成するためにスポーツビジネスを学ぶことができる既存の MBA コースのカリキュラムや教材を調査によって明らかにすること、さらにスポーツ団体やスポンサー企業等、産業界のニーズを質的、量的、両面の方法で分析することとした。

II. 実施概要

1. 調査の概要

調査は、1) 海外スポーツビジネス大学院の教育プログラムに関する文献調査、2) 国内有識者へのインタビュー調査、3) 海外スポーツマネジメント大学院との提携関係のフィージビリティ調査、4) 入口調査：「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」、5) 企業・団体調査（入口・出口調査）：スポーツ、非スポーツ企業・団体を対象とした「スポーツMBA設置ニーズに関する調査」、6) 出口調査：TIAS修了生調査、の計6種類の調査およびその結果を分析し、中間報告をスポーツ庁に行い、調査結果を有識者会議にて報告し、有識者の意見を伺いまとめた。なお、有識者の発言は匿名性を保つために匿名化を行った。

2. 調査期間

2018年12月中旬～2019年3月末

3. 調査メンバー

筑波大学体育系	教授	清水 諭（調査責任者）
筑波大学ビジネスサイエンス系	教授	ベントン・キャロライン（副責任者）
筑波大学ビジネスサイエンス系	教授	永井 裕久（調査チーム長）
筑波大学ビジネスサイエンス系	教授	平井 孝志
筑波大学体育系	教授	西保 岳
筑波大学体育系	教授	真田 久
筑波大学体育系	准教授	高橋 義雄（調査副チーム長）
筑波大学体育系	主任研究員	塚本 拓也（アドバイザー）

4. 調査方法

1) 海外スポーツビジネス大学院の教育プログラムに関する文献調査

スポーツビジネスインターナショナル誌“スポーツビジネス大学院コースランキング2018”に掲載されているスポーツビジネス大学院上位40校を調査対象とし、各大学院で開講されているスポーツビジネス・マネジメントに関連する科目の調査及び集約を行った。具体的には、2018年12月から2019年1月にかけて、この上位40校の各国の言語（英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語）で作られている公式ホームページにて一般公開されている情報を中心に、記載内容を次の14項目を収集した。

- 1) 大学院名
- 2) 国
- 3) 設立年
- 4) 定員
- 5) 学費
- 6) 学部
- 7) コース名
- 8) コーススケジュール
- 9) 修了までの時間
- 10) 大学院区分
- 11) カリキュラム
- 12) 講義名
- 13) 大学院情報
- 14) 修了生

次に、スポーツマネジメントに関連する科目のリストアップについて以下の手順で行った。リスト化したのは、各コースのホームページに記載された科目名であり、科目名がホームページに記載されていた場合のみ抜粋した。大学間で科目名が重複した科目や同義の内容と思われる科目

は一つの科目にまとめたため、最終的に 587 科目となった。リスト化された計 587 科目を、科目名からのみ内容を推測し、下記 11 分野に振り分けた。分析の限界は、科目名による講義内容の推測でしかないことがあげられる。また、各大学で一般公開されている情報に限りがあるため、大学の科目の一部のみ収集した情報があることも結果の解釈の際には注意が必要である。

- 1) General Management
- 2) Marketing and Communications, Sponsorship, Broadcasting
- 3) Finance and Accounting
- 4) Economics
- 5) Business and Sport Analytics
- 6) Sport Studies
- 7) Facility Management
- 8) Event Management
- 9) Internship and Business Project
- 10) Research Methods and Thesis
- 11) Career Development

分析の限界を理解したうえで、更にキーワードが同じ講義名をひとかたまりとし、分野詳細として振り分けた。分野詳細も分野を振り分ける際と同様にあくまでも科目名から内容を推測して行った。また、以下のキーワードを含む科目はスポーツ関連用語を含む科目として記載した。

- Sport/Sports
- Athletes
- Athletics
- Olympic
- Sponsorship

- ・ Leisure
- ・ Recreation
- ・ Clubs
- ・ Fandom/supporters
- ・ Motor learning (学習運動)
- ・ Baseball、Football 等スポーツ名

2) 国内有識者へのインタビュー調査

本調査では、グローバルな視点に立ったわが国におけるスポーツ産業の基幹産業化に向けた市場創造し、実効性のある「スポーツ MBA」の設置を将来的に構想するための情報収集を行うことが目的であるため、多様なスポーツビジネスの専門家 9 名に半構造化インタビューを実施した。本文の結果は匿名化した結果を報告する。（質問内容は補足資料を参照）

3) 入口調査：「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」

本調査では、スポーツ MBA に対する市場ニーズを確認するため、体育学を学んだ筑波大学体育専門学群卒業生を対象とした入学関心について調査票調査を実施した。調査対象者は筑波大学体育専門学群が管理する卒業生連絡リストにある 1390 名とした。結果サンプル数は 258 名であった。

a. 調査対象

- ・ ビジネススクール入学生の年齢層を想定した 20 代～30 代の卒業生
- ・ 性別、業種を限定しない
- ・ サンプル数は 1390 名、回収は 258 回答であった

b. 調査方法

調査対象者に対し、アンケートフォームによる Web 質問票調査を実施した。

実施時期は 1 月。

c. 調査項目

- ・ 背景情報（卒業年、性別、業種、職位）
- ・ スポーツ MBA に対するニーズ意識
- ・ スポーツ MBA への入学で重視すること

- ・英語プログラムの必要性
- ・スポーツ MBA で身に着けるべき能力
- ・スポーツ MBA 修了者の採用意向
- ・修士学位の必要性
- ・スポーツ MBA への入学意向

d. 分析方法

- ・基礎統計およびクロス集計

4) 企業・団体調査（入口・出口調査）：スポーツ、非スポーツ企業・団体を対象とした「スポーツ MBA 設置ニーズに関する調査」

本調査では、スポーツ MBA に対する雇用者側のニーズやスポーツ MBA 修了者の雇用需要に関して、スポーツ系および非スポーツ系企業や団体を対象とした質問票調査を実施した。調査対象者のデータベースを特定するため、調査会社を利用して調査対象を層別化したデータ収集を行った。結果サンプル数は 400 名である。

a. 調査対象

スポーツ、非スポーツ企業・団体を対象としてそれぞれに営利機関と非営利機関を 100 団体。

(計 400 団体)

割付セル	割付セル名称	サンプル数
1	【営利団体】スポーツ関連企業_100 億円未満	25
2	【営利団体】スポーツ関連企業_100～499 億円	25
3	【営利団体】スポーツ関連企業_500 億円以上	50
4	【営利団体】スポーツ非関連企業_100 億円未満	25
5	【営利団体】スポーツ非関連企業_100～499 億円	25
6	【営利団体】スポーツ非関連企業_500 億円以上	50
7	【非営利団体】スポーツ関連企業	100
12	【非営利団体】スポーツ非関連企業	100
合計		400

b. 調査方法

層別化した調査対象企業に勤務する対象者に対し、Web 質問票調査を実施した。
実施時期は1月。

c. 調査項目

- ・ 営利及び非営利の区別
- ・ 業種
- ・ 事業規模
- ・ 団体種類
- ・ 海外売上高比率
- ・ スポーツと事業の関係
- ・ スポーツとマーケティング活動
- ・ 2020 オリンピックと事業
- ・ スポーツ関連のマーケティング能力
- ・ スポーツ経営人材に必要な能力
- ・ スポーツ経営人材の職務内容
- ・ スポーツ経営人材雇用に対する需要
- ・ スポーツ経営人材の採用条件や雇用形態
- ・ スポーツ MBA 学位の潜在的可能性

d. 分析方法

- ・ 基礎統計およびクロス集計

5) 出口調査：TIAS 修了生調査

教育目的がスポーツ MBA と部分的に交差する TIAS の修了生を対象として、修了後の実務経験を通して、スポーツマネジメントに対するグローバルな視点や提供すべき教育プログラムやカリキュラムの内容に関する示唆を得た。結果サンプル数は28名である。

a. 調査対象

TIAS の修了生36名を対象とした追跡調査。

b. 調査方法

アンケートフォームによる Web 質問票調査。

実施時期は1月。

c. 調査項目

- ・卒業年
- ・年齢
- ・国籍
- ・性別
- ・TIAS の期待充足度
- ・TIAS プログラムの評価
- ・就業状況
- ・TIAS 修了とスポーツ産業への就業

d. 分析方法

- ・基礎統計およびクロス集計

6) 海外スポーツマネジメント大学院との提携関係のフィージビリティ調査

本調査では、実効性のある「スポーツ MBA」の設置に向けた情報収集が主な目的であることから、大学院間のネットワーク構築強化を図れる対象大学院の発掘を目的とした。また、著名なスポーツマネジメント大学院と連携し、ゲストスピーカーとして講師を招聘できる可能性についても探るため、AISTS、MESGO、FIFA Master の3大学院の事務局担当者に半構造化インタビューを実施した。

7) 有識者会議

本報告では匿名化した議事録を掲載する。

(1) 海外スポーツビジネス大学院ランキング
上位 40 校を対象とした文献検索

1. スポーツビジネス大学院コースランキング (スポーツビジネスインターナショナル誌より抜粋)

本調査の対象となる世界のスポーツビジネス大学院及びランキングは以下の通りである。

RANK	国	大学院名	コース名	スコア
1	アメリカ	Ohio University	Master of Sports Administration	92.66
2	アメリカ	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	MBA/MS in Sport Management, MS in Sport Management	88.44
3	アメリカ	George Washington University	Master of Science in Sport Management	88.01
4	アメリカ	University of South Florida (FLAP)	MBA/MS in Sport & Entertainment Management	85.30
5	イギリス、イタリア、スイス	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	84.05
6	アメリカ	University of South Carolina	Master of Sport and Entertainment Management	81.58
7	アメリカ	San Diego State University	Sports MBA	80.73
8	オーストラリア	Deakin University	Master of Business (Sport Management)	80.62
9	アメリカ	University of Central Florida	DeVos Sports Business Management Graduate Program	79.37
10	アメリカ	University of San Francisco	Master in Sport Management	79.17
11	ロシア	Russian International Olympic University	Master of Sport Administration	78.65
12	アメリカ	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	MBA Sports Business	78.42
13	スペイン	Centro de Formación Fundación Valencia CF	Master in International Sports Management	78.26
14	アメリカ	Ohio State University	Master of Science in Kinesiology, Sport Management	78.01
15	アメリカ	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	MEd/MBA Sport Leadership	77.69
16	イギリス	Sheffield Hallam University	MSc Sport Business Management	77.68
17	アメリカ	Columbia University	MS Sports Management	77.65
18	アメリカ	University of Louisville	MS in Sport Administration	76.99
19	イタリア	University of Parma-University of Republic of San Marino	International Master in Strategic Management of Sports Organisations, Events and Facilities	76.76
20	アメリカ	Temple University	MS in Sport Business	76.75
21	アメリカ	Georgia State University	Master of Science in Sports Management	76.17
22	アメリカ	University of New Haven	M. S. Sport Management	75.87
23	スイス	AISTS	Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology	74.96
24	カナダ	University of Windsor	The Master of Human Kinetics in Sport Management	74.68
25	アメリカ	Seattle University	Master in Sport Administration and Leadership	74.48
26	アメリカ	University of Tennessee	Master in Sport Management	73.52
27	スペイン	Johan Cruyff Institute	Master in Sport Management	73.05
28	イギリス	University of Liverpool Management School	MBA Football Industries	72.82
29	アメリカ	Florida Atlantic University	MBA Sport Management	72.53
30	スペイン	Real Madrid Graduate School	MBA Sport Management	71.99
31	アメリカ	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	Master in Sports Business	71.73
32	アメリカ	Florida State University	Master in Sport Management	71.50
33	ドイツ	University of Bayreuth	MBA Sport Management	70.68
34	アメリカ	Arizona State University	Master in Sports Law and Business	70.59
35	アメリカ	Georgetown University	Master in Sports Industry Management	69.64
36	フランス	AMOS	Master of Business in Sport	68.36
37	ベルギー	Vrije Universiteit Brussel	Postgraduate Course Sports Management	63.57
38	アメリカ	Texas A&M University	Master of Science in Sport Management	63.08
39	イギリス	Coventry University	MSc Sport Management	62.87
40	フランス	MBA ESG	MBA in Sport management	61.86

※ランキング 25 位の Seattle University は現在「Master in Sport Business Leadership」に変更されている

2. 国

大学院 40 校を、国別でまとめた。

国名	大学院数
アメリカ	24
スペイン	3
イギリス	3
フランス	2
カナダ	1
イタリア	1
ロシア	1
スイス	1
ベルギー	1
ドイツ	1
オーストラリア	1
イギリス、イタリ ア、スイス	1
計	40

エリア	大学院数
北米	25
欧州	15

スポーツビジネスインターナショナル誌 “スポーツビジネス大学院ランキング 2018” に記載された上位 40 校のうち、24 校はアメリカに所在する。スペインとイギリスが大学院数ではアメリカに続く。中には 3 か国合同の大学もある。

エリア別でみると、北米の大学院が 40 校中 25 校、欧州の大学院が 15 校である。

3. コース区分

世界のスポーツビジネス大学院コース上位 40 校のコースは、次の表の通りである。大学院は 40 校だが、「University of Massachusetts Amherst, Mark H. Mark H. McCormack, Dept of Sport Management」のように 2 コース設置している大学院もあるため、コース自体の総数は 41 となる。

No.	RANK	大学院名	コース名	コースの種類
1	1	Ohio University	Master of Sports Administration	1
2	2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	MS in Sport Management	1
3			MBA/MS in Sport Management	3
4	3	George Washington University	Master of Science in Sport Management	1
5	4	University of South Florida (FLAP)	MBA/MS in Sport & Entertainment Management	3
6	5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	1
7	6	University of South Carolina	Master of Sport and Entertainment Management	1
8	7	San Diego State University	Sports MBA	3
9	8	Deakin University	Master of Business (Sport Management)	2
10	9	University of Central Florida	DeVos Sports Business Management Graduate Program	2
11	10	University of San Francisco	Master in Sport Management	1
12	11	Russian International Olympic University	Master of Sport Administration	1
13	12	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	MBA Sports Business	3
14	13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	Master in International Sports Management	1
15	14	Ohio State University	Master of Science in Kinesiology, Sport Management	1
16	15	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	MEd/MBA Sport Leadership	3
17	16	Sheffield Hallam University	MSc Sport Business Management	2
18	17	Columbia University	MS Sports Management	1
19	18	University of Louisville	MS in Sport Administration	1
20	19	University of Parma-University of Republic of San Marino	International Master in Strategic Management of Sports Organisations, Events and Facilities	1
21	20	Temple University	MS in Sport Business	2
22	21	Georgia State University	Master of Science in Sports Management	1
23	22	University of New Haven	M. S. Sport Management	1
24	23	AISTS	Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology	1
25	24	University of Windsor	The Master of Human Kinetics in Sport Management	1
26	25	Seattle University	Master in Sport Administration and Leadership	2
27	26	University of Tennessee	Master in Sport Management	1
28	27	Johan Cruyff Institute	Master in Sport Management	1
29	28	University of Liverpool Management School	MBA Football Industries	3
30	29	Florida Atlantic University	MBA Sport Management	3
31	30	Real Madrid Graduate School	MBA Sport Management	3
32	31	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	Master in Sports Business	2
33	32	Florida State University	Master in Sport Management	1
34	33	University of Bayreuth	MBA Sport Management	3
35	34	Arizona State University	Master in Sports Law and Business	2
36	35	Georgetown University	Master in Sports Industry Management	1
37	36	AMOS	Master of Business in Sport	2
38	37	Vrije Universiteit Brussel	Postgraduate Course Sports Management	1
39	38	Texas A&M University	Master of Science in Sport Management	1
40	39	Coventry University	MSc Sport Management	1
41	40	MBA ESG	MBA in Sport management	3

上記 41 コースを大きく分類すると、次の 3 種の類型に分かれる。コース類型 1 は「スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース」、コース類型 2 は「スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース」、コース類型 3 は「経営学修士 (MBA) の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース」である。

コース類型 1. スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース
(N=23)

No.	RANK	大学院名	コース名	コースの類型
1	1	Ohio University	Master of Sports Administration	1
2	2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	MS in Sport Management	1
3	3	George Washington University	Master of Science in Sport Management	1
4	5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	1
5	6	University of South Carolina	Master of Sport and Entertainment Management	1
6	10	University of San Francisco	Master in Sport Management	1
7	11	Russian International Olympic University	Master of Sport Administration	1
8	13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	Master in International Sports Management	1
9	14	Ohio State University	Master of Science in Kinesiology, Sport Management	1
10	17	Columbia University	MS Sports Management	1
11	18	University of Louisville	MS in Sport Administration	1
12	19	University of Republic of San Marino	International Master in Strategic Management of Sports Organisations, Events and Facilities	1
13	21	Georgia State University	Master of Science in Sports Management	1
14	22	University of New Haven	M. S. Sport Management	1
15	23	AISTS	Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology	1
16	24	University of Windsor	The Master of Human Kinetics in Sport Management	1
17	26	University of Tennessee	Master in Sport Management	1
18	27	Johan Cruyff Institute	Master in Sport Management	1
19	32	Florida State University	Master in Sport Management	1
20	35	Georgetown University	Master in Sports Industry Management	1
21	37	Vrije Universiteit Brussel	Postgraduate Course Sports Management	1
22	38	Texas A&M University	Master of Science in Sport Management	1
23	39	Coventry University	MSc Sport Management	1

コース類型 2. スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース (N=8)

No.	RANK	大学院名	コース名	コースの類型
1	8	Deakin University	Master of Business (Sport Management)	2
2	9	University of Central Florida	DeVos Sports Business Management Graduate Program	2
3	16	Sheffield Hallam University	MSc Sport Business Management	2
4	20	Temple University	MS in Sport Business	2
5	25	Seattle University	Master in Sport Administration and Leadership	2
6	31	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	Master in Sports Business	2
7	34	Arizona State University	Master in Sports Law and Business	2
8	36	AMOS	Master of Business in Sport	2

※ランキング 25 位の Seattle University は現在「Master in Sport Business Leadership」に変更されている

※Deakin University は、MBA 学位ではないため、スポーツ関連のスポーツマネジメントをビジネスとして学ぶコースとして類型 2 に分類した

コース類型 3. 経営学修士 (MBA) の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース (N=10)

No.	RANK	大学院名	コース名	コースの類型
1	2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	MBA/MS in Sport Management	3
2	4	University of South Florida (FLAP)	MBA/MS in Sport & Entertainment Management	3
3	7	San Diego State University	Sports MBA	3
4	12	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	MBA Sports Business	3
5	15	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	MEd/MBA Sport Leadership	3
6	28	University of Liverpool Management School	MBA Football Industries	3
7	29	Florida Atlantic University	MBA Sport Management	3
8	30	Real Madrid Graduate School	MBA Sport Management	3
9	33	University of Bayreuth	MBA Sport Management	3
10	40	MBA ESG	MBA in Sport management	3

※「University of Massachusetts Amherst : MBA/MS in Sport Management」コースについては、コース類型 3 : 経営学修士 (MBA) の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコースとして取り扱った。

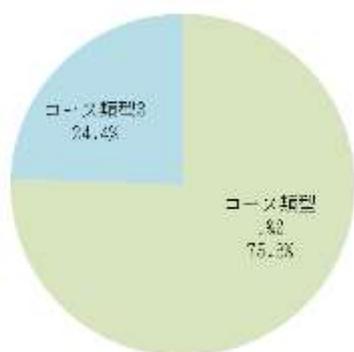
これらの表を円グラフで表すと、次のようになる。



コース類型	コース数	全コース数	%
コース類型1	23	41	56.1%
コース類型2	8	41	19.5%
コース類型3	10	41	24.4%

上の図の通り、世界のスポーツビジネス大学院コース全体 (41 コース) のうち、スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース (コース類型 1) は 23 コースで、全体の 56.1% を占める。スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース (コース類型 2) は 8 コースで、全体の 19.5% を占める。最後に、経営学修士 (MBA) の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース (コース類型 3) が 10 コースで、全体の 24.4% を占める。

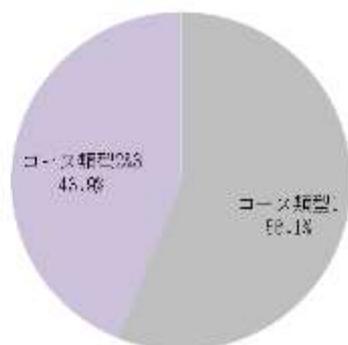
次に、スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントないしスポーツビジネスを取り扱うコースと（コース類型1と2）、経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース（コース類型3）の2種類に分け、円グラフで表した。



コース類型	コース数	全コース数	%
コース類型1&2	31	41	75.6%
コース類型3	10	41	24.4%

上の図からスポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントないしスポーツビジネスを取り扱うコースが全体の75.6%を占め、経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコースが残りの24.4%を占めることが分かる。世界のスポーツビジネス大学院コースランキング上位40校は、経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコースよりもスポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコースの方が多いたことが分かった。

次に、スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース（コース類型1）に対して、スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコースと経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース（コース類型2と3）の2種類に分け、円グラフで表した。



コース類型	コース数	全コース数	%
コース類型1	23	41	56.1%
コース類型2&3	18	41	43.9%

上の図からスポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコースと経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース（コース類型2と3）が全体の43.9%を占め、残りの56.1%を、経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコースが占めることが分かる。

4. コース設立年

大学院 40 校の中から、スポーツビジネス大学院コースの設立年を調査した。

RANK	大学院名	コース名	設立年
5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	2000
13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	Master in International Sports Management	2009
17	Columbia University	MS Sports Management	2006
19	University of Parma- University of Republic of San Marino	International Master in Strategic Management of Sports Organisations, Events and Facilities	1996
37	Vrije Universiteit Brussel	Postgraduate Course Sports Management	2006

設立年	
平均	2003
最も新しい	2009
最も古い	1996

スポーツビジネス大学院コースが設立された年がホームページに記載されているケースが少なく 5 コースのみの記載となるが、コースが設立された平均年は 2003 年である。5 コース中最も新しいコースは 2009 年に設立され、最も古いコースは 1996 年に設立されている。

5. 定員

スポーツビジネス大学院コースの定員を調査した。（※大学院規模は考慮しない）

RANK	大学院名	コース名	定員
5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	25-30
7	San Diego State University	Sports MBA	30
9	University of Central Florida	DeVos Sports Business Management Graduate Program	25
18	University of Louisville	MS in Sport Administration	30-35
23	AISTS	Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology	35-40

スポーツビジネス大学院コースの定員情報がホームページに記載されているケースが少なく 5 コースのみ情報が見つかった。ケース数は少ないが、少ない中で算出すると、平均は約 30 名、最少人数は 25 名、最多人数は 40 名である。

修了期間、学費

スポーツビジネス大学院コースの修了期間と学費を調査した。

■修了年数

下記の表は、コース修了までの修了期間をまとめた表である。

RANK	大学院名	コース名	修了期間
1	Ohio University	Master of Sports Administration	2 年
2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack,	MS in Sport Management MBA/MS in Sport Management	1 年 (MS only) 24 ~27ヵ月 (Dual Degree)
3	George Washington University	Master of Science in Sport Management	およそ12学期間 (修了年数は決められていない)
4	University of South Florida (FLAP)	MBA/MS in Sport & Entertainment Management	5年以内での卒業が必須 3年 (SEMコース) 2年 (SMGコース)
5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	The Fifa Master	1 年
6	University of South Carolina	Master of Sport and Entertainment Management	-
7	San Diego State University	Sports MBA	18ヵ月
8	Deakin University	Master of Business (Sport Management)	1年、1.5年 もしくは 2 年
9	University of Central Florida	DeVos Sports Business Management Graduate Program	2 年
10	University of San Francisco	Master in Sport Management	23ヵ月
11	Russian International Olympic University	Master of Sport Administration	1 年
12	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	MBA Sports Business	2年 (Two-Year PRG) 9~15ヵ月 (Accelerated PRG) 2~4年 (Flex PRG)
13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	Master in International Sports Management	-
14	Ohio State University	Master of Science in Kinesiology, Sport Management	-
15	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	MEd/MBA Sport Leadership	2 年
16	Sheffield Hallam University	MSc Sport Business Management	1 年 (フルタイム) 23ヵ月 (パートタイム)
17	Columbia University	MS Sports Management	3~8 terms
18	University of Louisville	MS in Sport Administration	およそ1.5 年~ 2 年で卒業 (決められていない)
19	University of Parma- University of Republic of San Marino	International Master in Strategic Management of Sports Organisations, Events and Facilities	12ヵ月
20	Temple University	MS in Sport Business	2年で終わるように設計 最大4年修了が必須

RANK	大学院名	コース名	修了期間
21	Georgia State University	Master of Science in Sports Management	36 セメスターアワーズ
22	University of New Haven	M. S. Sport Management	-
23	AISTS	Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology	15ヵ月
24	University of Windsor	The Master of Human Kinetics in Sport Management	16～24ヵ月
25	Seattle University	Master in Sport Administration and Leadership	23ヵ月での卒業が主 99%の学生は～2.5年で卒業
26	University of Tennessee	Master in Sport Management	-
27	Johan Cruyff Institute	Master in Sport Management	11ヵ月
28	University of Liverpool Management School	MBA Football Industries	12ヵ月 (フルタイム) 24ヵ月 (パートタイム)
29	Florida Atlantic University	MBA Sport Management	23ヵ月
30	Real Madrid Graduate School	MBA Sport Management	-
31	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	Master in Sports Business	-
32	Florida State University	Master in Sport Management	3 semestersで終わるように設計
33	University of Bayreuth	MBA Sport Management	4 semesters
34	Arizona State University	Master in Sports Law and Business	21ヵ月
35	Georgetown University	Master in Sports Industry Management	1～5年
36	AMOS	Master of Business in Sport	5年
37	Vrije Universiteit Brussel	Postgraduate Course Sports Management	-
38	Texas A&M University	Master of Science in Sport Management	-
39	Coventry University	MSc Sport Management	1年
40	MBA ESG	MBA in Sport management	-

修了期間のカウントの仕方はコースにより異なり、単純な年数や月計算の場合、タームやセメスター計算の場合、単位計算の場合に分かれた。全体を通して、1～2年での修了が多いが、修了までの期間が定められている場合と、定められていない場合とに分かれる。定められている場合は4～5年までにコースを修了せねばならないという制限が設けられているコースなどがある。

単純な年数や月計算の場合、コース修了までに最短で11ヵ月、長くて5年かかる。タームやセメスター計算の場合、最短で3ターム、最長で8タームかかる。これらのほか、フルタイム・パートタイムなどによりコース修了期間が異なり、フレキシブルに学生のペースでの学びが認められていることがうかがえた。

■学費

学費は、コース修了までの学費の総額と年間費用を調査した。下記の表は、コース修了までの学費を総額でまとめたものである。ホームページに学費の記載がない場合、「-」と表している。

R A N K	大学院名	修了までの学費（総額）						
		コース	応募者のステータスにより学費がわかる場合					
			州内居住者	州外居住者	Regional students	EU市民	留学生	卒業年数
1	Ohio University	-	\$34,801	\$54,781	-	-	-	-
2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	-	\$49,572	\$100,872	\$84,924	-	-	-
3	George Washington University	\$61,560	-	-	-	-	-	-
4	University of South Florida (FLAP)	-	-	-	-	-	-	-
5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	fr. 25,000	-	-	-	-	-	-
6	University of South Carolina	-	-	-	-	-	-	-
7	San Diego State University	\$48,780	-	-	-	-	-	-
8	Deakin University	\$28,200	-	-	-	-	-	-
9	University of Central Florida	-	\$22,179	\$71,643	-	-	-	-
10	University of San Francisco	\$49,860	-	-	-	-	-	-
11	Russian International Olympic University	\$11,400	-	-	-	-	-	-
12	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	-	\$41,618	\$57,350	-	-	-	-
13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	€ 7,200	-	-	-	-	-	-
14	Ohio State University	-	-	-	-	-	-	-
15	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	-	-	-	-	-	-	-
16	Sheffiled Hallam University	-	-	-	-	£7,200	£13,500	-
17	Columbia University	\$72,648	-	-	-	-	-	-
18	University of Louisville	-	\$11,460	\$27,082	-	-	\$27,082	-
19	University of Parma- University of Republic of San Marino	-	-	-	-	-	-	-
20	Temple University	-	\$33,588	\$38,952	-	-	-	-

R A N K	大学院名	修了までの学費（総額）						
		コース	応募者のステータスにより学費がわかる場合					
			州内居住者	州外居住者	Regional students	EU市民	留学生	卒業年数
21	Georgia State University	-	-	-	-	-	-	-
22	University of New Haven	-	-	-	-	-	-	-
23	AISTS	\$29,000	-	-	-	-	-	-
24	University of Windsor	-	-	-	-	-	-	-
25	Seattle University	-	-	-	-	-	-	-
26	University of Tennessee	-	-	-	-	-	-	-
27	Johan Cruyff Institute	€ 7,880	-	-	-	-	-	-
28	University of Liverpool Management School	£16,500	-	-	-	-	£23,500	-
29	Florida Atlantic University	\$36,000~ \$41,400	-	-	-	-	-	-
30	Real Madrid Graduate School	€ 26,000	-	-	-	-	-	-
31	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	-	-	-	-	-	-	-
32	Florida State University	-	-	-	-	-	-	-
33	University of Bayreuth	-	-	-	-	-	-	-
34	Arizona State University	-	\$58,700	\$96,500	-	-	\$101,100	-
35	Georgetown University	\$40,350	-	-	-	-	-	-
36	AMOS	€ 37,540	-	-	-	-	-	-
37	Vrije Universiteit Brussel	-	-	-	-	-	-	-
38	Texas A&M University	-	-	-	-	-	-	-
39	Coventry University	-	-	-	£10,650	£15,050	-	-
40	MBA ESG	-	-	-	-	-	-	-

次の表は、コース修了までの学費の1年間の費用で算出したものである。年間学費の算出は、修了期間が具体的にわかる年月表記の場合のみにとどまり、タームやセメスター表記の場合は含めていない。

R A N K	大学院名	修了までの学費（年間）						
		コース	応募者のステータスにより学費がわかる場合					
			州内居住者	州外居住者	Regional students	EU市民	留学生	卒業年数
1	Ohio University	-	\$17,401	\$27,391	-	-	-	-
2	University of Massachusetts Amherst, Mark H. McCormack, Dept of Sport Management	-	\$ 22,032～ \$24,786 (Dual Degree) \$49,572 (MS only)	\$44,832～ \$50,436 (Dual Degree) \$100,872 (MS only)	\$37,744～ \$42,462 (Dual Degree) \$84,924 (MS only)	-	-	-
3	George Washington University	-	-	-	-	-	-	-
4	University of South Florida (FLAP)	-	-	-	-	-	-	-
5	The International Centre for Sport Studies (CIES)	fr. 25,000	-	-	-	-	-	-
6	University of South Carolina	-	-	-	-	-	-	-
7	San Diego State University	\$32,520	-	-	-	-	-	-
8	Deakin University	\$14,100～ \$28,200	-	-	-	-	-	-
9	University of Central Florida	-	\$11,090	\$35,822	-	-	-	-
10	University of San Francisco	\$26,014	-	-	-	-	-	-
11	Russian International Olympic University	\$11,400	-	-	-	-	-	-
12	University of Oregon, Lundquist College of Business, Warsaw Sports Marketing Center	-	\$20,809 (Two-Year PRG)	\$28,675 (Two-Year PRG)	-	-	-	-
13	Centro de Formación Fundación Valencia CF	-	-	-	-	-	-	-
14	Ohio State University	-	-	-	-	-	-	-
15	Virginia Commonwealth University Center for Sport Leadership	-	-	-	-	-	-	-
16	Sheffiled Hallam University	-	-	-	-	£ 7,200 (フルタイム) £ 3,757 (パートタイム)	£ 13,500 (フルタイム) £ 7,043 (パートタイム)	-
17	Columbia University	-	-	-	-	-	-	-
18	University of Louisville	-	\$5,730～ \$8,595	\$13,541～ \$20,312	-	-	\$13,541～ \$20,312	-
19	University of Parma- University of Republic of San Marino	-	-	-	-	-	-	-
20	Temple University	-	\$8,397～ \$16794	\$9,738～ \$19,476	-	-	-	-

R A N K	大学院名	修了までの学費（年間）						
		コース	応募者のステータスにより学費がわかる場合					
			州内居住者	州外居住者	Regional students	EU市民	留学生	卒業年数
21	Georgia State University	-	-	-	-	-	-	-
22	University of New Haven	-	-	-	-	-	-	-
23	AISTS	\$23,200	-	-	-	-	-	-
24	University of Windsor	-	-	-	-	-	-	-
25	Seattle University	-	-	-	-	-	-	-
26	University of Tennessee	-	-	-	-	-	-	-
27	Johan Cruyff Institute	€ 6,304	-	-	-	-	-	-
28	University of Liverpool Management School	£ 16,500 (フルタイム) £ 8,250 (パートタイム)	-	-	-	-	£ 23,500 (フルタイム) £ 11,750 (パートタイム)	-
29	Florida Atlantic University	\$18,783~ \$21,600	-	-	-	-	-	-
30	Real Madrid Graduate School	-	-	-	-	-	-	-
31	New York University Preston Robert Tisch Institute for Global Sport	-	-	-	-	-	-	-
32	Florida State University	-	-	-	-	-	-	-
33	University of Bayreuth	-	-	-	-	-	-	-
34	Arizona State University	-	\$33,543	\$55,143	-	-	\$57,771	-
35	Georgetown University	\$8,070~ \$40,350	-	-	-	-	-	-
36	AMOS	€ 7,508	-	-	-	-	-	-
37	Vrije Universiteit Brussel	-	-	-	-	-	-	-
38	Texas A&M University	-	-	-	-	-	-	-
39	Coventry University	-	-	-	£10,650	£15,050	-	-
40	MBA ESG	-	-	-	-	-	-	-

コース費用のみをシンプルに掲載している大学院もあるが、大学院によっては、費用が応募者のステータス（州内居住者、州外居住者、Regional students、EU市民、留学生）により変わる場合もある。

上記の表から、コース修了までの年間の学費の平均をUSドルに変換して計算すると、\$19,901（およそ220万円）であった。修了までの学費の総額の平均は、\$34,343（およそ380万円）であった。また、留学生や州外居住者は、州内居住者よりも学費が高いということはほとんどのコースで共通している。

6. 応募必須要項

応募必須要項の情報がホームページに記載されていたコース（計 34 コース）に関して、コース応募時に求められる資格や条件をまとめた。

下記は、ホームページに記載されていた資格・条件のリストである。

- ・ 入学適性
- ・ テスト
- ・ 履歴書
- ・ 論文
- ・ 成績
- ・ 証明書
- ・ 英語力
- ・ テスト
- ・ 推薦状
- ・ 学士号
- ・ 社会人
- ・ 経験
- ・ オンライン出願
- ・ 出願料
- ・ GPA
- ・ 面接

上記の資格・条件を応募必須要項として記載したコースが 34 コース中いくつあるかを、下記の表でまとめた。

応募必須要項	入学適性テスト	履歴書	論文	成績証明書	英語力テスト	推薦状	学士号	社会人経験	オンライン出願	出願料	GPA	面接
コース数 (全34 コース中)	23	23	22	19	19	18	16	15	12	10	9	6
割合	67.6%	67.6%	64.7%	55.9%	55.9%	52.9%	47.1%	44.1%	35.3%	29.4%	26.5%	17.6%

※英語力テストは、留学生や英語を母国語としない応募者にのみ求められている

応募必須要項として記載された資格・条件の上位 3 位は入学適性テスト、履歴書、論文であり、入学適性テストと履歴書は約 7 割の大学院が応募必須要項としている。下位 3 位は出願料、GPA、面接である。また、学士号は一般的に必要なが、応募要項のリストとして明記している大学院は約半数であった。

7. カリキュラム内容

スポーツビジネスインターナショナル誌“スポーツビジネス大学院コースランキング2018”に記載された41コースは、どの分野を重要視されているかを知ることが目的として、スポーツビジネス大学院コースのカリキュラム内容をまとめた。

カリキュラムは、情報が記載されているコースと、されていないコースとに分かれ、計大学院36校・37コースのカリキュラム情報の収集ができた。「3. コース区分」にて言及した通り、同じ大学院でも2コース実施している大学院もあるため、コース自体の総数は41となる。4大学院4コースは情報が記載されていなかったため、カリキュラム内容としての情報収集は36大学院37コースにとどまる。ホームページにカリキュラム情報が記載されていたそれら37コースから科目名(計587)を抜き出し、各コースでの実施有無をコースごとにまとめた。また、以下のキーワードを含む科目と含まない科目とに分け、含む科目を「スポーツ関連用語含む科目」とした(付録資料【5】参照)。

- ・ Sport/Sports
- ・ Athletes
- ・ Athletics
- ・ Olympic
- ・ Sponsorship
- ・ Leisure
- ・ Recreation
- ・ Clubs
- ・ Fandom/supporters
- ・ Motor learning (運動学習)
- ・ Baseball、Football 等スポーツ関連の用語

調査概要の通り、科目は11分野に大別でき、それぞれの科目数は次の通りである。

分野No.	分野	科目数	スポーツ関連用語		
			含む科目	含まない科目	
1	General Management	153	68	85	
2	Marketing and Communications	113	56	57	
3	Finance and Accounting	55	16	39	
4	Economics	17	9	8	
5	Business and Sport Analytics	20	10	10	
6	Sport Studies	92	92	0	
7	Facility Management	25	21	4	
8	Event Management	15	10	5	
9	Internships and Business Project	37	16	21	
10	Research Methods and Thesis	36	6	30	
11	Career Development	24	3	21	
		計	587	307	280

各分野の科目振り分け表である（スポーツ関連科目は、○がついている）。

<分野1：General Management の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
1	1	Business	Legal Aspects of Sports Business	○
2	1	Business	Business Decision Making	
3	1	Business	Business Measurement	
4	1	Business	Integrated Business Applications	
5	1	Business	Business Planning	
6	1	Business	E-Business	
7	1	Business	Recognizing Business Opportunities	
8	1	Business	Strategy	
9	1	Business	Strategy and Organization	
10	1	Business	Consulting Strategies	
11	1	Business	Business strategic planning	
12	1	Business	General Business Courses	
13	1	Business	Sources of Competitive Advantage I	
14	1	Business	Sources of Competitive Advantage II	
15	1	Business	Co-Creating Value & Innovating Through Services	
16	1	Business	Business Intelligence	
17	1	Business	Trading simulations	
18	1	Conflict and Dispute	Dispute Resolution in Sport	○
19	1	Conflict and Dispute	Conflict Management and Negotiations	
20	1	Conflict and Dispute	Conflict management	
21	1	CSR	Social Responsibility and Diversity in Sports	○
22	1	CSR	Corporate Social Responsibility and Sports	○
23	1	CSR	Sport and politics	○
24	1	CSR	Compliance, Risk Management & Anti-Money Laundering	
25	1	Entrepreneurship	Social Entrepreneurship in Sports	○
26	1	Entrepreneurship	Strategies for Starting a Sports Business	○
27	1	Entrepreneurship	Social Entrepreneurship	
28	1	Entrepreneurship	Entrepreneurship	
29	1	Entrepreneurship	Innovation and Entrepreneurship	
30	1	Entrepreneurship	Small Business Management	
31	1	Entrepreneurship	New Venture Initiation	
32	1	Ethical Issues	Issues in Sport	○
33	1	Ethical Issues	Social Issues in Sport Management	○
34	1	Ethical Issues	Issues in the American Sport Industry	○
35	1	Ethical Issues	Diversity & Social Issues in Sport	○
36	1	Ethical Issues	Ethics in Sport Management	○
37	1	Ethical Issues	Applied Ethics in Sports	○
38	1	Ethical Issues	Ethical Issues	
39	1	Ethical Issues	Ethical Issues for Managers	
40	1	Ethical Issues	Business Law and Ethics	
41	1	Ethical Issues	Traditions and Ethics	
42	1	Ethical Issues	Conventions of a society	
43	1	General Management	Managerial Problem Solving	
44	1	General Management	Managerial Skills	
45	1	General Management	Management techniques	
46	1	General Management	General Management	
47	1	General Management	Quality and Incident Management	
48	1	General Management	Teamwork	
49	1	General Management	Roles of members in teams	
50	1	General Management	People Management and Teamwork	
51	1	General Management	Time management	
52	1	General Management	Operations Management	
53	1	General Management	Decisions Models and Management	
54	1	General Management	Performance and training of people	
55	1	General Management	Motivation and cooperation	
56	1	General Management	Managerial Decision Analysis	
57	1	Global Management	International Business and the Global Environment	
58	1	Global Management	Global Environment of Management	
59	1	Global Management	Global Management Strategy and Policy	
60	1	Global Management	Global Business Environments	

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
61	1	Governance	Sporting Governing Bodies	○
62	1	Governance	Sport controlling	○
63	1	Governance	Sport Organizations & Governance	○
64	1	Governance	Intercollegiate Athletics Governance	○
65	1	Governance	Global Sport Governance	○
66	1	Governance	Amateur Sports Governance	○
67	1	Governance	Sport Governance	○
68	1	Governance	Governance, Politics and the Olympic Movement	○
69	1	Human Resource	Strategic Management and Human Resources in Sport	○
70	1	Human Resource	Hiring and retribution in sport	○
71	1	Human Resource	Sport and people management	○
72	1	Human Resource	Human Resource Management	
73	1	Human Resource	The Sports Person	○
74	1	Information System	Management Information Systems	
75	1	Information System	Management of Information Systems and Technology	
76	1	Information System	Information Systems for Business Intelligence	
77	1	Information System	Cybersecurity Concentration	
78	1	Information System	Digital Innovations and Transformation: Information Systems	
79	1	Labor	Sport Labor Relations	○
80	1	Leadership	Leadership in Sport	○
81	1	Leadership	Sport Management and Leadership	○
82	1	Leadership	Strategic Leadership in International Sports Organizations	○
83	1	Leadership	Leadership and Personnel Management in the Sports Industry	○
84	1	Leadership	Leadership and Critical Thinking in Sport Management	○
85	1	Leadership	Sports Leadership and Management	○
86	1	Leadership	Leadership	
87	1	Leadership	Leadership, Management and Organization	
88	1	Leadership	Organizational Leadership and Project Team Management	
89	1	Leadership	Leadership and Executive Forum	
90	1	Leadership	Motivational Leadership of Teams	
91	1	Leadership	Project Leadership	
92	1	Leadership	Future Forward Leadership	
93	1	Legal	Intellectual Property & Licensing	
94	1	Legal	Legal and Human Rights Issues in Sport Management	○
95	1	Legal	Legal Issues in Sport and Recreation	○
96	1	Legal	Legal Aspects in the Sport Industry	○
97	1	Legal	Legal environment of the company and commercial law	
98	1	Negotiation	Sport Law: Contracts and Negotiations	○
99	1	Negotiation	Negotiations	
100	1	Negotiation	International Business Negotiations	
101	1	Negotiation	Preparation and follow-up of negotiations	
102	1	Negotiation	Mastering the Art of Influence and Negotiations	
103	1	Negotiation	Negotiations and Labor Relations	

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
104	1	Organization/Association Management	Sport Organizations' Governance	○
105	1	Organization/Association Management	Sport Organization Theory	○
106	1	Organization/Association Management	Planning and Control in Sports Organization Management	○
107	1	Organization/Association Management	Emotional Intelligence in Sports Organizations	○
108	1	Organization/Association Management	International Organizations in Sports for Development	○
109	1	Organization/Association Management	Governing and Managing Nonprofit Organizations	
110	1	Organization/Association Management	Association and association management	
111	1	Organization/Association Management	Managing Individuals and Organizations	
112	1	Organization/Association Management	Organizational Strategy and Learning	
113	1	Organization/Association Management	Official Organizations	
114	1	Organization/Association Management	Leading People, Teams, and Organizations: Organizational Theory	
115	1	Organizational Behavior	Sport Organization Behavior	○
116	1	Organizational Behavior	Organizational Behavior and Development	
117	1	Organizational Behavior	Organizational Behavior and Leadership	
118	1	Policy	Public Policy and Sport	○
119	1	Policy	Sport Policy Analysis	○
120	1	Policy	Sport Policy and Development	○
121	1	Policy	Municipal Operations and Management	
122	1	Policy	Business Policy	
123	1	Policy	Applied Strategy and Business Policy	
124	1	Sport Business	Sport Business Concentration	○
125	1	Sport Business	Sport Business Consultancy	○
126	1	Sport Business	Sport Business	○
127	1	Sport Law	Law of Sports	○
128	1	Sport Law	International Comparative Sports Law	○
129	1	Sport Law	Sport & Entertainment Law	○
130	1	Sport Law	Amateur Sports Law	○
131	1	Sport Law	Professional Sports Law	○
132	1	Sport Law	Advanced Sport and the Law	○
133	1	Sport Law	Sports Law and Ethics	○
134	1	Sport Law	Sports Law, Contracts, and Negotiation	○
135	1	Sport Law	Seminar in Sports Law	○
136	1	Sport Law	Sport and law in Belgium and in Europe	○
137	1	Sport Law	Sports law and sports rights marketing	○
138	1	Sport Law	International Comparative Sports Law	○
139	1	Sport Law	Issues in Sport Law	○
140	1	Strategic Management	Strategic Sport Management	○
141	1	Strategic Management	Strategic Management Issues in the Sport Industry	○
142	1	Strategic Management	Strategic attitude in sport	○
143	1	Strategic Management	Sports Business Strategies and Industry Dynamics	○
144	1	Strategic Management	Applied Research in Hospitality, Retail, and Sport Management	○
145	1	Strategic Management	Strategic Management for Sport Organizations	○
146	1	Strategic Management	Strategic Information Management	

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
147	1	Supply Chain	Operations Management Organizational Strategy	
148	1	Supply Chain	Supply Chain Management Concentration	
149	1	Supply Chain	Strategic Supply Chain & Operations Management	
150	1	Supply Chain	Operations and Supply Chain Management	
151	1	Sustainability	Sport Business Development and Sustainability	○
152	1	Sustainability	Sustainable Development	
153	1	Sustainability	Environmental management and sustainability	

<分野2: Marketing and Communications の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
154	2	Advertising	Advertising and Brand Development (Branding)	
155	2	Advertising	Advertising Agencies	
156	2	Advertising	Advertising and Marketing Communications Strategy	
157	2	Advertising	Advertisers and the net	
158	2	Branding	Sport Branding and Communications	○
159	2	Branding	Personal and Business Branding in Sports	○
160	2	Branding	Branding	
161	2	Branding	Brand and Identity Management	
162	2	Branding	Brand Management	
163	2	Branding	Entities, brands and athletes: Communication 2.0	
164	2	Broadcasting	Sport Broadcasting	○
165	2	Communication	Communications	
166	2	Communication	Impact communication	
167	2	Communication	International Communication and Public	
168	2	Communication	Integrated Marketing Communications	
169	2	Communication	Marketing, commerce and communication	
170	2	Communication	Communication plan	
171	2	Communication	Case study: Communication management	
172	2	Communication	Round table: Experiences in the world of communication	
173	2	Communication	Communication Skills for Business Professionals	
174	2	Communication	Communication: Public Speaking in Professional Environments	
175	2	Communication	Conventional ways of communicating	
176	2	Communication	Marketing Communications and Public Relations	
177	2	Digital Marketing	Social Media in Sport	○
178	2	Digital Marketing	Case study: Digital Marketing and Platforms in Football	○
179	2	Digital Marketing	Sports Content in the New Digital World	○
180	2	Digital Marketing	Sport and graphic communication: concepts, techniques, digital and social media	○
181	2	Digital Marketing	Digital Sports Media and Marketing	
182	2	Digital Marketing	Digital Marketing	
183	2	Digital Marketing	Hospitality Digital Marketing Strategies	
184	2	Digital Marketing	Digital Media	
185	2	Digital Marketing	Case study: Marketing and Management of Social Networks	
186	2	Digital Marketing	Creating Digital Experiences	
187	2	Digital Marketing	Social Network and the Community Manager	
188	2	International Marketing	International Sports Marketing And The Media	○
189	2	International Marketing	International Marketing	
190	2	Marketing	Understanding Sport Consumers: Theoretical Perspectives	○
191	2	Marketing	Marketing of Services	
192	2	Marketing	Principles of marketing	
193	2	Marketing	Consumer Behavior	
194	2	Marketing	Marketing plan	
195	2	Marketing	Strategic Marketing Planning	
196	2	Marketing	Strategic and Operational Marketing	
197	2	Marketing	Market Orientation	
198	2	Marketing	Marketing and Supply Chain Management	
199	2	Marketing	Practical Application of a Communication Plan	
200	2	Marketing	Frontline to Boardroom Communication	
201	2	Marketing	Marketing Analytics	
202	2	Marketing	Fundamental and strategic marketing	
203	2	Marketing	Marketing and trade of equipment manufacturers	
204	2	Marketing	Context and issues of e-marketing	

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
205	2	Marketing Management	Marketing Management	
206	2	Marketing Management	Strategic Marketing Management	
207	2	Marketing Management	Introduction to Marketing and Marketing Management	
208	2	Marketing Management	Marketing Management in a Global Environment	
209	2	Marketing Management	Create and Deliver Customer Value: Marketing Management	
210	2	Marketing Research	Sport Marketing Field Research	○
211	2	Marketing Research	Marketing Research	
212	2	Marketing Research	Seminar in Marketing Research	
213	2	Marketing Strategy	Sport & Entertainment Marketing Strategy	○
214	2	Marketing Strategy	Sports Marketing Strategy	○
215	2	Marketing Strategy	Marketing Strategy	
216	2	Media	Sport Media and Communications	○
217	2	Media	Sports and Media	○
218	2	Media	Sport Communication Theory and Practice (replaced SPAD 605, effective 2018-19)	○
219	2	Media	Business of Sport Media	○
220	2	Media	Sports Media	○
221	2	Media	Global Sports Media	○
222	2	Media	Media and sports culture	○
223	2	Media	The Media	
224	2	Media	Editorial techniques	
225	2	Promotion	Sport Promotion & Sales	○
226	2	Promotion	Sport Analytics Sport Promotion & Sales	○
227	2	Promotion	Sport Promotions and Public Relations	○
228	2	Promotion	Sport Industry Marketing, Promotion and Public Relations	○
229	2	Promotion	Sales Promotion, Licensing and Sponsorship Development in Sports	○
230	2	Public Relations	Public Relations	
231	2	Public Relations	Public Relations in the event	
232	2	Right	Sports Rights	○
233	2	Right	Audiovisual Rights	
234	2	Sales	Sports Marketing and Sales	○
235	2	Sales	Sales & Marketing of Major Sporting Events	○
236	2	Sales	Sales and Fundraising in the Sport Industry	○
237	2	Sales	Professional Selling in Sport	○
238	2	Sales	Sales management	
239	2	Sponsorship	Sponsorship in Sports	○
240	2	Sponsorship	Sponsorship and events in the sports sector	○
241	2	Sponsorship	Olympic Partnerships and Sponsorship	○
242	2	Sponsorship	Sports Sponsorship Alliances	○
243	2	Sponsorship	Agent and sponsorship contracts	○
244	2	Sponsorship	Case study: Marketing and Sponsorship	○
245	2	Sponsorship	Specialty B: Digital Marketing and Sports Sponsorship	○
246	2	Sponsorship	Sports Sponsorship and Sales	○
247	2	Sponsorship	Sponsorship	
248	2	Sport Communication	Sport Strategic Communication	○
249	2	Sport Communication	Sport and communication	○
250	2	Sport Communication	Sports and communication management, media and business communication	○
251	2	Sport Communication	Visual communication in sport	○
252	2	Sport Communication	Communication in Sports Organizations	○
253	2	Sport Communication	Sports Business Communications and Public Relations	○
254	2	Sport Communication	Sports Communications and Public Relations	○

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
255	2	Sport Marketing	Sport Marketing	○
256	2	Sport Marketing	Marketing Sport	○
257	2	Sport Marketing	Strategic sports marketing	○
258	2	Sport Marketing	Fundamentals of sports marketing	○
259	2	Sport Marketing	Sport Marketing and Communications	○
260	2	Sport Marketing	Sport Marketing and Promotions	○
261	2	Sport Marketing	Sport Marketing and Sponsorship Managing People in Sport Sport Legal Environment Sport Governance and Strategic Management	○
262	2	Sport Marketing	Applied Sport Marketing Research	○
263	2	Sport Marketing	Strategic Sport Marketing	○
264	2	Sport Marketing	Principles of Sport and Entertainment Marketing	○
265	2	Sport Marketing	Marketing and Sports Properties	○
266	2	Sport Marketing	Sports & Consumers	○

<分野3: Finance and Accounting の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
267	3	Accounting	Accounting and Budgeting in Sport	○
268	3	Accounting	Sports Accounting and Finance	○
269	3	Accounting	Annual Accounts for Sports Clubs and Organizations	○
270	3	Accounting	Managerial Accounting Analysis	
271	3	Accounting	Accounting Concepts for Managers	
272	3	Accounting	Financial and Managerial Accounting	
273	3	Accounting	Financial Accounting for Managers	
274	3	Accounting	Management accounting	
275	3	Accounting	Managerial Accounting Concepts	
276	3	Accounting	Internal Measures of Success: Managerial Accounting	
277	3	Accounting	Financial Accounting	
278	3	Accounting	Financial Accounting Concepts	
279	3	Accounting	Financial Performance Reporting and Analysis: Financial Accounting	
280	3	Accounting	Advanced Analysis of Accounting Data	
281	3	Accounting	Cost accounting and controlling	
282	3	Finance	Financing Sport Operations	○
283	3	Finance	Sport Finance and Business	○
284	3	Finance	Sport and Entertainment Finance	○
285	3	Finance	Sport Finance	○
286	3	Finance	Sports Financing	○
287	3	Finance	Managing Sport Finances	○
288	3	Finance	Sport and financial management	○
289	3	Finance	Budgeting and Finances in Sports and Recreation	○
290	3	Finance	Short and long term financial planning	
291	3	Finance	Financial Principles of Sport	○
292	3	Finance	Financial challenges for sport managers	○
293	3	Finance	Introduction to finance	
294	3	Finance	Fundamentals of Finance	
295	3	Finance	Finance	
296	3	Finance	Case study: finance	
297	3	Finance	Financing	
298	3	Finance	Corporate Finance	
299	3	Finance	Corporate Finance and Valuation	
300	3	Finance	New Venture Financing: Due Diligence and Valuation Issues	
301	3	Finance	Business Plan and Financing	
302	3	Finance	Football and Finance	
303	3	Finance	Financial Management	
304	3	Finance	Financial Management II	
305	3	Finance	Advanced Financial Management	
306	3	Finance	Strategic Financial Management	
307	3	Finance	Corporate Financial Management	
308	3	Finance	Financial management and analysis	
309	3	Finance	Financial Management in Sport Organizations	
310	3	Finance	The Art of Managing Resources to Create Value: Managerial Finance	
311	3	Finance	Managing Financial Resources	
312	3	Finance	Financial Interpretation	
313	3	Finance	Fundraising in Sport	○
314	3	Finance	Financial Skills For Business Decisions	
315	3	Finance	Athletic Fundraising	
316	3	Finance	Managing Fund Raising and Philanthropy	
317	3	Finance	Investment and financing	
318	3	Revenue Management	Revenue Generation in Sports	○
319	3	Revenue Management	Development and Revenue Generation in Sports	○
320	3	Revenue Management	Pricing and Revenue Management	
321	3	Revenue Management	Revenue Generation and Sponsorship	

<分野 4 : Economics の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
322	4	Economics	Economics of Sport	○
323	4	Economics	Sport Economics and Finance	○
324	4	Economics	Sport and economy	○
325	4	Economics	Global Economics Of Sport	○
326	4	Economics	Economic Aspects of Sports	○
327	4	Economics	The Economics of Sport and the Olympics	○
328	4	Economics	Economics of Sport and Strategic Management	○
329	4	Economics	Economic Analysis of the Sports Industry	○
330	4	Economics	Sport as a commercial-economic field of activity	○
331	4	Economics	Economic, legal and fiscal environment	
332	4	Economics	Economic environment of the company	
333	4	Economics	Introduction to Economic Concepts for Managers	
334	4	Economics	Managerial Economics	
335	4	Economics	Economics for Managers	
336	4	Economics	Decisions, Market Structure, and Games: Managerial Economics	
337	4	Economics	Economic Analysis of the Firm	
338	4	Economics	Business Management Models and Economic Aspects	

<分野5: Business and Sport Analytics の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
339	5	Data Analysis	Strategic Planning. Analysis of Sports Environments and Competition	○
340	5	Data Analysis	Statistical Analysis	
341	5	Data Analytics	Sports Revenues Strategies & Analytics	○
342	5	Data Analytics	Business Data Analysis and Statistical Methods	
343	5	Data Analytics	Data Analytics Concentration	
344	5	Data Analytics	Data Analytics for Business	
345	5	Data Analytics	Decision-making with Data Analytics	
346	5	Data Analytics	Data Mining	
347	5	Data Analytics	Analyzing Big Data	
348	5	Data Analytics	Database Management Systems	
349	5	Data Analytics	Understanding Facts: Statistics for Managers	
350	5	Data Analytics	Information Analysis for Managerial Decisions	
351	5	Sport Analytics	Sports Analytics	○
352	5	Sport Analytics	Fundamentals of Sports Analytics	○
353	5	Sport Analytics	Baseball Analytics	○
354	5	Sport Analytics	Basketball Analytics	○
355	5	Sport Analytics	Soccer Analytics	○
356	5	Sport Analytics	Football Economics and Analytics	○
357	5	Sport Analytics	Data Analytics for Sports	○
358	5	Sport Analytics	Sport Business Analytics	○

<分野6: Sport Studies の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
359	6	Athlete Management	Athlete Management	○
360	6	Athlete Management	Athlete Recruitment	○
361	6	Clubs	Sports Clubs	○
362	6	Clubs	Clubs	○
363	6	Clubs	The Fitness and Wellness Market	○
364	6	Coaching	Coaching Applied to Sports	○
365	6	Coaching	Advanced Coaching	○
366	6	Coaching	Sport and Exercise Psychology for Coaches	○
367	6	Coaching	Motor Learning for Coaches	○
368	6	College Sports	College Athletics	○
369	6	College Sports	Business of College Sports	○
370	6	College Sports	Intercollegiate Athletics Administration	○
371	6	College Sports	Applied Collegiate Fitness and Athletics	○
372	6	College Sports	Major Policy Issues in Intercollegiate Athletics	○
373	6	College Sports	College Sports Operations	○
374	6	College Sports	Professional and Collegiate Sports Operations	○
375	6	College Sports	The Professionalisation of Sport	○
376	6	College Sports	Athletic Administration	○
377	6	e-Sports	The Business of eSports	○
378	6	Fan/Supporter	Fan Engagement in Professional Sport Clubs	○
379	6	Fan/Supporter	Science of Fandom	○
380	6	Fan/Supporter	The world of supporters	○
381	6	Global/International Environment	Global Environment of Sport	○
382	6	Global/International Environment	Internationalisation of Sport	○
383	6	Global/International Environment	Introduction to the world of sports and sports management	○
384	6	Global/International Environment	International Sports Management	○
385	6	Global/International Environment	International Sports Strategy	○
386	6	Global/International Environment	Brazil Global Sporting Immersion	○
387	6	Management in Recreation and Sport	Strategic Management in Sport and Recreation	○
388	6	Management in Recreation and Sport	Recreation and Sport Management Electives	○
389	6	Modern Sport	Socio-Historical Foundations of Modern Sport	○
390	6	Modern Sport	Birth of Modern Sport	○
391	6	Modern Sport	Premodern Sport	○
392	6	Modern Sport	Sport of today and tomorrow: the new actors	○
393	6	Olympic Studies	The Business of Sport and the Olympics	○
394	6	Olympic Studies	Olympic Philosophy and Sport Ideology	○
395	6	Olympic Studies	Crises, Politics and Commercialism in the Modern Olympic Movement	○
396	6	Olympic Studies	Tennis and Roland Garros (French Open, also called Roland-Garros is a major tennis tournament in Paris)	○
397	6	Sport and Culture	Cultural Theories of Sport	○
398	6	Sport and Culture	Sport and Popular Culture	○
399	6	Sport and Culture	Cultural Aspects of Sport	○
400	6	Sport and Culture	Sport, Culture, and the Body	○
401	6	Sport and Diversity	Diversity in Sport	○
402	6	Sport and Gender	Sport and Sexuality	○
403	6	Sport and Gender	Female sports practices	○
404	6	Sport and Society	Sport, Culture and Society	○
405	6	Sport and Society	Sports and Society	○
406	6	Sport and Society	Sociology of Sport	○
407	6	Sport and Society	Role of Sport in Society	○

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
408	6	Sport History	American Sports History	○
409	6	Sport History	Women' s Sport History	○
410	6	Sport History	Foundations of American Sport	○
411	6	Sport History	Professional Sport from the Civil War to the Present	○
412	6	Sport History	Sport in the world. Sport in historical perspective	○
413	6	Sport Humanity	Humanities of Sport	○
414	6	Sport Industry	Introduction to the Sport Industry	○
415	6	Sport Industry	Sport Industry: Strategic Direction in Sports Organizations	○
416	6	Sport Industry	U.S. Sport Industries	○
417	6	Sport Industry	International Football Industry	○
418	6	Sport Industry	Sport Tourism	○
419	6	Sport Industry	Sport and innovation	○
420	6	Sport Industry	Sport and new technologies	○
421	6	Sport Industry	Sports equipment suppliers	○
422	6	Sport Industry	Sports Products	○
423	6	Sport Management	Contemporary Issues in Sport & Entertainment Management	○
424	6	Sport Management	Sports General Management	○
425	6	Sport Management	Introduction to the management of sports projects	○
426	6	Sport Management	Managing People In Sport Organizations	○
427	6	Sport Management	Fundamentals of sports management	○
428	6	Sport Management	Theories and models of sports management for professional practice	○
429	6	Sport Management	Management of Sport/Sport Management	○
430	6	Sport Management	Management, Innovation, and Leadership of Sport Organizations	○
431	6	Sport Management	Special Topics in Sport Management	○
432	6	Sport Management	Management in the Sport and Entertainment Industry	○
433	6	Sport Management	MBA in Sport Management Core Curriculum	○
434	6	Sport Management	Challenges in Sport Management	○
435	6	Sport Management	Global Issues in Sport Management	○
436	6	Sport Management	Applied Sports Management	○
437	6	Sport Management	Sports Operations Management	○
438	6	Sport Management	Professional Sport Management	○
439	6	Sport Management	Researching Sport Management	○
440	6	Sport Management	Sport Development and Management Concepts	○
441	6	Sport Management	Case study: Strategic attitude, Football	○
442	6	Sport Management	Case study: Sports strategic planning, Tennis	○
443	6	Sport Management	Management of Sport Delivery Systems	○
444	6	Sport Policy	Sport Policy	○
445	6	Sport Policy	Sport Development and Policy	○
446	6	Sport Studies	Sports	○
447	6	Sport Studies	Sport Studies	○
448	6	Sport Studies	Structure of sport	○
449	6	Sport Studies	Sport and Religion	○
450	6	Sport Studies	Special Topics in Sport and Recreation	○

<分野7: Facility Management の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
451	7	Event and Facility Management	Sports Facility and Event Management	○
452	7	Event and Facility Management	Sport and Event Facility Management	○
453	7	Event and Facility Management	Sports Event Planning and Facility Management	○
454	7	Event and Facility Management	Event and Facility Management for Sport Managers	○
455	7	Event and Facility Management	Strategic Sport Event and Venue Management	○
456	7	Event and Facility Management	Specialty C: Sustainable Management of Events and Facilities	
457	7	Event and Facility Management	Greening Sports and Events	○
458	7	Event and Facility Management	Safety in facilities and sporting events	○
459	7	Event and Facility Management	Security and Technology at Sports Facilities	○
460	7	Event and Facility Management	Volunteering management in events and sports facilities	○
461	7	Facility Management	Management of Sports Facilities	○
462	7	Facility Management	Case study: Facility management - Tennis, Football, Basketball, Motor	○
463	7	Facility Management	Case study: Operation of sports facilities	○
464	7	Facility Management	Case study: Communication in sports facilities	○
465	7	Facility Management	Venue Management: Principles and Practices	
466	7	Facility Management	Management of Sports Facility Operations	○
467	7	Facility Management	Sport Finance and Business Analytics Sport Facilities Operations Management	○
468	7	Facility Management	Sports facilities	○
469	7	Facility Management	Sport Facility Development and Construction	○
470	7	Facility Management	Global Sport Venues	○
471	7	Facility Management	Large Parks	
472	7	Facility Management	Golf Course Management	○
473	7	Facility Management	Management of Leisure and Non-Conventional Spaces	○
474	7	Facility Management	Infrastructure Management within a Sports Entity	○
475	7	Facility Management	Facility Management	

<分野8：Event Management の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
476	8	Event Management	Sport Event Management	○
477	8	Event Management	Recreation and Event Management Concentration	○
478	8	Event Management	International Sport Event Management	○
479	8	Event Management	Organization and management of sporting events	○
480	8	Event Management	Sports organizations and event management	○
481	8	Event Management	Organization of Sporting Events	○
482	8	Event Management	Sport and Entertainment Event Development	○
483	8	Event Management	Sporting Events and Brand Profitability	○
484	8	Event Management	Managing Sports Events	○
485	8	Event Management	Production of Sporting Events	○
486	8	Event Management	Event Management	
487	8	Event Management	Event Management and Liabilities	
488	8	Event Management	Strategic Event Management	
489	8	Event Management	Conference and Exposition Management	
490	8	Event Management	Preparation of social events	

<分野9: Internships and Business Project の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
491	9	Business Project	Sport Business Project	○
492	9	Business Project	Special Projects in Sport Business	○
493	9	Business Project	Supervised Projects	
494	9	Business Project	Strategic Planning Project	
495	9	Business Project	Work-Based Learning Project	
496	9	Business Project	Project (NonThesis Project Option)	
497	9	Independent Study	Advanced Independent Studies: Sport Management (1 - 4)	○
498	9	Independent Study	Independent Study in Sports	○
499	9	Independent Study	Independent Study	
500	9	Internships	Internship in Sport Management	○
501	9	Internships	Internship in Sport Administration	○
502	9	Internships	Internships	
503	9	Internships	Summer Internship Practicum Summer	
504	9	Internships	Graduate Internship	
505	9	Internships	Field Laboratory Internship All	
506	9	Internships	Internship Lab	
507	9	Internships	Externship	
508	9	Internships	Professional challenges	
509	9	Internships	Internship in Sport & Entertainment Management	○
510	9	Practicum	Practicum: Sport Management	○
511	9	Practicum	Practicum in Sports Administration	○
512	9	Practicum	Practicum	
513	9	Practicum	MBA Consulting Practicum	
514	9	Practicum	Management practice	
515	9	Practicum	Professional Experience module	
516	9	Practicum	International Experiences	
517	9	Seminar	New York Jets Real World	○
518	9	Seminar	MLBPA Real World	○
519	9	Seminar	Washington Redskins Game day Experience	○
520	9	Seminar	League1 football and PSG	○
521	9	Seminar	Participation in the Rendez-vous du sport (Cricket franchise in the Indian Premier League/Havas Sport)	○
522	9	Seminar	Academic Visit	
523	9	Seminar	Sports Business Seminar	○
524	9	Seminar	Sport Workshops	○
525	9	Seminar	Seminar	
526	9	Seminar	Emergency seminars	
527	9	Seminar	Speaker Series	

<分野 10 : Research Methods and Thesis の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
528	10	Exam	Comprehensive Exam	
529	10	Exam	Written examination	
530	10	Research Methods	Research Methods for Sport Management	○
531	10	Research Methods	Research Methods in Sport	○
532	10	Research Methods	Research Methods in Sports Administration	○
533	10	Research Methods	Sport Business Research Methods	○
534	10	Research Methods	Applied Sport Business Research	○
535	10	Research Methods	Sport Business Toolkit	○
536	10	Research Methods	Research Methods and Applications	
537	10	Research Methods	Research Methods	
538	10	Research Methods	Methods of Research in Education	
539	10	Research Methods	Research Project	
540	10	Research Methods	Research Paradigms	
541	10	Research Methods	Research Proposal	
542	10	Research Methods	Applied Business Research Tools	
543	10	Research Methods	Advanced Research Seminar	
544	10	Research Methods	Research Design	
545	10	Research Methods	Directed Readings and Research	
546	10	Research Methods	Introduction to Educational Statistics	
547	10	Research Methods	Intro to Educational Measurement	
548	10	Research Methods	Statistical Methods I	
549	10	Research Methods	Quantitative Methods for Business	
550	10	Research Methods	Quantitative Methods for Managers	
551	10	Research Methods	Applied Quantitative Methods	
552	10	Research Methods	Proof of prerequisite	
553	10	Research Methods	Writing and Speaking for Professionals	
554	10	Research Methods	Interviewing	
555	10	Research Methods	Methodologies and budget forecasting tools	
556	10	Research Methods	Literature Review and Dissertation Writing	
557	10	Research Methods	Tools and techniques	
558	10	Thesis	Thesis	
559	10	Thesis	Basis Descriptive and Inferential Statistics(Thesis Option)	
560	10	Thesis	Master Thesis & Colloquium	
561	10	Thesis	Thesis Preparation	
562	10	Thesis	Dissertation (writing and defense)	
563	10	Thesis	Master's Project	

<分野 11 : Career Development の科目一覧>

No.	分野No.	分野詳細	科目	スポーツ 関連用語 含む
564	11	Career Development	Self-discovery through Career Coaching	
565	11	Career Development	Becoming a Football Executive	○
566	11	Career Development	Speaking	
567	11	Career Development	Keys to Success and Failure	
568	11	Career Development	Self-transformation through Executive Connections	
569	11	Career Development	Intellectual Fusion Learning Labs	
570	11	Career Development	Global Professional Development-Consultancy Postgraduate Dissertation/Consultancy Project	
571	11	Career Development	Specialization Teaching	
572	11	Career Development	Workshops and CVs	
573	11	Career Development	Excel	
574	11	Language	Sports English (Premier League, First Division)	○
575	11	Language	Sports French (Division d'Honneur, Premiere Division)	○
576	11	Language	LV1 Business English / TOEIC	
577	11	Language	Spanish	
578	11	Language	German	
579	11	Language	Italian	
580	11	Language	GoFluent (e-learning)	
581	11	Optional Courses	Sexuality and Education	
582	11	Optional Courses	Optional Courses	
583	11	Optional Courses	Capstone	
584	11	Optional Courses	Training Placements	
585	11	Optional Courses	Special Problems	
586	11	Optional Courses	Selected Topics	
587	11	Optional Courses	Project Voltaire and Cross knowledge (e-learning)	

次に、計 37 コースで実施されている科目の延べ数を分野毎に集計した。科目数は、科目の種類でカウントしているため 587 科目だが、ホームページで紹介された開講科目が複数のコースで同じ科目名称であってもすべて合計した開講科目の延べ数は 745 科目となる。

分野 No.	分野	科目		全37コース		コース類型別					
		科目数	割合	科目実施 の延べ数	割合	コース類型1		コース類型2		コース類型3	
						科目実施 の延べ数	割合	科目実施 の延べ数	割合	科目実施 の延べ数	割合
1	General Management	153	26.1%	195	26.2%	80	21.4%	36	31.9%	79	30.5%
	スポーツ関連用語含む	68	11.6%	90	12.1%	53	14.2%	16	14.2%	21	8.1%
	スポーツ関連用語含まない	85	14.5%	105	14.1%	27	7.2%	20	17.7%	58	22.4%
2	Marketing and Communications	113	19.3%	153	20.5%	75	20.1%	24	21.2%	54	20.8%
	スポーツ関連用語含む	56	9.5%	86	11.5%	49	13.1%	15	13.3%	22	8.5%
	スポーツ関連用語含まない	57	9.7%	67	9.0%	26	7.0%	9	8.0%	32	12.4%
3	Finance and Accounting	55	9.4%	69	9.3%	34	9.1%	8	7.1%	27	10.4%
	スポーツ関連用語含む	16	2.7%	20	2.7%	15	4.0%	1	0.9%	4	1.5%
	スポーツ関連用語含まない	39	6.6%	49	6.6%	19	5.1%	7	6.2%	23	8.9%
4	Economics	17	2.9%	22	3.0%	7	1.9%	5	4.4%	10	3.9%
	スポーツ関連用語含む	9	1.5%	13	1.7%	7	1.9%	2	1.8%	4	1.5%
	スポーツ関連用語含まない	8	1.4%	9	1.2%	0	0.0%	3	2.7%	6	2.3%
5	Business and Sport Analytics	20	3.4%	28	3.8%	10	2.7%	7	6.2%	11	4.2%
	スポーツ関連用語含む	10	1.7%	18	2.4%	9	2.4%	5	4.4%	4	1.5%
	スポーツ関連用語含まない	10	1.7%	10	1.3%	1	0.3%	2	1.8%	7	2.7%
6	Sport Studies	92	15.7%	100	13.4%	63	16.9%	13	11.5%	24	9.3%
	スポーツ関連用語含む	92	15.7%	100	13.4%	63	16.9%	13	11.5%	24	9.3%
	スポーツ関連用語含まない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	Facility Management	25	4.3%	32	4.3%	21	5.6%	3	2.7%	8	3.1%
	スポーツ関連用語含む	21	3.6%	27	3.6%	17	4.6%	3	2.7%	7	2.7%
	スポーツ関連用語含まない	4	0.7%	5	0.7%	4	1.1%	0	0.0%	1	0.4%
8	Event Management	15	2.6%	17	2.3%	8	2.1%	2	1.8%	7	2.7%
	スポーツ関連用語含む	10	1.7%	11	1.5%	3	0.8%	2	1.8%	6	2.3%
	スポーツ関連用語含まない	5	0.9%	6	0.8%	5	1.3%	0	0.0%	1	0.4%
9	Internships and Business Project	37	6.3%	53	7.1%	28	7.5%	7	6.2%	18	6.9%
	スポーツ関連用語含む	16	2.7%	21	2.8%	12	3.2%	4	3.5%	5	1.9%
	スポーツ関連用語含まない	21	3.6%	32	4.3%	16	4.3%	3	2.7%	13	5.0%
10	Research Methods and Thesis	36	6.1%	51	6.8%	36	9.7%	5	4.4%	10	3.9%
	スポーツ関連用語含む	6	1.0%	7	0.9%	6	1.6%	0	0.0%	1	0.4%
	スポーツ関連用語含まない	30	5.1%	44	5.9%	30	8.0%	5	4.4%	9	3.5%
11	Career Development	24	4.1%	25	3.4%	11	2.9%	3	2.7%	11	4.2%
	スポーツ関連用語含む	3	0.5%	3	0.4%	2	0.5%	0	0.0%	1	0.4%
	スポーツ関連用語含まない	21	3.6%	22	3.0%	9	2.4%	3	2.7%	10	3.9%
計		587		745		373		113		259	

次に、全 37 コースと、コース類型毎にどの分野が重要視されているかを見るために、科目実施延べ数が多い順に分野を並べた。

■全 37 コース対象

①-1 分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	195	26.2%
2	2	Marketing and Communications	153	20.5%
3	6	Sport Studies	100	13.4%
4	3	Finance and Accounting	69	9.3%
5	9	Internships and Business Project	53	7.1%
6	10	Research Methods and Thesis	51	6.8%
7	7	Facility Management	32	4.3%
8	5	Business and Sport Analytics	28	3.8%
9	11	Career Development	25	3.4%
10	4	Economics	22	3.0%
11	8	Event Management	17	2.3%
計			745	

①-2 スポーツ関連用語を含む分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	6	Sport Studies	100	25.3%
2	1	General Management	90	22.7%
3	2	Marketing and Communications	86	21.7%
4	7	Facility Management	27	6.8%
5	9	Internships and Business Project	21	5.3%
6	3	Finance and Accounting	20	5.1%
7	5	Business and Sport Analytics	18	4.5%
8	4	Economics	13	3.3%
9	8	Event Management	11	2.8%
10	10	Research Methods and Thesis	7	1.8%
11	11	Career Development	3	0.8%
計			396	

①-3 スポーツ関連用語を含まない分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	105	30.1%
2	2	Marketing and Communications	67	19.2%
3	3	Finance and Accounting	49	14.0%
4	10	Research Methods and Thesis	44	12.6%
5	9	Internships and Business Project	32	9.2%
6	11	Career Development	22	6.3%
7	5	Business and Sport Analytics	10	2.9%
8	4	Economics	9	2.6%
9	8	Event Management	6	1.7%
10	7	Facility Management	5	1.4%
11	6	Sport Studies	0	0.0%
計			349	

■コース類型1（スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース）

コース類型1「スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース」の場合、スポーツ関連用語を含む科目が236科目、スポーツ関連用語を含まない科目が137科目となり、スポーツ関連用語を含む科目が多く設置されていた。

②-1 分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	80	21.4%
2	2	Marketing and Communications	75	20.1%
3	6	Sport Studies	63	16.9%
4	10	Research Methods and Thesis	36	9.7%
5	3	Finance and Accounting	34	9.1%
6	9	Internships and Business Project	28	7.5%
7	7	Facility Management	21	5.6%
8	11	Career Development	11	2.9%
9	5	Business and Sport Analytics	10	2.7%
10	8	Event Management	8	2.1%
11	4	Economics	7	1.9%
計			373	

②-2 スポーツ関連用語を含む分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	6	Sport Studies	63	26.7%
2	1	General Management	53	22.5%
3	2	Marketing and Communications	49	20.8%
4	7	Facility Management	17	7.2%
5	3	Finance and Accounting	15	6.4%
6	9	Internships and Business Project	12	5.1%
7	5	Business and Sport Analytics	9	3.8%
8	4	Economics	7	3.0%
9	10	Research Methods and Thesis	6	2.5%
10	8	Event Management	3	1.3%
11	11	Career Development	2	0.8%
計			236	

① -3 スポーツ関連用語を含まない分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	10	Research Methods and Thesis	30	21.9%
2	1	General Management	27	19.7%
3	2	Marketing and Communications	26	19.0%
4	3	Finance and Accounting	19	13.9%
5	9	Internships and Business Project	16	11.7%
6	11	Career Development	9	6.6%
7	8	Event Management	5	3.6%
8	7	Facility Management	4	2.9%
9	5	Business and Sport Analytics	1	0.7%
10	4	Economics	0	0.0%
11	6	Sport Studies	0	0.0%
計			137	

■コース類型2（スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース）

コース類型2（スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース）の場合、スポーツ関連用語を含む科目が62科目、スポーツ関連用語を含まない科目が52科目となり、スポーツ関連用語を含む科目と含まない科目がほぼ同数設置されていた。

③-1 分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	36	31.9%
2	2	Marketing and Communications	24	21.2%
3	6	Sport Studies	13	11.5%
4	3	Finance and Accounting	8	7.1%
5	5	Business and Sport Analytics	7	6.2%
6	9	Internships and Business Project	7	6.2%
7	4	Economics	5	4.4%
8	10	Research Methods and Thesis	5	4.4%
9	7	Facility Management	3	2.7%
10	11	Career Development	3	2.7%
11	8	Event Management	2	1.8%
計			113	

③-2 スポーツ関連用語を含む分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	16	26.2%
2	2	Marketing and Communications	15	24.6%
3	6	Sport Studies	13	21.3%
4	5	Business and Sport Analytics	5	8.2%
5	9	Internships and Business Project	4	6.6%
6	7	Facility Management	3	4.9%
7	4	Economics	2	3.3%
8	8	Event Management	2	3.3%
9	3	Finance and Accounting	1	1.6%
10	10	Research Methods and Thesis	0	0.0%
11	11	Career Development	0	0.0%
計			61	

② -3 スポーツ関連用語を含まない分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	20	38.5%
2	2	Marketing and Communications	9	17.3%
3	3	Finance and Accounting	7	13.5%
4	10	Research Methods and Thesis	5	9.6%
5	4	Economics	3	5.8%
6	9	Internships and Business Project	3	5.8%
7	11	Career Development	3	5.8%
8	5	Business and Sport Analytics	2	3.8%
9	6	Sport Studies	0	0.0%
10	7	Facility Management	0	0.0%
11	8	Event Management	0	0.0%
計			52	

■コース類型3（経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース）

コース類型3（経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース）の場合、スポーツ関連用語を含む科目が99科目、スポーツ関連用語を含まない科目が160科目となり、スポーツ関連用語を含まない科目が多く設置されていた。

④-1 分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	79	30.5%
2	2	Marketing and Communications	54	20.8%
3	3	Finance and Accounting	27	10.4%
4	6	Sport Studies	24	9.3%
5	9	Internships and Business Project	18	6.9%
6	5	Business and Sport Analytics	11	4.2%
7	11	Career Development	11	4.2%
8	4	Economics	10	3.9%
9	10	Research Methods and Thesis	10	3.9%
10	7	Facility Management	8	3.1%
11	8	Event Management	7	2.7%
計			259	

④-2 スポーツ関連用語を含む分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	6	Sport Studies	24	24.2%
2	2	Marketing and Communications	22	22.2%
3	1	General Management	21	21.2%
4	7	Facility Management	7	7.1%
5	8	Event Management	6	6.1%
6	9	Internships and Business Project	5	5.1%
7	3	Finance and Accounting	4	4.0%
8	4	Economics	4	4.0%
9	5	Business and Sport Analytics	4	4.0%
10	10	Research Methods and Thesis	1	1.0%
11	11	Career Development	1	1.0%
計			99	

③ -3 スポーツ関連用語を含まない分野別科目延べ数

RANK	分野No.	分野	科目実施の延べ数	割合
1	1	General Management	58	36.3%
2	2	Marketing and Communications	32	20.0%
3	3	Finance and Accounting	23	14.4%
4	9	Internships and Business Project	13	8.1%
5	11	Career Development	10	6.3%
6	10	Research Methods and Thesis	9	5.6%
7	5	Business and Sport Analytics	7	4.4%
8	4	Economics	6	3.8%
9	7	Facility Management	1	0.6%
10	8	Event Management	1	0.6%
11	6	Sport Studies	0	0.0%
計			160	

次に、分野詳細ごとの科目実施の延べ数を次の表にて記載した。

分野詳細についてもコース類型による差異がみられた。大きくまとめるとコース類型1では分野においてもスポーツ関連用語を含む科目名が多い傾向にあるが、コース類型3であっても Sport studies、Facility management、Event management はスポーツ関連用語を含む科目が多くなっていた。

コース類型1：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース
 コース類型2：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース
 コース類型3：経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース

分野No.	分野名	分野詳細	科目実施の延べ数	コース類型別		
				コース類型1	コース類型2	コース類型3
1	General Management		195	80	36	79
	スポーツ関連用語含む		90	53	16	21
	Business		1	0	0	1
	Conflict and Dispute		1	1	0	0
	CSR		3	1	0	2
	Entrepreneurship		4	2	0	2
	Ethical Issues		6	3	1	2
	Governance		8	6	1	1
	Human Resource		4	4	0	0
	Labor		3	1	1	1
	Leadership		9	7	1	1
	Legal		3	2	1	0
	Negotiation		1	1	0	0
	Organization/Association Management		5	1	1	3
	Organizational Behavior		3	2	1	0
	Policy		3	2	1	0
	Sport Business		3	0	1	2
	Sport Law		24	13	6	5
	Strategic Management		8	6	1	1
	Sustainability		1	1	0	0
	スポーツ関連用語含まない		105	27	20	58
	Business		17	4	4	9
	Conflict and Dispute		2	1	0	1
	CSR		1	0	0	1
	Entrepreneurship		7	5	1	1
	Ethical Issues		6	2	2	2
	General Management		17	4	0	13
	Global Management		4	0	1	3
	Human Resource		4	2	0	2
	Information System		6	0	1	5
	Leadership		12	1	4	7
	Legal		2	0	1	1
	Negotiation		6	3	1	2
	Organization/Association Management		6	2	1	3
	Organizational Behavior		4	1	1	2
	Policy		3	0	1	2
	Strategic Management		1	0	0	1
	Supply Chain		5	0	2	3
	Sustainability		2	2	0	0

コース類型1：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース
 コース類型2：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース
 コース類型3：経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース

分野No.	分野名	分野詳細	科目実施の延べ数	コース類型別		
				コース類型1	コース類型2	コース類型3
2	Marketing and Communications		153	75	24	54
	スポーツ関連用語含む		86	49	15	22
	Branding		2	1	1	0
	Broadcasting		2	0	2	0
	Digital Marketing		4	2	0	2
	International Marketing		1	0	1	0
	Marketing		1	1	0	0
	Marketing Research		1	1	0	0
	Marketing Strategy		2	1	0	1
	Media		13	8	2	3
	Promotion		5	3	1	1
	Right		1	0	0	1
	Sales		4	0	3	1
	Sponsorship		12	7	0	5
	Sport Communication		8	6	0	2
	Sport Marketing		30	19	5	6
	スポーツ関連用語含まない		67	26	9	32
	Advertising		4	2	0	2
	Branding		5	2	0	3
	Communication		13	9	0	4
	Digital Marketing		7	4	2	1
	International Marketing		1	1	0	0
	Marketing		15	4	3	8
	Marketing Management		7	1	2	4
	Marketing Research		6	2	1	3
	Marketing Strategy		2	0	0	2
	Media		2	0	0	2
	Public Relations		2	0	1	1
	Right		1	0	0	1
	Sales		1	1	0	0
	Sponsorship		1	0	0	1
3	Finance and Accounting		69	34	8	27
	スポーツ関連用語含む		20	15	1	4
	Accounting		3	2	0	1
	Finance		14	11	0	3
	Revenue Management		3	2	1	0
	スポーツ関連用語含まない		49	19	7	23
	Accounting		14	3	3	8
	Finance		33	14	4	15
	Revenue Management		2	2	0	0
4	Economics		22	7	5	10
	スポーツ関連用語含む		13	7	2	4
	Economics		13	7	2	4
	スポーツ関連用語含まない		9	0	3	6
	Economics		9	0	3	6
5	Business and Sport Analytics		28	10	7	11
	スポーツ関連用語含む		18	9	5	4
	Data Analysis		1	0	0	1
	Data Analytics		1	1	0	0
	Sport Analytics		16	8	5	3
	スポーツ関連用語含まない		10	1	2	7
	Data Analysis		1	0	0	1
	Data Analytics		9	1	2	6

コース類型1：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース
 コース類型2：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース
 コース類型3：経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース

分野No.	分野名	分野詳細	科目実施の 延べ数	コース類型別		
				コース 類型1	コース 類型2	コース 類型3
6	Sport Studies		100	63	13	24
	スポーツ関連用語含む		100	63	13	24
	Athlete Management		2	1	1	0
	Clubs		3	1	0	2
	Coaching		4	3	0	1
	College Sports		11	8	2	1
	e-Sports		2	1	1	0
	Fan/Supporter		3	1	1	1
	Global/International Environment		7	4	2	1
	Management in Recreation and Sport		2	1	1	0
	Modern Sport		5	3	0	2
	Olympic Studies		4	3	0	1
	Sport and Culture		4	4	0	0
	Sport and Diversity		1	1	0	0
	Sport and Gender		2	1	0	1
	Sport and Society		4	2	0	2
	Sport History		5	5	0	0
	Sport Humanity		1	1	0	0
	Sport Industry		9	2	2	5
	Sport Management		24	15	2	7
	Sport Policy		2	2	0	0
	Sport Studies		5	4	1	0
	スポーツ関連用語含まない		0	0	0	0
7	Facility Management		32	21	3	8
	スポーツ関連用語含む		27	17	3	7
	Event and Facility Management		11	7	2	2
	Facility Management		16	10	1	5
	スポーツ関連用語含まない		5	4	0	1
	Event and Facility Management		1	1	0	0
	Facility Management		4	3	0	1
8	Event Management		17	8	2	7
	スポーツ関連用語含む		11	3	2	6
	Event Management		11	3	2	6
	スポーツ関連用語含まない		6	5	0	1
	Event Management		6	5	0	1
9	Internships and Business Project		53	28	7	18
	スポーツ関連用語含む		21	12	4	5
	Business Project		2	1	0	1
	Independent Study		2	1	1	0
	Internships		7	5	1	1
	Practicum		2	2	0	0
	Seminar		8	3	2	3
	スポーツ関連用語含まない		32	16	3	13
	Business Project		5	2	1	2
	Independent Study		2	1	0	1
	Internships		15	8	2	5
	Practicum		6	3	0	3
	Seminar		4	2	0	2

コース類型1：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツマネジメントを取り扱うコース
 コース類型2：スポーツ関連の修士学位の中でスポーツビジネスを取り扱うコース
 コース類型3：経営学修士（MBA）の中でスポーツマネジメント・ビジネスを取り扱うコース

分野No.	分野名	分野詳細	科目実施の 延べ数	コース類型別		
				コース 類型1	コース 類型2	コース 類型3
10	Research Methods and Thesis		51	36	5	10
	スポーツ関連用語含む		7	6	0	1
	Research Methods		7	6	0	1
	スポーツ関連用語含まない		44	30	5	9
	Exam		2	1	0	1
	Research Methods		25	18	3	4
	Thesis		17	11	2	4
11	Career Development		25	11	3	11
	スポーツ関連用語含む		3	2	0	1
	Career Development		1	0	0	1
	Language		2	2	0	0
	スポーツ関連用語含まない		22	9	3	10
	Career Development		9	2	3	4
	Language		5	0	0	5
	Optional Courses		8	7	0	1
		総計	745	373	113	259

(2) 国内有識者へのインタビュー調査

○インタビュー対象者

TEAM MARKETING Head of Asia Sales 岡部泰英氏

日本コカ・コーラ株式会社 東京オリンピックゼネラルマネージャー 高橋オリバー氏

大阪経済大学教授 半田裕氏

日本トライアスロン連合 大塚眞一郎氏

楽天株式会社 石川智哉氏

パシフィックリーグマーケティング株式会社 根岸友喜氏

DMM COO 村中悠介氏

IMG Global Partnerships and Olympics ディレクター 斎藤麻美氏

ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 デボラ・ジョーンズ氏

以下、匿名でインタビュー内容をまとめて報告する。

1. スポーツビジネスに関係する既存の大学院では、効果的なスポーツ関連業界との連携がなされていないという委託調査の結果があります。そこでどのようなスポーツ関連業界とのかかわりが必要だと考えられますか？

- ・スポーツ MBA は転職のきっかけにならない。今までの日本では研究者養成が目的であったが、スポーツ MBA の場合は、実務者養成でなければいけない。
- ・スポーツの中でビジネスをやろうとするのではなく、ビジネスの中でスポーツを活用するといったような視点が重要である。このような視点を持ったスポーツ MBA コースが設置されることはとても有意義である。
- ・グローバルに通用するスポーツ経営人材育成において、スポーツ MBA コースの設置は、私個人は特に必要とは思っておらず、いわゆる通常の MBA カリキュラムの中の 1 コマ、あるいはケーススタディの 1 つにスポーツビジネスに関するお題があれば良い。
- ・スポーツをマーケティングしてビジネスに活かせる人材が必要不可欠である。そういった人材を大学院が輩出し、そういった人材と企業が出会える場として、大学院が位置づくことも必要である。各企業が自社でスポーツマーケティングの専門家を雇えるようになるのがよい。
- ・企業のスポーツマーケティング部で活躍できるような人材が非常に必要である。そういった人材を育てるためには、スポーツの中でビジネスをやろうとするのではなく、ビジネスの中でスポーツを活用するといったような視点が重要である。このような視点を持ったスポーツ MBA コースが設置されることはとても有意義である。
- ・スポーツマーケティングのスペシャリストは転職専門会社にもあまりいないと聞いている。そのため、企業からのニーズが強いけれども、人材の供給が不足している。そういった意味でもスポーツ MBA 設置の可能性/意義は強いと考えられる。

○スポーツ関連業界と地理的に近いことが重要でしょうか？

- ・東京が中心になるだろうが、地方を含めることが理想である。現状、地方格差が大きい。東京を 10 とすると、メジャーな地方都市は、情報リテラシーが 4 割減となり、スポーツビジネスに対するアンテナがぜんぜん違う。
- ・東京都内にスポーツ MBA コースを設置すべきだと思う。都内であれば、有力な講師（話し手）が集まり易い。
- ・施設が揃っている東京が良いと思う。また、夏だったら東京、冬だったら長野など、オリンピックのレガシーを活用する必要もある。
- ・地理的優位性が重要である。まずは、アジア、Go East である。アジアを念頭にした場合、地理的優位性を持っているのは、福岡と札幌である。
- ・実践の場も必要だと思うので、実践を行っている業界と関わる必要がある。興行系スポーツ、

参加型スポーツ、底辺型スポーツなどセグメントして戦略的に関わっていく必要がある。また、アメリカのスポーツ MBA やヨーロッパスポーツなども学ばなければいけない。こういったことを考えると東京だと思う。

○スポーツ関連業界との出会いがあることは学生、スポーツ関連業界双方にとって有益かと思われませんが、どのように機会を提供することが良いのでしょうか？

・受講者は、自分の仕事をしながら（やめなくても）、副業としてスポーツ産業にインターンシップとしてチャレンジできるというアカデミックの強みを活かす。

・大学院では学ぶ場だけでなく、企業や出資者と学生が出会えるような場/機会を提供した方がよい。大学院が大企業やベンチャーなど様々な企業と出会える場となれば、スポーツ関連業界および学生の双方にとって有益である。

・スポーツ界は人を大切にすることがわかっていない。人材への投資をどこまで真剣に考えているのか。新しい人材が新しいことを生むことで、面白いプロジェクトが始まる。200万円の人を3人雇っても、1000万円の人1人に勝てないこともある。そういうことをどこまで理解しているのか。こういうことがスポーツ業界の課題だと思う。そういうことをわかっていない企業に、できる人を行かせても使いこなせないのではないか。

・スポーツビジネス大学院のプログラムの教育課程、応用課程、実践課程などで、ある程度のランクを超えた人には国際オリンピック委員会（以下、IOC）や国際スポーツ競技連盟（以下、IF）に雇ってもらう形にしたらい。そのためにスポーツ庁が先頭に立って、スポーツビジネス大学院の協力団体を作っておく必要がある。

○「スポーツMBA」コースの同窓会や修了生のネットワークをどのように活かすとよいでしょうか？

・紹介で入る人は信用できるし、入った人は頑張るので採用しやすい。スポーツ MBA 修了生でも、信頼のある人からの紹介があるとよい。紹介でなどミスマッチングが起りやすい。世の中的にもリファラルが増えている。IT 業界のエンジニアは売り手市場でリファラルが成立しているが、そういうことがやれるといい。

・例えば、ワールドラグビーのトーナメント戦のスタッフを探す場合、短期間でも地方に行く人材集めが難航している。スポーツ MBA の学生がいれば、ジョブポジションのオファーの際に声が掛けやすいため、システムを構築すれば、地方のスポーツ大会主催者と修了生の両者にメリットができると考える。

2. 「スポーツMBA」コースの教育の質についてお尋ねします。

○どのような教育コンテンツ（講義内容及びインターンシップなどの実践科目等）が必要でしょうか？

- ・日本が弱いのは「Analytics」、「リサーチマーケティング」、「プロモーション」、「イベントマネジメント」である。
- ・スポーツアナリティクス、スポーツマーケティング、マーケティングリサーチ、スポンサーセールス&マネジメントなど重要と思えることは多い。ただ、学んだことを活かすことで、結果として企業のROIが上がる必要がある。
- ・スポーツビジネス、スポーツアナリティクスに加えブランド・マーケティングやデジタルマーケティングを学んで価値創造をしないとイケない。
- ・スポーツ業界の構造、歴史的背景、スポーツマネジメントの進化歴などの座学を是非学んで欲しい。また、ファンダメンタルがない学生ならば、いわゆるMBAの基礎（ファイナンス、アカウンティングなど）は必須である。
- ・International Business という科目も入れたほうがよい。
- ・オリンピック教育がコンテンツとしてあると良い。世界最大のイベントがどういう理念で実施されているか知っておくべきである。
- ・学んだことを活かすことで、結果として企業のROIが上がる必要がある。
- ・入学から卒業までに、スポーツ業界でどのようなことができそうかを、キャリアカウンセリング出来ること。それは、単に企業に勤めるだけでなく、スタートアップを立ち上げる、企業でスポーツ関連の新規事業を手掛ける、もしくは企業のトップになるなど、どのようなことが出来るのかなのか、カウンセリングを行う。
- ・スポーツビジネスの基礎やターミノロジーのような基礎を3~5割くらい入れる必要がある。
- ・人材育成の先にスポーツ産業の15兆円化があるのだとしたら、修了生には日本に利益をもたらして欲しい。国際化することがマターではない。それだったらスポーツMBAをこれから活かす先は日本企業かもしれない。もしくは海外へ行ったとしても日本に利益をもたらしてくれることが大事。スポーツMBAを取った後は、海外留学（アリババスポーツやワンダースポーツ）で日本に関わるスポーツビジネスを実践で学び、戻ってくる仕組みなど、設計をしっかりと考える必要がある。
- ・スポーツのビジネスは多岐にわたっており、その中での法律的な問題、税法的な問題を伝えるべきである。
- ・収益構造に対するレクチャーも必要。自分たちがビジネスモデルを考えるために必要な情報が授業になっていると良い。ヨーロッパサッカー連盟（以下、UEFA）がどう収益を得て、どう分配して、どう還元しているか、また、IOCの内情や金の流れなど、そういうことを知っている人材が必要。それは外人の講師でもいいと思う。

- ・教育コンテンツとしてはコマーシャル・スポンサーシップ、マーケティング、チケットイング、プロモーション、オペレーションが良い。毎年実施されるメジャーイベントのプロジェクト・マネジメントを学ぶこともコンテンツとして良い。その際、規模が違うスポーツイベント（大小）を体験することも良い機会になる。

○教授陣もしくは講師についてはどのようなことが求められますか？

- ・なるべく多くの実務者をゲストスピーカーとして呼びつつ、俯瞰的に教育プログラムとしてプロデュースやコーディネートするのは教員の役割である。専任教員が授業をすべて行うのは辞めた方がよい。あくまでも、黒子として幅広いゲストスピーカーをプロデュースするのが大事である。プロフェッサーとプロデューサー、メインなアクターにならなくて良い。総括的な理解のもとに、アクター（社長など）を連れてくるのが大事である。

- ・教授陣もしくは講師には、企業の中でスポーツビジネスを通して実績を上げたことがある人、外国のケースを教えられる人、出資者となりえる人を具体的な教育計画に落とせるようなプロデュース及びコーディネートできる人材がコースを運営できると良い。

- ・幅広いすべての利害関係者が、教授や講師として加わった方がよい。

- ・客員教員に出資者がいて、大学院の中でいい案を出した学生には、その場で出資が決まるような感じになると良い。

- ・歴史や文化を語れる必要はない。今から5～10年後のスポーツビジネスを語れる人材、スポーツビジネスに重要な最低限のライセンスのプロテクトの専門家が必要である。そういった多様な講師を授業カリキュラムとして設計できるプロデューサー的な人が教員として必要である。

○設置した大学や協力する組織のブランド力は必要でしょうか？

- ・誰が学生（顧客）かによる。日本のスポーツを経営してくれる人材をつくりたいのか、アジア的に活躍する人を輩出するのか。

- ・筑波大学のTIASが特定の競技の協会や企業ではなく、IOCが設立した大学院（AISTS）と組んでいるところに価値がある。

- ・大学、スポーツ組織のアライアンスは必要である。可能であれば、別のアライアンス・グループの中に、トヨタやNTTなど大企業がいたら全く違うブランド力が見えると思う。

- ・ビジネスで成功していて前例や事例を語れる立場からもスポーツ産業を応援するという形を作ったほうが良い。その先にアライアンスを創った方がスポーツ庁にとっても有益だろう。講座にトヨタから講師を送り込んでくれるかもしれない。

- ・

3. 入学する学生の質についてお尋ねします。

○どのような学生（学生の質・多様性・バックグラウンド）を入学させるべきでしょうか？

・スポーツ業界で働いて、スポーツ業界を進歩させる学生を輩出することを目的とすると、IT系の人（特に外資・・・GAF A・Netflixなど）、日本で言う地頭の良い人（広告代理店、銀行、損保など）、法律系（Lawyer系）、FMCG系のマーケティングのプロフェッショナルなどがよい。

・スポーツ MBA コース入学者のうち、8割は成績のよい学生だろうけれど、残りの2割は先生が面白い/可能性があると思った学生を入学させたい。

・最低限の基礎的な知識があること。もう一つは、新規プロジェクトを創り上げられること。

・MBA フォルダーと言うよりも、ハーバードや MIT などの厳しい状況を乗り越えた根性を持った人材が良い。出来れば、社会人歴もある程度は有していて欲しい。イメージとしては、社会人を経験した後、厳しい環境でスポーツ MBA を取得するような根性を持ち合わせていて、プロジェクトをリードしてくれるような人材が良い。しかし、実際には今はまだスポーツマーケティングを理解している人材自体が少ないので、スポーツマーケティングを知っているだけでも現状では良いのかもしれない。海外のトップとは言わないものの、京大 MBA や一橋 MBA と遜色ないような人材が良いと思う。

・入学までにある程度の英語力は必要である。マネジメントレベルでは、ミーティングは英語で実施されるためビジネスレベルの英語力が求められる。

○企業もしくはスポーツ団体が欲しいと思う優秀な学生の基準はどうお考えでしょうか？

・既存の方法で当たり前物事を進めるのではなく、より良い方法を提案し、実行するエネルギーがある人で、会社の基準で満足するのではなく向上心が高い人を採用したいと考える。

(3) 入口調査

「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」

【調査概要】（再掲）

本調査では、スポーツ MBA に対する市場ニーズを確認するため、体育学を学んだ筑波大学体育専門学群卒業生を対象とした入学関心について調査票調査を実施した。調査対象者は筑波大学体育専門学群が管理する卒業生連絡リストにある 1390 名とした。結果サンプル数は 258 名である。
（回収率 19%）

a. 調査対象

- ・ビジネススクール入学生の年齢層を想定した 20 代～30 代の卒業生
- ・性別、業種を限定しない
- ・サンプル数：回収ベース 258

b. 調査方法

調査対象者に対し、Questant による Web 質問票調査を実施する。
実施時期は 1 月。

c. 調査項目

- ・背景情報（卒業年、性別、業種、職位）
- ・スポーツ MBA に対するニーズ意識
- ・スポーツ MBA への入学で重視すること
- ・英語プログラムの必要性
- ・スポーツ MBA で身に着けるべき能力
- ・スポーツ MBA 修了者の採用意向
- ・修士学位の必要性
- ・スポーツ MBA への入学意向

d. 分析方法

- ・基礎統計およびクロス集計

Q1 卒業年

最初に、あなたご自身のことについてお聞かせください。

筑波大学体育系の卒業年はいつですか。

- 2001～2014年までの卒業生が12.4%と1割強であり、2018年～2015年までの4年間の卒業生で9割程度を占める。

			2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	2010年
		横%	全体(N)								
全体		258	31.8	22.1	18.2	15.5	3.1	0.0	2.3	0.0	
性別	男性	172	33.1	23.3	18.6	14.0	2.9	0.0	1.7	0.0	
	女性	86	29.1	19.8	17.4	18.6	3.5	0.0	3.5	0.0	
業種スポーツ 関連別	携わっている	139	30.9	23.7	18.0	13.7	2.9	0.0	2.9	0.0	
	携わっていない	119	32.8	20.2	18.5	17.6	3.4	0.0	1.7	0.0	
業種別	教育	82	25.6	18.3	18.3	19.5	3.7	0.0	3.7	0.0	
	製造業	25	32.0	20.0	24.0	12.0	8.0	0.0	4.0	0.0	
	サービス	21	28.6	33.3	14.3	19.0	4.8	0.0	0.0	0.0	
	スポーツ	20	40.0	25.0	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	└アスリート	14	28.6	28.6	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	販売・流通	19	21.1	31.6	21.1	21.1	0.0	0.0	5.3	0.0	
	IT、ソフトウェア、通信	14	71.4	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	学生	12	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	広告・放送・マスコミ	11	45.5	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	金融・保険	10	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	運輸・エネルギー	8	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	コンサルティング	8	0.0	25.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	
	官庁・国際機関	6	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	
	建設業	5	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	公務員	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	製薬・医療機器	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
医療・福祉	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
その他	9	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0		
職位別	役職あり	11	18.2	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0	
	一般職	247	32.4	23.1	18.6	15.4	2.8	0.0	1.6	0.0	

			2010年	2009年	2008年	2007年	2006年	2005年	2004年	2003年
		横%								
		全体(N)								
全体		258	1.2	0.4	1.2	0.8	0.8	1.6	0.4	0.8
性別	男性	172	0.6	0.6	1.2	1.2	1.2	1.2	0.0	0.6
	女性	86	2.3	0.0	1.2	0.0	0.0	2.3	1.2	1.2
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	0.7	0.0	1.4	0.7	1.4	2.2	0.7	0.7
	携わっていない	119	1.7	0.8	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8
業種別	教育	82	2.4	0.0	1.2	1.2	2.4	2.4	1.2	0.0
	製造業	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サービス	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スポーツ	20	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	└アスリート	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	販売・流通	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	金融・保険	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	運輸・エネルギー	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	コンサルティング	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	官庁・国際機関	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	建設業	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	公務員	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療・福祉	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	
職位別	役職あり	11	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
	一般職	247	1.2	0.0	0.8	0.8	0.8	1.6	0.4	0.4

		2020年		2021年		2022年	
		横%					
		全体(N)					
全体		258	0.0	0.0	12.4		
性別	男性	172	0.0	0.0	11.0		
	女性	86	0.0	0.0	15.1		
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	0.0	0.0	13.7		
	携わっていない	119	0.0	0.0	10.9		
業種別	教育	82	0.0	0.0	18.3		
	製造業	25	0.0	0.0	12.0		
	サービス	21	0.0	0.0	4.8		
	スポーツ	20	0.0	0.0	10.0		
	レジャー	14	0.0	0.0	7.1		
	販売・流通	19	0.0	0.0	5.3		
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	0.0	0.0		
	学生	12	0.0	0.0	0.0		
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	0.0	0.0		
	金融・保険	10	0.0	0.0	0.0		
	運輸・エネルギー	8	0.0	0.0	0.0		
	コンサルティング	8	0.0	0.0	37.5		
	官庁・国際機関	6	0.0	0.0	33.3		
	建設業	5	0.0	0.0	0.0		
	公務員	4	0.0	0.0	0.0		
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	0.0		
	医療・福祉	2	0.0	0.0	50.0		
その他	9	0.0	0.0	44.4			
職位別	役職あり	11	0.0	0.0	54.5		
	一般職	247	0.0	0.0	10.5		

Q2 性別

性別について教えてください。

- 『男性』が66.7%で3人に2人を占める。

		横%	女	男	非
		全体(N)	性	性	回
					答
全体		258	33.3	66.7	0.0
卒業年別	2018年	82	30.5	69.5	0.0
	2017年	57	29.8	70.2	0.0
	2016年	47	31.9	68.1	0.0
	2015年	40	40.0	60.0	0.0
	2001～2014年	32	40.6	59.4	0.0
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	38.8	61.2	0.0
	携わっていない	119	26.9	73.1	0.0
業種別	教育	82	39.0	61.0	0.0
	製造業	25	28.0	72.0	0.0
	サービス	21	47.6	52.4	0.0
	スポーツ	20	45.0	55.0	0.0
	└─アスリート	14	50.0	50.0	0.0
	販売・流通	19	31.6	68.4	0.0
	IT、ソフトウェア、通信	14	21.4	78.6	0.0
	学生	12	25.0	75.0	0.0
	広告・放送・マスコミ	11	27.3	72.7	0.0
	金融・保険	10	10.0	90.0	0.0
	運輸・エネルギー	8	12.5	87.5	0.0
	コンサルティング	8	25.0	75.0	0.0
	官庁・国際機関	6	16.7	83.3	0.0
	建設業	5	40.0	60.0	0.0
	公務員	4	0.0	100.0	0.0
	製薬・医療機器	2	50.0	50.0	0.0
	医療・福祉	2	50.0	50.0	0.0
	その他	9	44.4	55.6	0.0
	職位別	役職あり	11	18.2	81.8
一般職		247	34.0	66.0	0.0

Q3 スポーツ関係の業種への関与

現在、スポーツ関係の業種に携わっておられますか？

- ・ 『女性』は 62.8%で、『男性』(49.4%)に比べスポーツ関係の業種に携わっている人が多い。
- ・ 業種別では、『教育』が 75.6%と高い。

		横%	はい	いいえ	
		全体(N)			
全体		258	53.9	46.1	
卒業年別	2018年	82	52.4	47.6	
	2017年	57	57.9	42.1	
	2016年	47	53.2	46.8	
	2015年	40	47.5	52.5	
	2001～2014年	32	59.4	40.6	
性別	男性	172	49.4	50.6	
	女性	86	62.8	37.2	
業種別	教育	82	75.6	24.4	
	製造業	25	64.0	36.0	
	サービス	21	42.9	57.1	
	スポーツ	20	100.0	0.0	
	└アスリート	14	100.0	0.0	
	販売・流通	19	31.6	68.4	
	IT、ソフトウェア、通信	14	57.1	42.9	
	学生	12	8.3	91.7	
	広告・放送・マスコミ	11	18.2	81.8	
	金融・保険	10	0.0	100.0	
	運輸・エネルギー	8	62.5	37.5	
	コンサルティング	8	25.0	75.0	
	官庁・国際機関	6	50.0	50.0	
	建設業	5	20.0	80.0	
	公務員	4	0.0	100.0	
	製薬・医療機器	2	0.0	100.0	
	医療・福祉	2	50.0	50.0	
	その他	9	33.3	66.7	
	職位別	役職あり	11	45.5	54.5
		一般職	247	54.3	45.7

Q4 業種

現在の勤務先の業種は何ですか？

- ・ スポーツ関連事業に『携わっている』人の44.6%が「教育」であった。
- ・ 卒業年別では、『2018年』の「教育」は25.6%で、『2001～2014年』(46.9%)より20pt減少している。また、『2018年』の「スポーツ」は9.8%で、『2001～2014年』(6.3%)より3.5pt増加している。

		横%	教育	製造業	サービス	スポーツ	「アスリート	販売・流通	IT、ソフトウェア	学生
		全体(N)								
全体		258	31.8	9.7	8.1	7.8	5.4	7.4	5.4	4.7
卒業年別	2018年	82	25.6	9.8	7.3	9.8	4.9	4.9	12.2	9.8
	2017年	57	26.3	8.8	12.3	8.8	7.0	10.5	0.0	5.3
	2016年	47	31.9	12.8	6.4	6.4	6.4	8.5	4.3	2.1
	2015年	40	40.0	7.5	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	0.0
	2001～2014年	32	46.9	9.4	3.1	6.3	3.1	3.1	0.0	0.0
性別	男性	172	29.1	10.5	6.4	6.4	4.1	7.6	6.4	5.2
	女性	86	37.2	8.1	11.6	10.5	8.1	7.0	3.5	3.5
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	44.6	11.5	6.5	14.4	10.1	4.3	5.8	0.7
	携わっていない	119	16.8	7.6	10.1	0.0	0.0	10.9	5.0	9.2
職位別	役職あり	11	9.1	0.0	0.0	18.2	18.2	18.2	18.2	0.0
	一般職	247	32.8	10.1	8.5	7.3	4.9	6.9	4.9	4.9

※アスリートを除いた全体のスコアで降順ソート

		横%	マス コ ミ	広 告 ・ 放 送 ・	金 融 ・ 保 険	運 輸 ・ エ ネ ル ギ ー	コ ン サ ル テ ィ ン グ	官 庁 ・ 国 際 機 関	建 設 業	公 務 員	製 薬 ・ 機 器
		全体(N)									
全体		258	4.3	3.9	3.1	3.1	2.3	1.9	1.6	0.8	
卒業年別	2018年	82	6.1	2.4	3.7	0.0	1.2	1.2	2.4	0.0	
	2017年	57	3.5	7.0	7.0	3.5	0.0	3.5	1.8	1.8	
	2016年	47	4.3	4.3	2.1	2.1	6.4	4.3	0.0	2.1	
	2015年	40	5.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	2.5	0.0	
	2001～2014年	32	0.0	0.0	0.0	9.4	6.3	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	172	4.7	5.2	4.1	3.5	2.9	1.7	2.3	0.6	
	女性	86	3.5	1.2	1.2	2.3	1.2	2.3	0.0	1.2	
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	1.4	0.0	3.6	1.4	2.2	0.7	0.0	0.0	
	携わっていない	119	7.6	8.4	2.5	5.0	2.5	3.4	3.4	1.7	
職位別	役職あり	11	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	
	一般職	247	4.5	4.0	3.2	2.4	2.0	2.0	1.6	0.8	

※アスリートを除いた全体のスコアで降順ソート

		横%	医 療 ・ 福 祉	そ の 他
		全体(N)		
全体		258	0.8	3.5
卒業年別	2018年	82	1.2	2.4
	2017年	57	0.0	0.0
	2016年	47	0.0	2.1
	2015年	40	0.0	5.0
	2001～2014年	32	3.1	12.5
性別	男性	172	0.6	2.9
	女性	86	1.2	4.7
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	0.7	2.2
	携わっていない	119	0.8	5.0
職位別	役職あり	11	0.0	9.1
	一般職	247	0.8	3.2

※アスリートを除いた全体のスコアで降順ソート

Q5 職位

現在の職位をお聞かせください。

- 現在の職位は、「一般職」が95.7%を占める。

		横%	C	代	理	部	課	係	一
		全体(N)	E	表	事	長	長	長	般
			O	理	・	職	職	職	職
			相	事	常				
			当	・	務				
				代	・				
				表	専				
				取	務				
				締	・				
				役					
				・					
	全体	258	1.9	0.4	0.0	0.8	1.2	95.7	
卒業年別	2018年	82	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	97.6	
	2017年	57	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	2016年	47	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	97.9	
	2015年	40	0.0	2.5	0.0	0.0	2.5	95.0	
	2001～2014年	32	9.4	0.0	0.0	6.3	3.1	81.3	
性別	男性	172	2.9	0.0	0.0	1.2	1.2	94.8	
	女性	86	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	97.7	
業種スポーツ 関連別	携わっている	139	2.2	0.7	0.0	0.7	0.0	96.4	
	携わっていない	119	1.7	0.0	0.0	0.8	2.5	95.0	
業種別	教育	82	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	98.8	
	製造業	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	サービス	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	スポーツ	20	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	90.0	
	┌アスリート	14	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	85.7	
	販売・流通	19	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	89.5	
	IT、ソフトウェア、通信	14	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	
	学生	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	金融・保険	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	運輸・エネルギー	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	コンサルティング	8	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	
	官庁・国際機関	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3	
	建設業	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	公務員	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	医療・福祉	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	

Q6 スポーツ MBA の市場ニーズ

今後、日本社会において、社会人を対象としたスポーツマネジメントを学べる専門職大学院（以下、スポーツ MBA）に対する市場のニーズは拡大すると思われますか？

- ・ スポーツ MBA の市場ニーズが「拡大するだろう」（TOP3）と答えたのは 73.3%である
- ・ 現在、スポーツ業界に『携わっている』人は、79.9%が「拡大するだろう」と答え、『携わっていない』（65.5%）に比べ高い。現在の職位は、「一般職」が 95.7%を占める。

		横% 全体(N)	非常に 拡大する だろう	拡大 する だろう	ど ち ら か と 言 う	そ れ ほ ど 大 し な い だ ろ う	大 し な い だ ろ う	全 く 大 し な い だ ろ う	大 大 し な い だ ろ う ・ 計	大 大 し な い だ ろ う ・ 計
全体		258	5.0	27.9	40.3	22.1	3.5	1.2	73.3	26.7
卒業年別	2018年	82	4.9	28.0	42.7	18.3	4.9	1.2	75.6	24.4
	2017年	57	10.5	28.1	35.1	21.1	3.5	1.8	73.7	26.3
	2016年	47	4.3	21.3	40.4	31.9	2.1	0.0	66.0	34.0
	2015年	40	2.5	35.0	42.5	20.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	2001～2014年	32	0.0	28.1	40.6	21.9	6.3	3.1	68.8	31.3
性別	男性	172	6.4	27.9	39.0	22.7	2.3	1.7	73.3	26.7
	女性	86	2.3	27.9	43.0	20.9	5.8	0.0	73.3	26.7
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	4.3	34.5	41.0	17.3	1.4	1.4	79.9	20.1
	携わっていない	119	5.9	20.2	39.5	27.7	5.9	0.8	65.5	34.5
業種別	教育	82	6.1	23.2	45.1	23.2	1.2	1.2	74.4	25.6
	製造業	25	4.0	44.0	16.0	28.0	4.0	4.0	64.0	36.0
	サービス	21	4.8	38.1	33.3	14.3	9.5	0.0	76.2	23.8
	スポーツ	20	10.0	35.0	45.0	10.0	0.0	0.0	90.0	10.0
	レジャー・アスリート	14	14.3	42.9	35.7	7.1	0.0	0.0	92.9	7.1
	販売・流通	19	0.0	31.6	47.4	15.8	5.3	0.0	78.9	21.1
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	28.6	35.7	21.4	14.3	0.0	64.3	35.7
	学生	12	0.0	0.0	58.3	25.0	8.3	8.3	58.3	41.7
	広告・放送・マスコミ	11	9.1	36.4	27.3	27.3	0.0	0.0	72.7	27.3
	金融・保険	10	10.0	20.0	50.0	20.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	運輸・エネルギー	8	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	コンサルティング	8	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0	0.0	37.5	62.5
	官庁・国際機関	6	0.0	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	83.3	16.7
	建設業	5	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	40.0	60.0
	公務員	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	医療・福祉	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他	9	11.1	0.0	55.6	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	
職位別	役職あり	11	0.0	54.5	18.2	27.3	0.0	0.0	72.7	27.3
	一般職	247	5.3	26.7	41.3	21.9	3.6	1.2	73.3	26.7

Q7 入学検討の重視点(1～4位)

もし、筑波大学にスポーツ MBA が開設された場合、入学の検討にあたり、どのような項目が重視されると思われますか？特に重視されると思われる項目を1位から4位まで選択してください。

- ・ 筑波大学にスポーツ MBA が開設された場合重視されることは、「教員の指導能力」が 23.6%で最も高く、以下、「勤務との時間配分を考慮した開講スケジュール」(15.9%)、「教材の質」(14.7%)、「日本における筑波大学にできたスポーツ MBA の知名度」(14.0%)が続く。

	横% 全体(N)	教員の指導能力	開講スケジュール ※1	教材の質	「筑波大学のスポーツ MBA」の知名度 ※2	インターンシップ ※3	通学時間 ※4	幅広い選択科目 ※5	国際交流の機会	リーズナブルな授業料設定	教員の多様性 ※6	その他	少人数教育 ※7
1位	258	23.6	15.9	14.7	14.0	7.0	6.6	6.2	3.5	3.5	3.1	1.2	0.8
2位	258	15.5	17.8	12.0	8.9	10.1	6.2	7.4	7.4	8.1	5.4	0.4	0.8
3位	258	16.7	9.3	8.9	8.5	11.2	8.1	10.9	8.1	9.7	4.3	1.2	3.1
4位	258	10.1	13.2	8.1	7.8	8.1	8.9	13.2	8.9	13.6	4.7	0.8	2.7

※1位のスコアで降順ソート

- ※1 勤務との時間配分を考慮した開講スケジュール
- ※2 日本における「筑波大学にできたスポーツ MBA」の知名度
- ※3 国内外におけるインターンシップの機会
- ※4 職場や自宅からの通学時間
- ※5 幅広い選択科目の提供
- ※6 教員の多様性（国籍、性別、年齢）
- ※7 少人数教育

Q7S1 入学検討の重視点(1位)

もし、筑波大学にスポーツ MBA が開設された場合、入学の検討にあたり、どのような項目が重視されると思われますか？特に重視されると思われる項目を1位から4位まで選択してください。

- ・ 『女性』は、「勤務との時間配分を考慮した開講スケジュール」が22.1%で、男性(12.8%)に比べ高い。

		横%	教員の指導能力	開講スケジュール ※1	教材の質	「筑波大学のスポーツ MBA」の知名度 ※2	インターンシップ ※3	通学時間 ※4	幅広い選択科目 ※5	国際交流の機会
		全体(N)								
全体		258	23.6	15.9	14.7	14.0	7.0	6.6	6.2	3.5
卒業年別	2018年	82	25.6	12.2	14.6	15.9	8.5	9.8	2.4	3.7
	2017年	57	22.8	21.1	12.3	10.5	7.0	5.3	12.3	0.0
	2016年	47	17.0	19.1	23.4	14.9	4.3	4.3	8.5	4.3
	2015年	40	27.5	12.5	2.5	15.0	12.5	7.5	2.5	7.5
	2001～2014年	32	25.0	15.6	21.9	12.5	0.0	3.1	6.3	3.1
性別	男性	172	25.0	12.8	13.4	15.7	7.6	8.1	6.4	4.7
	女性	86	20.9	22.1	17.4	10.5	5.8	3.5	5.8	1.2
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	23.0	15.8	18.0	12.9	5.8	4.3	9.4	3.6
	携わっていない	119	24.4	16.0	10.9	15.1	8.4	9.2	2.5	3.4
業種別	教育	82	20.7	15.9	15.9	12.2	7.3	8.5	4.9	2.4
	製造業	25	16.0	24.0	8.0	20.0	8.0	8.0	12.0	4.0
	サービス	21	9.5	19.0	19.0	4.8	14.3	4.8	9.5	9.5
	スポーツ	20	15.0	10.0	20.0	25.0	0.0	0.0	5.0	10.0
	「L」アスリート	14	14.3	14.3	14.3	21.4	0.0	0.0	7.1	14.3
	販売・流通	19	36.8	15.8	21.1	10.5	0.0	5.3	5.3	0.0
	IT、ソフトウェア、通信	14	28.6	14.3	21.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
	学生	12	33.3	8.3	8.3	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0
	広告・放送・マスコミ	11	18.2	27.3	0.0	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1
	金融・保険	10	10.0	10.0	0.0	40.0	20.0	0.0	10.0	0.0
	運輸・エネルギー	8	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
	コンサルティング	8	50.0	0.0	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	官庁・国際機関	6	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
	建設業	5	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	公務員	4	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	製薬・医療機器	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療・福祉	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	その他	9	44.4	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0
	職位別	役職あり	11	45.5	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
一般職		247	22.7	16.6	15.0	14.2	7.3	6.9	6.1	3.2

※全体のスコアで降順ソート

- ※1 勤務との時間配分を考慮した開講スケジュール
- ※2 日本における「筑波大学にできたスポーツ MBA」の知名度
- ※3 国内外におけるインターンシップの機会
- ※4 職場や自宅からの通学時間
- ※5 幅広い選択科目の提供

		横%	リーズナブルな 授業料設定	教員の多様性 ※6	少人数教育 ※7	その他
		全体(N)				
全体		258	3.5	3.1	0.8	1.2
卒業年別	2018年	82	1.2	4.9	0.0	1.2
	2017年	57	5.3	1.8	1.8	0.0
	2016年	47	4.3	0.0	0.0	0.0
	2015年	40	5.0	5.0	0.0	2.5
	2001～2014年	32	3.1	3.1	3.1	3.1
性別	男性	172	2.3	1.2	1.2	1.7
	女性	86	5.8	7.0	0.0	0.0
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	3.6	2.2	0.0	1.4
	携わっていない	119	3.4	4.2	1.7	0.8
業種別	教育	82	6.1	2.4	1.2	2.4
	製造業	25	0.0	0.0	0.0	0.0
	サービス	21	0.0	4.8	4.8	0.0
	スポーツ	20	10.0	5.0	0.0	0.0
	レジャー/アスリート	14	14.3	0.0	0.0	0.0
	販売・流通	19	0.0	5.3	0.0	0.0
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	7.1	0.0	0.0
	学生	12	8.3	8.3	0.0	8.3
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	0.0	0.0	0.0
	金融・保険	10	0.0	10.0	0.0	0.0
	運輸・エネルギー	8	0.0	0.0	0.0	0.0
	コンサルティング	8	0.0	0.0	0.0	0.0
	官庁・国際機関	6	16.7	0.0	0.0	0.0
	建設業	5	0.0	0.0	0.0	0.0
	公務員	4	0.0	0.0	0.0	0.0
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療・福祉	2	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	9	0.0	0.0	0.0	0.0
	職位別	役職あり	11	0.0	18.2	0.0
一般職		247	3.6	2.4	0.8	1.2

※全体のスコアで降順ソート

※6 教員の多様性（国籍、性別、年齢）

※7 少人数教育

Q8 英語開講の重要性

グローバル対応に向けてプログラムを英語開講することは重要だと思われますか？

- ・ グローバル対応に向けてプログラムを英語開講することは「重要である」(TOP2)との回答は68.6%であった。また、「日本語のみの方がよい」の回答は1.6%に留まった。
- ・ 『男性』は、「非常に重要である」が33.1%で、女性(17.4%)に比べ高い。

		横%	非常に重要である	重要である	どちらともいえない	重要ではない	全く重要ではない	日本語のみの方がよい	
		全体(N)							
全体		258	27.9	40.7	24.4	5.0	0.4	1.6	
卒業年別	2018年	82	28.0	43.9	23.2	3.7	0.0	1.2	
	2017年	57	28.1	40.4	24.6	5.3	0.0	1.8	
	2016年	47	27.7	38.3	27.7	6.4	0.0	0.0	
	2015年	40	37.5	22.5	27.5	7.5	0.0	5.0	
	2001～2014年	32	15.6	59.4	18.8	3.1	3.1	0.0	
性別	男性	172	33.1	37.8	20.9	5.8	0.6	1.7	
	女性	86	17.4	46.5	31.4	3.5	0.0	1.2	
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	24.5	40.3	25.9	7.2	0.7	1.4	
	携わっていない	119	31.9	41.2	22.7	2.5	0.0	1.7	
業種別	教育	82	17.1	39.0	34.1	6.1	1.2	2.4	
	製造業	25	32.0	44.0	24.0	0.0	0.0	0.0	
	サービス	21	23.8	47.6	14.3	9.5	0.0	4.8	
	スポーツ	20	35.0	35.0	15.0	10.0	0.0	5.0	
	└アスリート	14	42.9	35.7	14.3	7.1	0.0	0.0	
	販売・流通	19	15.8	57.9	26.3	0.0	0.0	0.0	
	IT、ソフトウェア、通信	14	42.9	42.9	7.1	7.1	0.0	0.0	
	学生	12	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	広告・放送・マスコミ	11	45.5	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0	
	金融・保険	10	50.0	30.0	10.0	10.0	0.0	0.0	
	運輸・エネルギー	8	25.0	50.0	12.5	12.5	0.0	0.0	
	コンサルティング	8	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0	
	官庁・国際機関	6	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	
	建設業	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	
	公務員	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	医療・福祉	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	その他	9	55.6	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	
	職位別	役職あり	11	27.3	45.5	9.1	18.2	0.0	0.0
		一般職	247	27.9	40.5	25.1	4.5	0.4	1.6

			重要である・計	重要ではない・計	「重要ではない方」がよい	
			横%			
全体			258	68.6	5.4	7.0
卒業年別	2018年	82	72.0	3.7	4.9	
	2017年	57	68.4	5.3	7.0	
	2016年	47	66.0	6.4	6.4	
	2015年	40	60.0	7.5	12.5	
	2001～2014年	32	75.0	6.3	6.3	
性別	男性	172	70.9	6.4	8.1	
	女性	86	64.0	3.5	4.7	
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	64.7	7.9	9.4	
	携わっていない	119	73.1	2.5	4.2	
業種別	教育	82	56.1	7.3	9.8	
	製造業	25	76.0	0.0	0.0	
	サービス	21	71.4	9.5	14.3	
	スポーツ	20	70.0	10.0	15.0	
	レジャー	14	78.6	7.1	7.1	
	販売・流通	19	73.7	0.0	0.0	
	IT、ソフトウェア、通信	14	85.7	7.1	7.1	
	学生	12	75.0	0.0	0.0	
	広告・放送・マスコミ	11	72.7	0.0	0.0	
	金融・保険	10	80.0	10.0	10.0	
	運輸・エネルギー	8	75.0	12.5	12.5	
	コンサルティング	8	75.0	0.0	0.0	
	官庁・国際機関	6	83.3	0.0	0.0	
	建設業	5	60.0	20.0	20.0	
	公務員	4	50.0	0.0	0.0	
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	0.0	
	医療・福祉	2	100.0	0.0	0.0	
	その他	9	77.8	0.0	0.0	
	職位別	役職あり	11	72.7	18.2	18.2
一般職		247	68.4	4.9	6.5	

Q9 重要な資質・能力

スポーツ MBA においては、どのような資質や能力を身に付けることが重要だと思われますか？

- ・ スポーツ MBA において、身に付けるべき資質や能力では、「問題発見力」が 95.0%で最も高く、「知識の現場への適応力」(93.0%)、「コミュニケーション力」(92.6%)が 9 割を超え続く。

	横% 全体(N)	非常に重要である	重要である	どちらともいえない	重要ではない	全く重要ではない	重要である・計	重要ではない・計
問題発見力	258	54.7	40.3	3.9	0.8	0.4	95.0	1.2
知識の現場への適用力	258	50.8	42.2	5.8	0.4	0.8	93.0	1.2
コミュニケーション力	258	57.4	35.3	5.4	1.9	0.0	92.6	1.9
口頭発表力	258	29.1	60.9	7.4	2.7	0.0	89.9	2.7
論理的思考力	258	45.0	43.0	10.1	1.9	0.0	88.0	1.9
意思決定力	258	40.3	47.3	10.1	2.3	0.0	87.6	2.3
チーム構築力	258	34.1	53.1	9.3	3.5	0.0	87.2	3.5
創造性	258	40.7	45.0	10.1	3.9	0.4	85.7	4.3
戦略的志向性	258	39.1	43.8	14.0	3.1	0.0	82.9	3.1
メンバーの多様性が高い環境の中での協働力	258	31.0	50.8	13.6	3.9	0.8	81.8	4.7
社会貢献への気付き	258	29.5	48.8	18.6	2.7	0.4	78.3	3.1
国際的な課題への気付き	258	31.0	46.1	18.6	3.5	0.8	77.1	4.3

※重要である・計以降順ソート

Q9 重要な資質・能力(TOP2)

スポーツ MBA においては、どのような資質や能力を身に付けることが重要だと思われますか？

- ・ 『女性』は、『男性』に比べ「創造性」「メンバーの多様性が高い環境の中での協働力」「社会貢献への気付き」などのスコアが高い。
- ・ 業種別では、『スポーツ』が、全体と比べ「社会貢献への気付き」のスコアが高く、「創造性」「戦略的志向性」のスコアが低い。

		横%	問題発見力	知識の現場への適用力	コミュニケーション力	口頭発表力	論理的思考力	意思決定力	チーム構築力	創造性
		全体(N)								
全体		258	95.0	93.0	92.6	89.9	88.0	87.6	87.2	85.7
卒業年別	2018年	82	93.9	95.1	87.8	93.9	87.8	87.8	89.0	85.4
	2017年	57	93.0	87.7	89.5	80.7	82.5	84.2	82.5	77.2
	2016年	47	97.9	95.7	95.7	91.5	91.5	89.4	87.2	83.0
	2015年	40	92.5	95.0	97.5	90.0	90.0	85.0	90.0	90.0
	2001～2014年	32	100.0	90.6	100.0	93.8	90.6	93.8	87.5	100.0
性別	男性	172	94.2	90.7	90.7	88.4	87.8	87.8	86.0	82.6
	女性	86	96.5	97.7	96.5	93.0	88.4	87.2	89.5	91.9
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	96.4	94.2	95.7	91.4	89.2	89.9	89.2	87.8
	携わっていない	119	93.3	91.6	89.1	88.2	86.6	84.9	84.9	83.2
業種別	教育	82	93.9	95.1	92.7	87.8	89.0	89.0	91.5	91.5
	製造業	25	100.0	92.0	88.0	92.0	92.0	92.0	72.0	76.0
	サービス	21	95.2	95.2	95.2	95.2	66.7	76.2	81.0	81.0
	スポーツ	20	85.0	90.0	90.0	90.0	85.0	85.0	85.0	75.0
	└アスリート	14	85.7	92.9	92.9	92.9	85.7	92.9	85.7	78.6
	販売・流通	19	94.7	94.7	100.0	89.5	89.5	89.5	78.9	89.5
	IT、ソフトウェア、通信	14	100.0	92.9	92.9	100.0	100.0	100.0	92.9	78.6
	学生	12	91.7	83.3	91.7	83.3	91.7	83.3	91.7	83.3
	広告・放送・マスコミ	11	90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	72.7	90.9	81.8
	金融・保険	10	100.0	100.0	70.0	60.0	80.0	70.0	90.0	80.0
	運輸・エネルギー	8	87.5	87.5	87.5	100.0	75.0	75.0	100.0	75.0
	コンサルティング	8	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0	87.5	87.5	100.0
	官庁・国際機関	6	100.0	83.3	100.0	100.0	83.3	100.0	83.3	100.0
	建設業	5	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	100.0	100.0	60.0
	公務員	4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	100.0
	製薬・医療機器	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0
	医療・福祉	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	その他	9	100.0	77.8	100.0	88.9	100.0	100.0	100.0	100.0
	職位別	役職あり	11	90.9	90.9	100.0	100.0	90.9	100.0	63.6
一般職		247	95.1	93.1	92.3	89.5	87.9	87.0	88.3	85.4

※全体のスコアで降順ソート

		横%	戦	※	社	国	
		全体(N)	略	1	会	際	
			的	協	貢	的	
			志	働	献	な	
			向	力	へ	課	
			性		の	題	
					気	へ	
					付	の	
					き	気	
					付	き	
					き		
全体		258	82.9	81.8	78.3	77.1	
卒業年別	2018年	82	81.7	80.5	79.3	75.6	
	2017年	57	77.2	78.9	78.9	75.4	
	2016年	47	89.4	87.2	78.7	78.7	
	2015年	40	82.5	85.0	82.5	82.5	
	2001～2014年	32	87.5	78.1	68.8	75.0	
性別	男性	172	80.8	78.5	75.6	75.0	
	女性	86	87.2	88.4	83.7	81.4	
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	82.7	82.7	78.4	74.8	
	携わっていない	119	83.2	80.7	78.2	79.8	
業種別	教育	82	85.4	82.9	78.0	76.8	
	製造業	25	72.0	76.0	80.0	88.0	
	サービス	21	85.7	76.2	76.2	66.7	
	スポーツ	20	75.0	85.0	85.0	75.0	
	└アスリート	14	78.6	85.7	85.7	71.4	
	販売・流通	19	73.7	89.5	78.9	84.2	
	IT、ソフトウェア、通信	14	92.9	78.6	57.1	50.0	
	学生	12	75.0	58.3	91.7	66.7	
	広告・放送・マスコミ	11	90.9	81.8	72.7	63.6	
	金融・保険	10	90.0	90.0	100.0	100.0	
	運輸・エネルギー	8	75.0	75.0	75.0	87.5	
	コンサルティング	8	100.0	87.5	62.5	100.0	
	官庁・国際機関	6	100.0	66.7	83.3	83.3	
	建設業	5	100.0	100.0	60.0	60.0	
	公務員	4	25.0	100.0	75.0	75.0	
	製薬・医療機器	2	100.0	100.0	0.0	50.0	
	医療・福祉	2	100.0	100.0	100.0	100.0	
	その他	9	88.9	88.9	100.0	88.9	
	職位別	役職あり	11	81.8	72.7	54.5	45.5
		一般職	247	83.0	82.2	79.4	78.5

※全体のスコアで降順ソート

※1 メンバーの多様性が高い環境の中での協働力

Q9 重要な資質・能力(TOP1)

スポーツ MBA においては、どのような資質や能力を身に付けることが重要だと思われますか？

- ・ スポーツ MBA において、身に付けるべき資質や能力では、「コミュニケーション能力」が 57.4%で最も高く、「問題発見力」(54.7%)、「知識の現場への適応力」(50.8%)が 5 割を超え続く。
- ・ 『女性』は、『男性』に比べ「意思決定力」「口頭発表力」のスコアが高く、「論理的思考力」のスコアが低い傾向が見られた。
- ・ 業種別では、『スポーツ』において、「コミュニケーション能力」が 70.0%で最も高く、次点で「知識の現場への適用力」(65.0%)が高い。

		横%	コミュニケーション力	問題発見力	知識の現場への適用力	論理的思考力	創造性	意思決定力	戦略的志向性	チーム構築力	
		全体(N)									
全体		258	57.4	54.7	50.8	45.0	40.7	40.3	39.1	34.1	
卒業年別	2018年	82	58.5	54.9	54.9	47.6	47.6	47.6	42.7	31.7	
	2017年	57	52.6	54.4	49.1	52.6	31.6	36.8	31.6	36.8	
	2016年	47	59.6	48.9	48.9	29.8	29.8	34.0	36.2	23.4	
	2015年	40	52.5	52.5	52.5	50.0	50.0	32.5	42.5	42.5	
	2001～2014年	32	65.6	65.6	43.8	40.6	43.8	46.9	43.8	40.6	
性別	男性	172	56.4	56.4	50.0	49.4	38.4	37.8	37.2	32.6	
	女性	86	59.3	51.2	52.3	36.0	45.3	45.3	43.0	37.2	
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	60.4	56.1	51.1	42.4	45.3	43.2	38.1	37.4	
	携わっていない	119	53.8	52.9	50.4	47.9	35.3	37.0	40.3	30.3	
業種別	教育	82	63.4	54.9	54.9	42.7	48.8	43.9	36.6	43.9	
	製造業	25	72.0	52.0	32.0	32.0	20.0	36.0	32.0	12.0	
	サービス	21	52.4	52.4	42.9	42.9	28.6	23.8	33.3	28.6	
	スポーツ	20	70.0	55.0	65.0	45.0	40.0	45.0	50.0	45.0	
	└アスリート	14	71.4	57.1	64.3	42.9	50.0	50.0	57.1	50.0	
	販売・流通	19	21.1	42.1	52.6	31.6	26.3	36.8	26.3	21.1	
	IT、ソフトウェア、通信	14	64.3	78.6	57.1	85.7	50.0	64.3	50.0	28.6	
	学生	12	58.3	50.0	41.7	50.0	41.7	50.0	41.7	33.3	
	広告・放送・マスコミ	11	36.4	54.5	54.5	36.4	36.4	27.3	63.6	18.2	
	金融・保険	10	60.0	60.0	60.0	40.0	40.0	20.0	40.0	30.0	
	運輸・エネルギー	8	37.5	50.0	37.5	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0	
	コンサルティング	8	50.0	50.0	62.5	50.0	50.0	37.5	37.5	62.5	
	官庁・国際機関	6	33.3	66.7	16.7	16.7	50.0	33.3	50.0	33.3	
	建設業	5	20.0	40.0	100.0	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	
	公務員	4	50.0	50.0	50.0	75.0	50.0	75.0	0.0	25.0	
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	
	医療・福祉	2	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	
	その他	9	88.9	66.7	44.4	77.8	55.6	66.7	66.7	66.7	
	職位別	役職あり	11	36.4	81.8	36.4	45.5	36.4	63.6	45.5	18.2
		一般職	247	58.3	53.4	51.4	44.9	40.9	39.3	38.9	34.8

※全体のスコアで降順ソート

		横%	※協働 力	国際的 な課題 への気 付き	社会 貢献 への気 付き	口頭 発表 力
		全体(N)				
全体		258	31.0	31.0	29.5	29.1
卒業年別	2018年	82	34.1	35.4	29.3	37.8
	2017年	57	31.6	29.8	33.3	28.1
	2016年	47	23.4	19.1	23.4	19.1
	2015年	40	35.0	32.5	32.5	25.0
	2001～2014年	32	28.1	37.5	28.1	28.1
性別	男性	172	32.6	31.4	29.7	26.2
	女性	86	27.9	30.2	29.1	34.9
業種 スポーツ 関連別	携わっている	139	30.2	31.7	30.9	28.1
	携わっていない	119	31.9	30.3	27.7	30.3
業種別	教育	82	37.8	28.0	26.8	30.5
	製造業	25	20.0	44.0	32.0	32.0
	サービス	21	33.3	23.8	14.3	19.0
	スポーツ	20	30.0	45.0	55.0	45.0
	└アスリート	14	35.7	50.0	57.1	42.9
	販売・流通	19	21.1	26.3	26.3	15.8
	IT、ソフトウェア、通信	14	21.4	35.7	42.9	42.9
	学生	12	33.3	33.3	25.0	8.3
	広告・放送・マスコミ	11	36.4	27.3	27.3	18.2
	金融・保険	10	40.0	60.0	30.0	50.0
	運輸・エネルギー	8	12.5	25.0	0.0	12.5
	コンサルティング	8	25.0	25.0	37.5	25.0
	官庁・国際機関	6	0.0	0.0	16.7	0.0
	建設業	5	20.0	0.0	60.0	20.0
	公務員	4	75.0	25.0	25.0	25.0
	製薬・医療機器	2	50.0	50.0	0.0	50.0
	医療・福祉	2	0.0	0.0	0.0	50.0
	その他	9	44.4	33.3	44.4	55.6
	職位別	役職あり	11	9.1	18.2	27.3
一般職		247	32.0	31.6	29.6	29.1

※全体のスコアで降順ソート

※1 メンバーの多様性が高い環境の中での協働力

Q10 採用意向

貴機関・貴団体・貴社では、将来、スポーツマネジメントの専門知識や技能を修得したスポーツ MBA 修了生が輩出されたら採用したいと思われませんか？

- ・ 将来における、スポーツ MBA 修了生の採用意向は 43.8%(TOP2)であった。「この職種に対する雇用ニーズはない」との回答は、16.3%であった。
- ・ 業種_スポーツ関連別では、『携わっている』人の採用意向が 53.2%で、『携わっていない』(32.8%)に比べ高い。
- ・ 業種別では、『サービス業』は「この職種に対する雇用ニーズはない」との回答が 23.8%と全体に比べ高い。

		横%	積極的に採用したい	採用したい	どちらともいえない	※他の候補者と同列に扱う	この職種に対する雇用ニーズはない	採用したい・計	
		全体(N)							
全体		258	9.3	34.5	27.5	12.4	16.3	43.8	
卒業年別	2018年	82	8.5	36.6	25.6	11.0	18.3	45.1	
	2017年	57	21.1	31.6	28.1	8.8	10.5	52.6	
	2016年	47	4.3	38.3	27.7	17.0	12.8	42.6	
	2015年	40	2.5	32.5	32.5	12.5	20.0	35.0	
	2001～2014年	32	6.3	31.3	25.0	15.6	21.9	37.5	
性別	男性	172	9.3	32.6	26.7	15.1	16.3	41.9	
	女性	86	9.3	38.4	29.1	7.0	16.3	47.7	
業種_スポーツ 関連別	携わっている	139	11.5	41.7	25.9	10.8	10.1	53.2	
	携わっていない	119	6.7	26.1	29.4	14.3	23.5	32.8	
業種別	教育	82	9.8	34.1	26.8	11.0	18.3	43.9	
	製造業	25	8.0	36.0	36.0	12.0	8.0	44.0	
	サービス	21	14.3	14.3	33.3	14.3	23.8	28.6	
	スポーツ	20	20.0	40.0	25.0	15.0	0.0	60.0	
	└アスリート	14	21.4	50.0	14.3	14.3	0.0	71.4	
	販売・流通	19	0.0	42.1	26.3	15.8	15.8	42.1	
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	42.9	7.1	21.4	28.6	42.9	
	学生	12	8.3	33.3	50.0	0.0	8.3	41.7	
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	45.5	18.2	36.4	0.0	45.5	
	金融・保険	10	0.0	40.0	30.0	10.0	20.0	40.0	
	運輸・エネルギー	8	50.0	37.5	0.0	0.0	12.5	87.5	
	コンサルティング	8	12.5	25.0	37.5	0.0	25.0	37.5	
	官庁・国際機関	6	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0	50.0	
	建設業	5	0.0	40.0	0.0	20.0	40.0	40.0	
	公務員	4	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	
	製薬・医療機器	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	医療・福祉	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	
	その他	9	0.0	33.3	33.3	11.1	22.2	33.3	
	職位別	役職あり	11	0.0	9.1	27.3	45.5	18.2	9.1
		一般職	247	9.7	35.6	27.5	10.9	16.2	45.3

※1 他の候補者と同列に扱う（スポーツマネジメント以外の選考基準の適用）

Q11 学位取得までの学修期間

スポーツ MBA には、2 年間の学修にもとづく専門職学位（修士相当）を授与することが望ましいと思われませんか？あるいは、短期の講習による証明書がよいと思いますか？

- ・ スポーツ MBA の取得期間は、「2 年間の学修にもとづく修士相当の学位があった方がよい」が 42.2%、「修士相当の学位プログラムと短期証明書プログラムの双方があるとよい」が 43.8%であった。
- ・ 『女性』は、「修士相当の学位プログラムと短期証明書プログラムの双方があるとよい」が 50.0%で、男性(40.7%)に比べ高い。
- ・ 業種別では、『サービス』『スポーツ(アスリート含)』は、「修士相当の学位プログラムと短期証明書プログラムの双方があるとよい」が 50%以上で、全体(43.8%)に比べ高い。

		横%	※修 1 士 相 当 の 学 位	証 短 明 期 書 の 講 ※ 2 習 に よ る	※ 双 3 方 が あ る と よ い
全体		全体(N)			
全体		258	42.2	14.0	43.8
卒業年別	2018年	82	48.8	18.3	32.9
	2017年	57	38.6	12.3	49.1
	2016年	47	38.3	12.8	48.9
	2015年	40	50.0	7.5	42.5
	2001～2014年	32	28.1	15.6	56.3
性別	男性	172	44.8	14.5	40.7
	女性	86	37.2	12.8	50.0
業種スポーツ 関連別	携わっている	139	38.1	16.5	45.3
	携わっていない	119	47.1	10.9	42.0
業種別	教育	82	50.0	15.9	34.1
	製造業	25	36.0	20.0	44.0
	サービス	21	23.8	23.8	52.4
	スポーツ	20	40.0	10.0	50.0
	└アスリート	14	35.7	14.3	50.0
	販売・流通	19	31.6	21.1	47.4
	IT、ソフトウェア、通信	14	21.4	14.3	64.3
	学生	12	58.3	0.0	41.7
	広告・放送・マスコミ	11	72.7	0.0	27.3
	金融・保険	10	50.0	10.0	40.0
	運輸・エネルギー	8	50.0	12.5	37.5
	コンサルティング	8	25.0	0.0	75.0
	官庁・国際機関	6	33.3	16.7	50.0
	建設業	5	40.0	0.0	60.0
	公務員	4	50.0	50.0	0.0
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	50.0
	医療・福祉	2	0.0	0.0	100.0
	その他	9	44.4	0.0	55.6
	職位別	役職あり	11	45.5	9.1
一般職		247	42.1	14.2	43.7

※1 2年間の学修にもとづく修士相当の学位があった方がよい

※2 短期の講習による証明書の方がよい

※3 修士相当の学位プログラムと短期証明書プログラムの双方があるとよい

Q12 筑波大学での学修意向

もし、筑波大学にスポーツ MBA が設置されたならば、あなたご自身は学びたいと思われますか？

- ・ 筑波大学にスポーツ MBA が設置されたら「学びたい」(TOP2)という回答は 58.9%であった。
- ・ 業種_スポーツ関連別では、『携わっている』人の「学びたい」(TOP2)という意向は 62.6%で、『携わっていない』人(54.6%)に比べやや高い。
- ・ 業種別でみると、『サービス』『スポーツ(アスリート含)』『販売・流通』が、「学びたい」(TOP2)という意向が全体(58.9%)と比べ 5pt 以上高い。

		横%	ぜひ 学びたい	学び たい	どちら ともい えない	学び たくない	全く 学び たくない	学び たい・ 計	学び たくない ・計
		全体(N)							
全体		258	15.9	43.0	34.5	4.7	1.9	58.9	6.6
卒業年別	2018年	82	13.4	50.0	28.0	4.9	3.7	63.4	8.5
	2017年	57	17.5	43.9	35.1	3.5	0.0	61.4	3.5
	2016年	47	25.5	31.9	40.4	2.1	0.0	57.4	2.1
	2015年	40	15.0	37.5	42.5	5.0	0.0	52.5	5.0
	2001～2014年	32	6.3	46.9	31.3	9.4	6.3	53.1	15.6
性別	男性	172	16.3	43.0	32.0	6.4	2.3	59.3	8.7
	女性	86	15.1	43.0	39.5	1.2	1.2	58.1	2.3
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	18.0	44.6	33.1	2.2	2.2	62.6	4.3
	携わっていない	119	13.4	41.2	36.1	7.6	1.7	54.6	9.2
業種別	教育	82	11.0	43.9	37.8	4.9	2.4	54.9	7.3
	製造業	25	12.0	44.0	36.0	4.0	4.0	56.0	8.0
	サービス	21	14.3	52.4	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	スポーツ	20	25.0	40.0	35.0	0.0	0.0	65.0	0.0
	└アスリート	14	35.7	35.7	28.6	0.0	0.0	71.4	0.0
	販売・流通	19	21.1	47.4	31.6	0.0	0.0	68.4	0.0
	IT、ソフトウェア、通信	14	14.3	42.9	7.1	21.4	14.3	57.1	35.7
	学生	12	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	広告・放送・マスコミ	11	27.3	45.5	27.3	0.0	0.0	72.7	0.0
	金融・保険	10	10.0	30.0	50.0	10.0	0.0	40.0	10.0
	運輸・エネルギー	8	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	87.5	0.0
	コンサルティング	8	12.5	37.5	37.5	12.5	0.0	50.0	12.5
	官庁・国際機関	6	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	50.0	16.7
	建設業	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	公務員	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	医療・福祉	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0
	その他	9	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0	55.6	0.0
	職位別	役職あり	11	9.1	45.5	27.3	9.1	9.1	54.5
一般職		247	16.2	42.9	34.8	4.5	1.6	59.1	6.1

Q13 筑波大学への社員派遣意向

もし、筑波大学にスポーツ MBA が設置されたならば、あなたの社員を派遣したいと思われませんか？

- ・ 筑波大学にスポーツ MBA が設置されたら、自分の会社の社員を「派遣したい」(TOP2)と回答したのは 36.4%であった。
- ・ スポーツ業界に『携わっている』人の意向は 48.9%で、『携わっていない』人(21.8%)に比べやや高い。
- ・ 業種別でみると、「派遣したい」意向が強いのは『製造業』『スポーツ(アスリート含)』『販売・流通』。

		横%	ぜひ派遣したい	派遣したい	どちらともいえない	派遣したくない	全く派遣したくない	派遣したい・計	派遣したくない・計	
		全体(N)								
全体		258	5.8	30.6	53.9	5.4	4.3	36.4	9.7	
卒業年別	2018年	82	8.5	34.1	46.3	4.9	6.1	42.7	11.0	
	2017年	57	5.3	36.8	52.6	3.5	1.8	42.1	5.3	
	2016年	47	4.3	21.3	68.1	4.3	2.1	25.5	6.4	
	2015年	40	7.5	27.5	52.5	10.0	2.5	35.0	12.5	
	2001～2014年	32	0.0	28.1	56.3	6.3	9.4	28.1	15.6	
性別	男性	172	5.8	28.5	54.7	5.8	5.2	34.3	11.0	
	女性	86	5.8	34.9	52.3	4.7	2.3	40.7	7.0	
業種・スポーツ 関連別	携わっている	139	7.2	41.7	46.8	2.2	2.2	48.9	4.3	
	携わっていない	119	4.2	17.6	62.2	9.2	6.7	21.8	16.0	
業種別	教育	82	4.9	28.0	62.2	3.7	1.2	32.9	4.9	
	製造業	25	4.0	40.0	52.0	4.0	0.0	44.0	4.0	
	サービス	21	4.8	28.6	52.4	0.0	14.3	33.3	14.3	
	スポーツ	20	20.0	35.0	40.0	5.0	0.0	55.0	5.0	
	└アスリート	14	21.4	28.6	42.9	7.1	0.0	50.0	7.1	
	販売・流通	19	0.0	42.1	36.8	10.5	10.5	42.1	21.1	
	IT、ソフトウェア、通信	14	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3	28.6	28.6	
	学生	12	16.7	8.3	66.7	8.3	0.0	25.0	8.3	
	広告・放送・マスコミ	11	0.0	36.4	63.6	0.0	0.0	36.4	0.0	
	金融・保険	10	0.0	30.0	50.0	20.0	0.0	30.0	20.0	
	運輸・エネルギー	8	12.5	62.5	12.5	0.0	12.5	75.0	12.5	
	コンサルティング	8	12.5	12.5	62.5	0.0	12.5	25.0	12.5	
	官庁・国際機関	6	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	
	建設業	5	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0	
	公務員	4	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
	製薬・医療機器	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	医療・福祉	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	
	その他	9	0.0	22.2	66.7	0.0	11.1	22.2	11.1	
	職位別	役職あり	11	9.1	18.2	45.5	9.1	18.2	27.3	27.3
		一般職	247	5.7	31.2	54.3	5.3	3.6	36.8	8.9

(4) 企業・団体調査「スポーツ MBA 設置ニーズ」

【調査概要】（再掲）

本調査では、スポーツ MBA に対する雇用者側のニーズやスポーツ MBA 修了者の雇用需要に関して、スポーツ系および非スポーツ系企業や団体を対象とした質問票調査を実施した。調査対象者のデータベースを特定するため、調査会社を利用して調査対象を層別化したデータ収集を行った。結果サンプル数は 400 名である。

a. 調査対象

スポーツ、非スポーツ企業・団体を対象としてそれぞれに営利機関と非営利機関を 100 団体。
（計 400 団体）

割付セル	割付セル名称	サンプル数
1	【営利団体】 スポーツ関連企業_100 億円未満	25
2	【営利団体】 スポーツ関連企業_100～499 億円	25
3	【営利団体】 スポーツ関連企業_500 億円以上	50
4	【営利団体】 スポーツ非関連企業_100 億円未満	25
5	【営利団体】 スポーツ非関連企業_100～499 億円	25
6	【営利団体】 スポーツ非関連企業_500 億円以上	50
7	【非営利団体】 スポーツ関連企業	100
12	【非営利団体】 スポーツ非関連企業	100
合計		400

b. 調査方法

層別化した調査対象企業に対し、Web 質問票調査を実施する。
実施時期は 1 月。

c. 調査項目

- ・ 営利及び非営利の区別
- ・ 業種
- ・ 事業規模
- ・ 団体種類
- ・ 海外売上高比率
- ・ スポーツと事業の関係
- ・ スポーツとマーケティング活動
- ・ 2020 オリンピックと事業
- ・ スポーツ関連のマーケティング能力
- ・ スポーツ経営人材に必要な能力

- ・スポーツ経営人材の職務内容
- ・スポーツ経営人材雇用に対する需要
- ・スポーツ経営人材の採用条件や雇用形態
- ・スポーツ MBA 学位の潜在的可能性

d. 分析方法

- ・基礎統計およびクロス集計

本調査におけるの数表のハッチング基準は以下の通りである。

[比率の差]	
	全体 +10 ポイント
	全体 +5 ポイント
	全体 -5 ポイント
	全体 -10 ポイント

※ただし、N=30 以上の際に限る

Q1 業種

お勤め先の業種についてお答えください。

※複数あてはまる場合には、メインの業種をひとつだけお答えください。

- ・ 製造業では、「電気機器」「食品・水産業」、サービス業では「銀行・証券・保険」「小売業」などの比率が高い。

		横%	食 品 ・ 水 産	建 設 ・ 鉱 業	パ ー ル ・ 織 物 ・ 紙	化 学 工 業	医 薬 品	石 油 ・ ゴ ム ・ 窯 業	属 鉄 鋼 業 ・ 非 鉄 金 属 製 品	機 械 ・ 精 密 機 械 ・ 造 船
		全体(N)								
全体		200	6.0	4.0	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	2.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	100	5.0	4.0	3.0	3.0	0.0	2.0	2.0	2.0
	非スポーツ事業	100	7.0	4.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0
海外売上比 率別	40%未満	144	6.3	4.9	2.8	1.4	1.4	0.7	0.7	1.4
	40%以上	32	9.4	0.0	0.0	9.4	0.0	3.1	3.1	6.3
	└60%以上	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	24	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業規模別	100億円未満	50	6.0	8.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	100～499億円	50	6.0	6.0	8.0	4.0	2.0	0.0	0.0	2.0
	500億円以上	100	6.0	1.0	1.0	2.0	0.0	2.0	2.0	3.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	8.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	4.0	8.0	12.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	4.0	4.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0

		横%	電	自	自	そ	立	商	小	保	銀	不
		全体(N)	気	動	動	他	学	社	売	險	行	動
			機	車	車	他	教		業		・	産
			器	部	部	製	育				・	・
				品	品	造	(証	倉
						業	株				券	庫
							式				・	
							会					
							社					
)					
	全体	200	6.0	4.5	8.5	1.0	5.5	7.0	8.5	3.5		
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	100	5.0	5.0	9.0	1.0	3.0	6.0	9.0	3.0		
	非スポーツ事業	100	7.0	4.0	8.0	1.0	8.0	8.0	8.0	4.0		
海外売上比 率別	40%未満	144	2.8	2.1	5.6	1.4	4.9	9.0	9.0	4.9		
	40%以上	32	12.5	12.5	21.9	0.0	9.4	0.0	3.1	0.0		
	└60%以上	10	20.0	20.0	30.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	わからない	24	16.7	8.3	8.3	0.0	4.2	4.2	12.5	0.0		
事業規模別	100億円未満	50	0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	10.0	0.0	6.0		
	100～499億円	50	6.0	4.0	6.0	2.0	6.0	4.0	8.0	4.0		
	500億円以上	100	9.0	5.0	12.0	1.0	4.0	7.0	13.0	2.0		
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	8.0	0.0	4.0		
	スポーツ事業×100～499億円	25	0.0	0.0	8.0	4.0	0.0	4.0	8.0	8.0		
	スポーツ事業×500億円以上	50	10.0	8.0	12.0	0.0	2.0	6.0	14.0	0.0		
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	4.0	4.0	0.0	8.0	12.0	0.0	8.0		
	非スポーツ事業×100～499億	25	12.0	8.0	4.0	0.0	12.0	4.0	8.0	0.0		
	非スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	2.0	12.0	2.0	6.0	8.0	12.0	4.0		

		横%	鉄道・運輸	電力・ガス	通信	その他 サービス業	その他
		全体(N)					
全体		200	5.5	1.5	4.5	19.0	5.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	100	7.0	1.0	4.0	21.0	5.0
	非スポーツ事業	100	4.0	2.0	5.0	17.0	5.0
海外売上比 率別	40%未満	144	6.9	1.4	2.8	24.3	5.6
	40%以上	32	0.0	3.1	3.1	3.1	0.0
	└60%以上	10	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	24	4.2	0.0	16.7	8.3	8.3
事業規模別	100億円未満	50	10.0	0.0	2.0	30.0	8.0
	100～499億円	50	6.0	0.0	4.0	16.0	6.0
	500億円以上	100	3.0	3.0	6.0	15.0	3.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	0.0	4.0	36.0	8.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	12.0	0.0	4.0	16.0	8.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	2.0	2.0	4.0	16.0	2.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	8.0	0.0	0.0	24.0	8.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	0.0	4.0	16.0	4.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	4.0	8.0	14.0	4.0

Q2 団体種

お勤め先の団体種類についてお答えください。

- ・ 非営利団体の団体種は、「行政機関」が 44.0%、「非営利組織」が 40.5%が多い。
- ・ スポーツ関連事業別では、スポーツ事業に関わっている非営利組織は「行政機関」が 55.0%と多く、逆にスポーツ事業に関わっていない組織は「非営利組織」が多い。

		横%	国 際 機 関	行 政 機 関	国 公 立 教 育 機 関	私 立 学 校 法 人	非 政 府 組 織	非 営 利 組 織	そ の 他
全体		200	0.5	44.0	3.0	5.0	4.0	40.5	3.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	100	1.0	55.0	5.0	7.0	1.0	28.0	3.0
	非スポーツ事業	100	0.0	33.0	1.0	3.0	7.0	53.0	3.0
海外売上比 率別	40%未満	116	0.9	31.9	3.4	6.0	2.6	51.7	3.4
	40%以上	7	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0
	└60%以上	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	わからない	77	0.0	63.6	1.3	2.6	5.2	24.7	2.6

Q3 海外売上高比率

お勤め先の企業・団体の海外売上高比率についてお答えください（連結子会社含む）（非営利団体の場合は、おおよその海外における事業活動割合）。

- ・ 海外売上高比率「20%未満」が全体の6割を占め、「40%以上」は1割に留まった。
- ・ 事業規模別で、『500億円以上』は、「40%以上」が3割を占め、より規模の小さい企業に比べ高い。

		横%	20%未満	25%未満	30%未満	35%未満	40%以上	わからない	40%未満	40%以上	60%以上
		全体(N)									
全体		400	58.8	6.3	6.3	1.8	1.8	25.3	65.0	9.8	3.5
スポーツ関連事業別	スポーツ事業	200	57.5	9.5	8.5	2.0	1.0	21.5	67.0	11.5	3.0
	非スポーツ事業	200	60.0	3.0	4.0	1.5	2.5	29.0	63.0	8.0	4.0
営利・非営利別	営利企業 / 団体	200	60.5	11.5	11.0	2.5	2.5	12.0	72.0	16.0	5.0
	非営利団体	200	57.0	1.0	1.5	1.0	1.0	38.5	58.0	3.5	2.0
営利/非営利×スポーツ関連事業別	営利・スポーツ	100	56.0	18.0	16.0	2.0	1.0	7.0	74.0	19.0	3.0
	営利・非スポーツ	100	65.0	5.0	6.0	3.0	4.0	17.0	70.0	13.0	7.0
	非営利・スポーツ	100	59.0	1.0	1.0	2.0	1.0	36.0	60.0	4.0	3.0
	非営利・非スポーツ	100	55.0	1.0	2.0	0.0	1.0	41.0	56.0	3.0	1.0
海外売上比率別	40%未満	260	90.4	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40%以上	39	0.0	0.0	64.1	17.9	17.9	0.0	0.0	100.0	35.9
	60%以上	14	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	わからない	101	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
事業規模別	100億円未満	50	86.0	6.0	2.0	0.0	0.0	6.0	92.0	2.0	0.0
	100～499億円	50	72.0	12.0	6.0	2.0	0.0	8.0	84.0	8.0	2.0
	500億円以上	100	42.0	14.0	18.0	4.0	5.0	17.0	56.0	27.0	9.0
スポーツ関連事業別×事業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	80.0	12.0	4.0	0.0	0.0	4.0	92.0	4.0	0.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	72.0	16.0	4.0	0.0	0.0	8.0	88.0	4.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	36.0	22.0	28.0	4.0	2.0	8.0	58.0	34.0	6.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	92.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	92.0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	72.0	8.0	8.0	4.0	0.0	8.0	80.0	12.0	4.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	48.0	6.0	8.0	4.0	8.0	26.0	54.0	20.0	12.0

Q4 スポーツマーケティング活用の有無

お勤め先の企業・団体は現在、スポーツを自社のブランド・マーケティング活動に活用していますか？

- ・ スポーツを自社のブランド・マーケティングに「活用している」企業・団体が 35.3%、「活用していない」企業・団体が 64.8%であった。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』は「活用している・計」が 60.5%と、「非スポーツ事業」(10%) に比べ圧倒的に高い。
- ・ 事業規模別をみると、『500 億円以上』の企業において「活用している・計」が 52.0%、海外売上比率別で『40%以上』が 64.1%で高い。

		横%	非常に重要な施策である	かなり活用している	一部活用している	あまり活用していない	全く活用していない	活用している・計	「かなり活用している・計	活用していない・計
		全体(N)								
全体		400	3.0	6.5	25.8	15.3	49.5	35.3	9.5	64.8
スポーツ関連事業別	スポーツ事業	200	5.5	9.5	45.5	18.0	21.5	60.5	15.0	39.5
	非スポーツ事業	200	0.5	3.5	6.0	12.5	77.5	10.0	4.0	90.0
営利・非営利別	営利企業 / 団体	200	2.5	10.5	30.0	15.0	42.0	43.0	13.0	57.0
	非営利団体	200	3.5	2.5	21.5	15.5	57.0	27.5	6.0	72.5
営利/非営利×スポーツ関連事業別	営利・スポーツ	100	5.0	14.0	53.0	15.0	13.0	72.0	19.0	28.0
	営利・非スポーツ	100	0.0	7.0	7.0	15.0	71.0	14.0	7.0	86.0
	非営利・スポーツ	100	6.0	5.0	38.0	21.0	30.0	49.0	11.0	51.0
	非営利・非スポーツ	100	1.0	0.0	5.0	10.0	84.0	6.0	1.0	94.0
海外売上比率別	40%未満	260	1.9	4.6	26.5	15.4	51.5	33.1	6.5	66.9
	40%以上	39	2.6	17.9	43.6	20.5	15.4	64.1	20.5	35.9
	└60%以上	14	0.0	28.6	28.6	21.4	21.4	57.1	28.6	42.9
	わからない	101	5.9	6.9	16.8	12.9	57.4	29.7	12.9	70.3
事業規模別	100億円未満	50	2.0	6.0	26.0	8.0	58.0	34.0	8.0	66.0
	100~499億円	50	0.0	2.0	32.0	12.0	54.0	34.0	2.0	66.0
	500億円以上	100	4.0	17.0	31.0	20.0	28.0	52.0	21.0	48.0
スポーツ関連事業別×事業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	4.0	12.0	52.0	12.0	20.0	68.0	16.0	32.0
	スポーツ事業×100~499億円	25	0.0	4.0	56.0	12.0	28.0	60.0	4.0	40.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	20.0	52.0	18.0	2.0	80.0	28.0	20.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	0.0	0.0	4.0	96.0	0.0	0.0	100.0
	非スポーツ事業×100~499億	25	0.0	0.0	8.0	12.0	80.0	8.0	0.0	92.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	0.0	14.0	10.0	22.0	54.0	24.0	14.0	76.0

Q5 スポーツマーケティングの担当部門

現在、どちらの部門（または、外部会社等）が、お勤め先の企業・団体のスポーツマーケティングを実質的に担っていますか？

- ・ 「自社部門」が9割とほとんどを占める。内訳では「自社広報部門」が34.8%で最も高く、「自社経営企画部門」(19.9%)、「自社スポーツマーケティング部門」(15.6%)が続く。
- ・ 営利・非営利別では、『営利企業 / 団体』は「自社広報部門」が高く、『非営利団体』は「自社スポーツマーケティング部門」が高いという特徴がみられた。
- ・ スポーツ関連事業別×事業規模別では、『スポーツ事業×500億円以上』の「自社広報部門」が42.5%で高い。

		横%	自社広報部門	自社経営企画部門	自社スポーツマーケティング部門	自社事業部門	自社マーケティング部門	広告代理店	コンサルティング会社・	その他
		全体(N)								
全体		141	34.8	19.9	15.6	12.1	8.5	4.3	2.1	2.8
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	121	33.1	20.7	17.4	13.2	7.4	4.1	2.5	1.7
	非スポーツ事業	20	45.0	15.0	5.0	5.0	15.0	5.0	0.0	10.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	86	40.7	19.8	8.1	12.8	9.3	4.7	1.2	3.5
	非営利団体	55	25.5	20.0	27.3	10.9	7.3	3.6	3.6	1.8
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	72	38.9	22.2	9.7	13.9	6.9	5.6	1.4	1.4
	営利・非スポーツ	14	50.0	7.1	0.0	7.1	21.4	0.0	0.0	14.3
	非営利・スポーツ	49	24.5	18.4	28.6	12.2	8.2	2.0	4.1	2.0
	非営利・非スポーツ	6	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
海外売上比 率別	40%未満	86	30.2	23.3	14.0	12.8	9.3	5.8	3.5	1.2
	40%以上	25	60.0	12.0	0.0	12.0	16.0	0.0	0.0	0.0
	└60%以上	8	50.0	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	わからない	30	26.7	16.7	33.3	10.0	0.0	3.3	0.0	10.0
事業規模別	100億円未満	17	29.4	23.5	5.9	23.5	0.0	11.8	0.0	5.9
	100～499億円	17	41.2	23.5	11.8	5.9	11.8	5.9	0.0	0.0
	500億円以上	52	44.2	17.3	7.7	11.5	11.5	1.9	1.9	3.8
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	17	29.4	23.5	5.9	23.5	0.0	11.8	0.0	5.9
	スポーツ事業×100～499億円	15	40.0	26.7	13.3	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	40	42.5	20.0	10.0	12.5	10.0	2.5	2.5	0.0
	非スポーツ事業×100億円未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×500億円以上	12	50.0	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	16.7
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	34.8	19.9	15.6	12.1	8.5	4.3	2.1	2.8
	└自社部門	128	38.3	21.9	17.2	13.3	9.4	0.0	0.0	0.0
	└外部	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
	└その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	122	36.1	21.3	16.4	13.9	9.0	1.6	0.8	0.8
	外部	16	31.3	12.5	12.5	0.0	6.3	25.0	12.5	0.0
	その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※全体のスコアで降順ソート

			自 社 部 門	外 部	
			横%		
			全体(N)		
	全体		141	90.8	6.4
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業		121	91.7	6.6
	非スポーツ事業		20	85.0	5.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体		86	90.7	5.8
	非営利団体		55	90.9	7.3
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ		72	91.7	6.9
	営利・非スポーツ		14	85.7	0.0
	非営利・スポーツ		49	91.8	6.1
	非営利・非スポーツ		6	83.3	16.7
海外売上比 率別	40%未満		86	89.5	9.3
	40%以上		25	100.0	0.0
	└60%以上		8	100.0	0.0
	わからない		30	86.7	3.3
事業規模別	100億円未満		17	82.4	11.8
	100～499億円		17	94.1	5.9
	500億円以上		52	92.3	3.8
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満		17	82.4	11.8
	スポーツ事業×100～499億円		15	93.3	6.7
	スポーツ事業×500億円以上		40	95.0	5.0
	非スポーツ事業×100億円未満		0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億		2	100.0	0.0
	非スポーツ事業×500億円以上		12	83.3	0.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体		141	90.8	6.4
	└自社部門		128	100.0	0.0
	└外部		9	0.0	100.0
	└その他		4	0.0	0.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門		122	96.7	2.5
	外部		16	62.5	37.5
	その他		3	0.0	0.0

※全体のスコアで降順ソート

Q6 スポーツマーケティングの強化志向

今後、お勤め先の企業・団体は（さらに）スポーツを通じて、自社のブランド・マーケティング活動を強化していく意図はありますか？/意図があると思いますか？

- ・ 全体では、スポーツを通じたブランド・マーケティング活動の「強化志向あり・計」(TOP3)が36.3%と1/3程度に留まった。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』は「強化志向あり・計」が59.0%と高い。
- ・ 事業規模が大きくなるほど、また、海外売上比率が高いほど、「強化志向あり・計」のスコアは高くなる。

		横%	大	そ	そ	そ	そ	全	強	強
		全体(N)	変	う	ど	ど	ど	く	化	化
			そ	う	ち	ち	そ	そ	志	志
			う	思	ら	ら	う	う	向	向
			思	う	か	か	は	は	あ	あ
			う	う	と	と	は	は	り	り
					言	言	は	は	・	・
					え	え	思	思	計	計
					ば	ば	わ	わ		
							な	な		
							い	い		
	全体	400	3.0	8.0	25.3	16.3	15.8	31.8	36.3	63.8
スポーツ関連事業別	スポーツ事業	200	5.5	13.0	40.5	20.0	10.0	11.0	59.0	41.0
	非スポーツ事業	200	0.5	3.0	10.0	12.5	21.5	52.5	13.5	86.5
営利・非営利別	営利企業 / 団体	200	3.5	11.5	28.5	15.5	17.5	23.5	43.5	56.5
	非営利団体	200	2.5	4.5	22.0	17.0	14.0	40.0	29.0	71.0
営利/非営利×スポーツ関連事業別	営利・スポーツ	100	7.0	17.0	47.0	16.0	9.0	4.0	71.0	29.0
	営利・非スポーツ	100	0.0	6.0	10.0	15.0	26.0	43.0	16.0	84.0
	非営利・スポーツ	100	4.0	9.0	34.0	24.0	11.0	18.0	47.0	53.0
	非営利・非スポーツ	100	1.0	0.0	10.0	10.0	17.0	62.0	11.0	89.0
海外売上比率別	40%未満	260	2.7	8.8	27.3	14.2	14.2	32.7	38.8	61.2
	40%以上	39	7.7	10.3	30.8	17.9	17.9	15.4	48.7	51.3
	└60%以上	14	7.1	21.4	35.7	14.3	7.1	14.3	64.3	35.7
	わからない	101	2.0	5.0	17.8	20.8	18.8	35.6	24.8	75.2
事業規模別	100億円未満	50	2.0	14.0	18.0	10.0	16.0	40.0	34.0	66.0
	100～499億円	50	2.0	4.0	34.0	18.0	22.0	20.0	40.0	60.0
	500億円以上	100	5.0	14.0	31.0	17.0	16.0	17.0	50.0	50.0
スポーツ関連事業別×事業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	4.0	28.0	36.0	20.0	4.0	8.0	68.0	32.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	4.0	8.0	52.0	16.0	16.0	4.0	64.0	36.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	10.0	16.0	50.0	14.0	8.0	2.0	76.0	24.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0	72.0	0.0	100.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	0.0	16.0	20.0	28.0	36.0	16.0	84.0
非スポーツ事業×500億円以上	50	0.0	12.0	12.0	20.0	24.0	32.0	24.0	76.0	
「現在」部門別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	8.5	19.9	42.6	20.6	6.4	2.1	70.9	29.1
	└自社部門	128	8.6	20.3	43.8	18.8	7.0	1.6	72.7	27.3
	└外部	9	11.1	11.1	33.3	44.4	0.0	0.0	55.6	44.4
	└その他	4	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0
「将来」担うべき部門別	自社部門	306	3.3	8.8	29.4	17.3	16.3	24.8	41.5	58.5
	外部	75	2.7	5.3	13.3	16.0	13.3	49.3	21.3	78.7
	その他	19	0.0	5.3	5.3	0.0	15.8	73.7	10.5	89.5

Q7 2020年以降の日本企業/団体の事業拡大・増加

2020年の東京オリンピックを契機に、日本企業・団体のスポーツ市場における事業展開の拡大、新規事業への参入の可能性は増加すると思われませんか？

- ・ オリンピックを契機に、日本企業・団体のスポーツ市場における事業展開の拡大、新規事業への参入の可能性について、「拡大・増加すると思う・計」(TOP3)と回答したのは50.5%

と、ほぼ半数に留まった。

- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』においては「拡大・増加すると思う」が 63.0%と、『非スポーツ事業』(38.0%) を大きく上回った。
- ・ スポーツ関連事業別×事業規模別では、『スポーツ事業×500 億円以上』の「拡大・増加すると思う」が 72.0%と高い。

		横%	大変 そう 思う	そう 思う	どちら かと言 えば	どち らかと 言え ば	そう は思 わな い	全 くそ うは 思 わ な い	す く と 思 う ・ 計	す く と 思 わ な い ・ 計
		全体(N)								
全体		400	3.5	10.5	36.5	14.0	14.5	21.0	50.5	49.5
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	6.0	16.0	41.0	18.0	10.5	8.5	63.0	37.0
	非スポーツ事業	200	1.0	5.0	32.0	10.0	18.5	33.5	38.0	62.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	5.0	10.0	37.5	14.5	14.5	18.5	52.5	47.5
	非営利団体	200	2.0	11.0	35.5	13.5	14.5	23.5	48.5	51.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	9.0	15.0	44.0	16.0	9.0	7.0	68.0	32.0
	営利・非スポーツ	100	1.0	5.0	31.0	13.0	20.0	30.0	37.0	63.0
	非営利・スポーツ	100	3.0	17.0	38.0	20.0	12.0	10.0	58.0	42.0
	非営利・非スポーツ	100	1.0	5.0	33.0	7.0	17.0	37.0	39.0	61.0
海外売上比 率別	40%未満	260	3.1	12.3	35.4	13.5	13.8	21.9	50.8	49.2
	40%以上	39	10.3	7.7	33.3	20.5	17.9	10.3	51.3	48.7
	└60%以上	14	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	57.1	42.9
	わからない	101	2.0	6.9	40.6	12.9	14.9	22.8	49.5	50.5
事業規模別	100億円未満	50	2.0	14.0	26.0	12.0	14.0	32.0	42.0	58.0
	100～499億円	50	2.0	8.0	46.0	14.0	16.0	14.0	56.0	44.0
	500億円以上	100	8.0	9.0	39.0	16.0	14.0	14.0	56.0	44.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	4.0	20.0	36.0	20.0	12.0	8.0	60.0	40.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	4.0	12.0	52.0	8.0	12.0	12.0	68.0	32.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	14.0	14.0	44.0	18.0	6.0	4.0	72.0	28.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	8.0	16.0	4.0	16.0	56.0	24.0	76.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	4.0	40.0	20.0	20.0	16.0	44.0	56.0
非スポーツ事業×500億円以上	50	2.0	4.0	34.0	14.0	22.0	24.0	40.0	60.0	
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	8.5	17.7	46.1	17.0	8.5	2.1	72.3	27.7
	└自社部門	128	7.8	19.5	46.1	16.4	8.6	1.6	73.4	26.6
	└外部	9	22.2	0.0	33.3	33.3	11.1	0.0	55.6	44.4
	└その他	4	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	75.0	25.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	3.9	12.4	39.2	14.7	13.4	16.3	55.6	44.4
	外部	75	2.7	5.3	29.3	14.7	14.7	33.3	37.3	62.7
	その他	19	0.0	0.0	21.1	0.0	31.6	47.4	21.1	78.9

Q8 2020年以降の自社/団体内の事業拡大・増加

2020年を契機として、お勤め先の企業・団体はスポーツに関連する事業展開を拡大する/新規事業に参入する計画はありますか？

- ・ スポーツ関連事業の展開を拡大する/新規事業に参入する計画が「ある」は 25.8%、「ない」は 74.3%であった。
- ・ 事業規模別でみると、『500億円以上』の企業・団体は『100億円未満』の企業・団体より「参入計画あり・計」のスコアが10pt以上高い。
- ・ 海外売上比率が『40%以上』の企業は、「参入計画あり・計」が41.0%と高い。

		横% 全体(N)	非常に ある	おそ らく ある	あ ど ち ら か と 言 え ば	な ど ち ら か と 言 え ば	お そ らく な い	全 く な い	参 入 計 画 あ り ・ 計	参 入 計 画 な し ・ 計
全体		400	1.3	5.8	18.8	16.3	23.0	35.0	25.8	74.3
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	2.5	10.5	32.5	21.0	18.5	15.0	45.5	54.5
	非スポーツ事業	200	0.0	1.0	5.0	11.5	27.5	55.0	6.0	94.0
営利・非営利 別	営利企業/団体	200	2.0	8.5	18.0	19.5	20.5	31.5	28.5	71.5
	非営利団体	200	0.5	3.0	19.5	13.0	25.5	38.5	23.0	77.0
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	4.0	15.0	31.0	24.0	13.0	13.0	50.0	50.0
	営利・非スポーツ	100	0.0	2.0	5.0	15.0	28.0	50.0	7.0	93.0
	非営利・スポーツ	100	1.0	6.0	34.0	18.0	24.0	17.0	41.0	59.0
海外売上比 率別	40%未満	260	1.5	5.8	17.3	14.2	23.8	37.3	24.6	75.4
	40%以上	39	0.0	12.8	28.2	28.2	10.3	20.5	41.0	59.0
	└60%以上	14	0.0	21.4	42.9	7.1	0.0	28.6	64.3	35.7
事業規模別	わからない	101	1.0	3.0	18.8	16.8	25.7	34.7	22.8	77.2
	100億円未満	50	2.0	8.0	12.0	12.0	20.0	46.0	22.0	78.0
	100～499億円	50	0.0	6.0	18.0	22.0	26.0	28.0	24.0	76.0
	500億円以上	100	3.0	10.0	21.0	22.0	18.0	26.0	34.0	66.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	4.0	16.0	24.0	20.0	24.0	12.0	44.0	56.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	0.0	12.0	28.0	32.0	12.0	16.0	40.0	60.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	6.0	16.0	36.0	22.0	8.0	12.0	58.0	42.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	0.0	0.0	4.0	16.0	80.0	0.0	100.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	0.0	8.0	12.0	40.0	40.0	8.0	92.0
「現在」部門 別	非スポーツ事業×500億円以上	50	0.0	4.0	6.0	22.0	28.0	40.0	10.0	90.0
	スポーツマーケ実施企業・団体	141	3.5	14.2	38.3	24.8	12.1	7.1	56.0	44.0
	└自社部門	128	3.9	14.1	39.1	25.0	11.7	6.3	57.0	43.0
	└外部	9	0.0	22.2	44.4	11.1	22.2	0.0	66.7	33.3
「将来」担うべ き部門別	└その他	4	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	自社部門	306	1.3	6.5	21.9	18.6	23.2	28.4	29.7	70.3
	外部	75	1.3	4.0	10.7	8.0	24.0	52.0	16.0	84.0
	その他	19	0.0	0.0	0.0	10.5	15.8	73.7	0.0	100.0

Q9 自社/団体内のスポーツマーケティング・事業運営能力

現在、お勤め先の企業・団体内に、自力でスポーツ関連のマーケティング・事業運営を実施する能力は十分にあると思いますか？

- ・ 自社、団体内でスポーツ関連のマーケティング・事業運営を実施する能力が「あると思う」(TOP3)と回答した人は21.3%に留まった。
- ・ 事業規模別では、『500億円以上』は「あると思う・計」が37.0%と全体に比べ高い。
- ・ スポーツを自社のブランド・マーケティング活動に活用している企業では、「あると思う・計」が49.2%であった。

		横%	大	そ	そ	そ	そ	全	あ	な
		全体(N)	変	う	ど	ど	う	く	る	い
			そ	う	ち	ち	は	そ	と	と
			う	思	ら	ら	は	う	思	思
			思	う	か	か	は	は	う	う
			う	う	と	と	は	は	・	・
			思	思	言	言	思	思	計	計
			う	う	え	え	わ	わ		
			思	思	ば	ば	な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			う	う			な	な		
			思	思			い	い		
			う	う			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思			な	な		
			う	う			い	い		
			思	思			わ	わ		
			思	思	</					

が並び高い。

- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』は、「自社部門」が 85.0%であり『非スポーツ事業』に比べ高い。
- ・ 海外売上比率別では、『40%以上』が「自社部門」が 84.6%と高く、中でも「自社広報部門」(28.2%)、「自社マーケティング部門」(20.5%)が高い。

		横%	自社広報部門	自社経営企画部門	自社マーケティング部門	自社事業部門	自社スポーツマーケティング部門	コンサルティング会社・コンサルタント	広告代理店	その他
		全体(N)								
全体		400	20.5	19.8	14.8	11.0	10.5	10.3	8.5	4.8
スポーツ関連事業別	スポーツ事業	200	19.5	21.5	14.5	14.5	15.0	7.5	7.0	0.5
	非スポーツ事業	200	21.5	18.0	15.0	7.5	6.0	13.0	10.0	9.0
営利・非営利別	営利企業 / 団体	200	22.0	24.0	18.5	11.5	7.0	6.5	8.0	2.5
	非営利団体	200	19.0	15.5	11.0	10.5	14.0	14.0	9.0	7.0
営利/非営利×スポーツ関連事業別	営利・スポーツ	100	23.0	27.0	16.0	14.0	9.0	4.0	7.0	0.0
	営利・非スポーツ	100	21.0	21.0	21.0	9.0	5.0	9.0	9.0	5.0
	非営利・スポーツ	100	16.0	16.0	13.0	15.0	21.0	11.0	7.0	1.0
	非営利・非スポーツ	100	22.0	15.0	9.0	6.0	7.0	17.0	11.0	13.0
海外売上比率別	40%未満	260	19.6	23.8	13.5	10.4	8.8	10.8	9.2	3.8
	40%以上	39	28.2	12.8	20.5	12.8	10.3	5.1	7.7	2.6
	└60%以上	14	28.6	7.1	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	7.1
	わからない	101	19.8	11.9	15.8	11.9	14.9	10.9	6.9	7.9
事業規模別	100億円未満	50	18.0	24.0	10.0	18.0	4.0	14.0	8.0	4.0
	100~499億円	50	18.0	38.0	18.0	10.0	6.0	2.0	8.0	0.0
	500億円以上	100	26.0	17.0	23.0	9.0	9.0	5.0	8.0	3.0
スポーツ関連事業別×事業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	28.0	24.0	8.0	24.0	4.0	4.0	8.0	0.0
	スポーツ事業×100~499億円	25	20.0	32.0	12.0	16.0	8.0	4.0	8.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	22.0	26.0	22.0	8.0	12.0	4.0	6.0	0.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	8.0	24.0	12.0	12.0	4.0	24.0	8.0	8.0
	非スポーツ事業×100~499億	25	16.0	44.0	24.0	4.0	4.0	0.0	8.0	0.0
非スポーツ事業×500億円以上	50	30.0	8.0	24.0	10.0	6.0	6.0	10.0	6.0	
「現在」部門別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	22.0	18.4	17.7	15.6	12.8	5.0	6.4	2.1
	└自社部門	128	23.4	18.8	19.5	16.4	14.1	3.9	3.9	0.0
	└外部	9	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	44.4	0.0
	└その他	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
「将来」担うべき部門別	自社部門	306	26.8	25.8	19.3	14.4	13.7	0.0	0.0	0.0
	外部	75	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.7	45.3	0.0
	その他	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※全体のスコアで降順ソート

			自 社 部 門	外 部
			横%	
			全体(N)	
	全体	400	76.5	18.8
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	85.0	14.5
	非スポーツ事業	200	68.0	23.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	83.0	14.5
	非営利団体	200	70.0	23.0
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	89.0	11.0
	営利・非スポーツ	100	77.0	18.0
	非営利・スポーツ	100	81.0	18.0
	非営利・非スポーツ	100	59.0	28.0
海外売上比 率別	40%未満	260	76.2	20.0
	40%以上	39	84.6	12.8
	└60%以上	14	78.6	14.3
	わからない	101	74.3	17.8
事業規模別	100億円未満	50	74.0	22.0
	100～499億円	50	90.0	10.0
	500億円以上	100	84.0	13.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	88.0	12.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	88.0	12.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	90.0	10.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	60.0	32.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	92.0	8.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	78.0	16.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	86.5	11.3
	└自社部門	128	92.2	7.8
	└外部	9	33.3	66.7
	└その他	4	25.0	0.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	100.0	0.0
	外部	75	0.0	100.0
	その他	19	0.0	0.0

※全体のスコアで降順ソート

Q11 必要な資質・能力 (TOP3)

「スポーツ経営人材」には、どのような資質・能力が必要だと考えますか？ (1:「全く必要ない」～7:「非常に必要」の間で、当てはまる番号をお選びください。)

- ・ スポーツ経営人材に必要な資質・能力は、「行動力、実行力」が77.0%で最も高く、「交渉力・折衝力」(75.3%)、「スポーツ関連事業・マーケティングに関する知識、ノウハウ」(69.5%)が続く。
- ・ 事業規模別では、『100~499億円』の企業は、「スポーツに対する興味や知識」(84.0%)、「スポーツを実際に行ってきた経験」(58.0%)のスコアが高い。
- ・ 海外売上比率別『40%以上』の企業・団体は全体的にスコアが低い、「海外における経験」(35.9%)のみ高い傾向がみられた。

		横% 全体(N)	行動力、 実行力	交渉力、 折衝力	スポーツ関連 事業・マーケ ティングに 関する知識、 ノウハウ	スポーツに 対する興味 や知識	リーダー シップ・ スキル	自 社 事 業 に 対 す る 理 解 や 事 業 経 験	基 本 的 な 知 識 、 ノ ウ ハ ウ	知 営 戦 略 、 ノ ウ ハ ウ 知 識 、 経 営 管 理 に 関 す る
全体		400	77.0	75.3	69.5	69.3	67.0	66.8	66.8	65.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	82.0	79.0	75.0	74.5	73.0	70.0	67.0	64.0
	非スポーツ事業	200	72.0	71.5	64.0	64.0	61.0	63.5	66.5	66.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	82.0	78.5	70.5	72.0	72.0	70.5	72.5	70.5
	非営利団体	200	72.0	72.0	68.5	66.5	62.0	63.0	61.0	59.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	85.0	82.0	78.0	77.0	76.0	75.0	73.0	69.0
	営利・非スポーツ	100	79.0	75.0	63.0	67.0	68.0	66.0	72.0	72.0
	非営利・スポーツ	100	79.0	76.0	72.0	72.0	70.0	65.0	61.0	59.0
	非営利・非スポーツ	100	65.0	68.0	65.0	61.0	54.0	61.0	61.0	60.0
海外売上比 率別	40%未満	260	83.5	80.4	78.1	77.3	73.5	71.9	73.5	71.9
	40%以上	39	66.7	64.1	51.3	56.4	61.5	61.5	59.0	56.4
	└60%以上	14	71.4	78.6	57.1	78.6	71.4	78.6	85.7	78.6
	わからない	101	64.4	66.3	54.5	53.5	52.5	55.4	52.5	50.5
事業規模別	100億円未満	50	84.0	84.0	72.0	74.0	72.0	74.0	72.0	76.0
	100~499億円	50	86.0	82.0	76.0	84.0	76.0	74.0	72.0	68.0
	500億円以上	100	79.0	74.0	67.0	65.0	70.0	67.0	73.0	69.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	92.0	96.0	84.0	84.0	84.0	84.0	80.0	84.0
	スポーツ事業×100~499億円	25	92.0	84.0	80.0	80.0	76.0	76.0	68.0	60.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	78.0	74.0	74.0	72.0	72.0	70.0	72.0	66.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	76.0	72.0	60.0	64.0	60.0	64.0	64.0	68.0
	非スポーツ事業×100~499億	25	80.0	80.0	72.0	88.0	76.0	72.0	76.0	76.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	80.0	74.0	60.0	58.0	68.0	64.0	74.0	72.0

※全体のスコアで降順ソート

		横%	英語能力	スポーツを実際に 行ってきた経験	海外における経験 (留学、事業経験等)
		全体(N)			
全体		400	48.0	45.5	25.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	52.5	52.5	28.0
	非スポーツ事業	200	43.5	38.5	22.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	52.0	47.5	30.5
	非営利団体	200	44.0	43.5	19.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	58.0	57.0	35.0
	営利・非スポーツ	100	46.0	38.0	26.0
	非営利・スポーツ	100	47.0	48.0	21.0
	非営利・非スポーツ	100	41.0	39.0	18.0
海外売上比 率別	40%未満	260	48.1	51.5	23.1
	40%以上	39	43.6	35.9	35.9
	└60%以上	14	50.0	35.7	42.9
	わからない	101	49.5	33.7	25.7
事業規模別	100億円未満	50	50.0	46.0	28.0
	100～499億円	50	56.0	58.0	22.0
	500億円以上	100	51.0	43.0	36.0
スポーツ関連 事業別 × 事 業規模別	スポーツ事業 × 100億円未満	25	60.0	56.0	28.0
	スポーツ事業 × 100～499億円	25	64.0	72.0	32.0
	スポーツ事業 × 500億円以上	50	54.0	50.0	40.0
	非スポーツ事業 × 100億円未満	25	40.0	36.0	28.0
	非スポーツ事業 × 100～499億	25	48.0	44.0	12.0
	非スポーツ事業 × 500億円以上	50	48.0	36.0	32.0

※全体のスコアで降順ソート

Q13 重要な職務内容 (TOP3)

想定される「スポーツ経営人材」の職務内容で重要なものは何だと考えますか？（1：「全く重要ではない」～7：「非常に重要」の間で、当てはまる番号をお選びください。）

【TOP3 一覧】

- ・ 「スポーツ経営人材」の職務内容で重要なものとして、「経営・事業とスポーツ関連事業・マーケティングの連携」(66.8%)、「スポーツ関連事業・マーケティングの実行」(66.3%)などが高い。
- ・ 海外売上比率別が『40%以上』の企業は、「スポーツ団体との関係構築 (国内)」のスコアが51.3%で、「40%未満」(69.6%)に比べ低い。
- ・ 事業規模別が『100億年未満』および『100~499億円』の企業は、「経営・事業とスポーツ関連事業・マーケティングの連携」が74.0%で高い。
- ・ 一方で、『500億円以上』は、「スポーツ団体との関係構築 (海外)」が56.0%と高い。

Q15 人材育成のための取組

現在、お勤め先の企業・団体内にて、スポーツ関連事業・マーケティングを推進する（あるいは将来的にできる）「スポーツ経営人材」を育成するための取組を行っていますか？

- ・ 「スポーツ経営人材」を育成するための取組を行っている企業は11.3%に留まる。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』の「スポーツ経営人材」を育成するための取組を行っている企業は20.5%で、『非スポーツ事業』（2.0%）に比べ高い。
- ・ 海外売上比率別が『40%以上』の企業は、「行っている」が25.6%と高い。

		横%	行 っ て い る	行 っ て い な い	わ か ら な い
		全体(N)			
全体		400	11.3	71.3	17.5
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	20.5	58.0	21.5
	非スポーツ事業	200	2.0	84.5	13.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	15.5	64.0	20.5
	非営利団体	200	7.0	78.5	14.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	29.0	48.0	23.0
	営利・非スポーツ	100	2.0	80.0	18.0
	非営利・スポーツ	100	12.0	68.0	20.0
	非営利・非スポーツ	100	2.0	89.0	9.0
海外売上比 率別	40%未満	260	11.5	78.8	9.6
	40%以上	39	25.6	48.7	25.6
	└60%以上	14	21.4	57.1	21.4
	わからない	101	5.0	60.4	34.7
事業規模別	100億円未満	50	16.0	76.0	8.0
	100～499億円	50	10.0	74.0	16.0
	500億円以上	100	18.0	53.0	29.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	32.0	56.0	12.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	20.0	60.0	20.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	32.0	38.0	30.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	96.0	4.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	88.0	12.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	68.0	28.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	26.2	46.1	27.7
	└自社部門	128	28.1	44.5	27.3
	└外部	9	11.1	66.7	22.2
	└その他	4	0.0	50.0	50.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	13.4	66.7	19.9
	外部	75	5.3	85.3	9.3
	その他	19	0.0	89.5	10.5

Q17 現在の人材の有無

現在、お勤め先の企業・団体内に「スポーツ経営人材」の要件を満たす人材はおられますか？

- ・ 「スポーツ経営人材」の要件を満たす人材が「いる・計」と答えた企業は、全体の27.3%であった。
- ・ 営利/非営利×スポーツ関連事業別では、『営利・スポーツ』企業・団体は、「いる・計」が54.0%と、他の企業・団体と比べ高い。
- ・ 「現在」部門別では、『スポーツマーケ実施企業・団体』の「いる・計」が49.6%と半数程度を占めた。

		横%								
		全体(N)	十分に いる	おそ らく いる	ど ち ら か と 言 え ば い る	ど ち ら か と 言 え ば い ない	お そ らく い ない	全 く い ない	い る ・ 計	い ない ・ 計
全体		400	1.5	7.3	18.5	25.0	23.3	24.5	27.3	72.8
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	2.5	9.5	30.0	32.0	19.0	7.0	42.0	58.0
	非スポーツ事業	200	0.5	5.0	7.0	18.0	27.5	42.0	12.5	87.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	2.0	8.5	25.0	24.0	20.0	20.5	35.5	64.5
	非営利団体	200	1.0	6.0	12.0	26.0	26.5	28.5	19.0	81.0
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	4.0	9.0	41.0	27.0	14.0	5.0	54.0	46.0
	営利・非スポーツ	100	0.0	8.0	9.0	21.0	26.0	36.0	17.0	83.0
	非営利・スポーツ	100	1.0	10.0	19.0	37.0	24.0	9.0	30.0	70.0
	非営利・非スポーツ	100	1.0	2.0	5.0	15.0	29.0	48.0	8.0	92.0
海外売上比 率別	40%未満	260	0.8	5.4	19.6	23.8	24.2	26.2	25.8	74.2
	40%以上	39	5.1	10.3	23.1	35.9	15.4	10.3	38.5	61.5
	└60%以上	14	7.1	28.6	14.3	21.4	14.3	14.3	50.0	50.0
	わからない	101	2.0	10.9	13.9	23.8	23.8	25.7	26.7	73.3
事業規模別	100億円未満	50	4.0	14.0	28.0	8.0	14.0	32.0	46.0	54.0
	100～499億円	50	0.0	6.0	16.0	36.0	22.0	20.0	22.0	78.0
	500億円以上	100	2.0	7.0	28.0	26.0	22.0	15.0	37.0	63.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	8.0	16.0	56.0	8.0	12.0	0.0	80.0	20.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	0.0	4.0	20.0	48.0	16.0	12.0	24.0	76.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	8.0	44.0	26.0	14.0	4.0	56.0	44.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	12.0	0.0	8.0	16.0	64.0	12.0	88.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	8.0	12.0	24.0	28.0	28.0	20.0	80.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	0.0	6.0	12.0	26.0	30.0	26.0	18.0	82.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	2.8	10.6	36.2	31.2	16.3	2.8	49.6	50.4
	└自社部門	128	3.1	10.9	37.5	30.5	14.8	3.1	51.6	48.4
	└外部	9	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7
	└その他	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	2.0	8.2	21.9	28.4	19.6	19.9	32.0	68.0
	外部	75	0.0	4.0	9.3	13.3	38.7	34.7	13.3	86.7
	その他	19	0.0	5.3	0.0	15.8	21.1	57.9	5.3	94.7

Q18 将来的な人材の有無

現在、お勤め先の企業・団体内に「スポーツ経営人材」の要件を将来的に満たすことのできそうな候補人材は存在しますか？

- ・ 「スポーツ経営人材」の要件を将来的に満たすことのできそうな候補人材が「いる・計」は32.3%であった。
- ・ スポーツ関連事業別では『スポーツ事業』の「いる・計」が49.5%と半数程度を占め、営
利/非営利×スポーツ関連事業別の『営利・スポーツ』企業・団体となると56.0%であっ
た。
- ・ また、スポーツ関連事業別×事業規模別では、『スポーツ事業×500億円以上』の企業・団
体も56.0%と高い。

		横%	十分に いる	おそらく いる	どちらか と言え ばいる	どちらか と言え ばいな い	おそらく いな い	全 く い な い	い る ・ 計	い な い ・ 計
		全体(N)								
全体		400	1.0	10.5	20.8	22.3	25.5	20.0	32.3	67.8
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	1.5	15.0	33.0	23.5	21.5	5.5	49.5	50.5
	非スポーツ事業	200	0.5	6.0	8.5	21.0	29.5	34.5	15.0	85.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	1.5	13.5	24.0	23.5	21.0	16.5	39.0	61.0
	非営利団体	200	0.5	7.5	17.5	21.0	30.0	23.5	25.5	74.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	2.0	15.0	39.0	24.0	15.0	5.0	56.0	44.0
	営利・非スポーツ	100	1.0	12.0	9.0	23.0	27.0	28.0	22.0	78.0
	非営利・スポーツ	100	1.0	15.0	27.0	23.0	28.0	6.0	43.0	57.0
海外売上比 率別	非営利・非スポーツ	100	0.0	0.0	8.0	19.0	32.0	41.0	8.0	92.0
	40%未満	260	0.4	10.4	21.2	18.8	29.2	20.0	31.9	68.1
	40%以上	39	5.1	10.3	30.8	33.3	10.3	10.3	46.2	53.8
事業規模別	└60%以上	14	14.3	14.3	21.4	21.4	14.3	14.3	50.0	50.0
	わからない	101	1.0	10.9	15.8	26.7	21.8	23.8	27.7	72.3
	100億円未満	50	0.0	16.0	30.0	6.0	20.0	28.0	46.0	54.0
	100～499億円	50	0.0	12.0	20.0	34.0	22.0	12.0	32.0	68.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	500億円以上	100	3.0	13.0	23.0	27.0	21.0	13.0	39.0	61.0
	スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	20.0	60.0	4.0	16.0	0.0	80.0	20.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	0.0	8.0	24.0	40.0	16.0	12.0	32.0	68.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	16.0	36.0	26.0	14.0	4.0	56.0	44.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	12.0	0.0	8.0	24.0	56.0	12.0	88.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	16.0	16.0	28.0	28.0	12.0	32.0	68.0
「現在」部門 別	非スポーツ事業×500億円以上	50	2.0	10.0	10.0	28.0	28.0	22.0	22.0	78.0
	スポーツマーケ実施企業・団体	141	2.8	17.0	36.2	24.8	17.0	2.1	56.0	44.0
	└自社部門	128	3.1	18.0	39.1	21.9	15.6	2.3	60.2	39.8
	└外部	9	0.0	0.0	11.1	55.6	33.3	0.0	11.1	88.9
「将来」担うべ き部門別	└その他	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0
	自社部門	306	1.3	11.4	25.2	23.5	22.9	15.7	37.9	62.1
	外部	75	0.0	8.0	8.0	18.7	36.0	29.3	16.0	84.0
	その他	19	0.0	5.3	0.0	15.8	26.3	52.6	5.3	94.7

Q19 国内における人材の有無

国内において、「スポーツ経営人材」の採用候補者は存在すると思いますか？

- ・ 国内に「スポーツ経営人材」の採用候補者が「いると思う・計」は48.5%であった。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』の「いると思う・計」は62.5%で、『非スポーツ事業』(34.5%)に比べ高い。
- ・ 海外売上比率別が『40%以上』の企業・団体は「いると思う・計」が56.4%であった。

		横%								
		全体(N)	十分に いると 思う	おそ らく いる と 思う	い ど ち ら か と 言 え ば	い ど ち ら か と 言 え ば	お そ らく い ない と 思 う	全 く い ない と 思 う	い る と 思 う ・ 計	い ない と 思 う ・ 計
全体		400	5.3	16.3	27.0	19.3	17.8	14.5	48.5	51.5
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	7.0	18.0	37.5	20.0	11.5	6.0	62.5	37.5
	非スポーツ事業	200	3.5	14.5	16.5	18.5	24.0	23.0	34.5	65.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	6.5	14.0	27.0	23.0	17.5	12.0	47.5	52.5
	非営利団体	200	4.0	18.5	27.0	15.5	18.0	17.0	49.5	50.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	8.0	16.0	37.0	23.0	11.0	5.0	61.0	39.0
	営利・非スポーツ	100	5.0	12.0	17.0	23.0	24.0	19.0	34.0	66.0
	非営利・スポーツ	100	6.0	20.0	38.0	17.0	12.0	7.0	64.0	36.0
	非営利・非スポーツ	100	2.0	17.0	16.0	14.0	24.0	27.0	35.0	65.0
海外売上比 率別	40%未満	260	5.0	16.2	28.5	17.7	19.2	13.5	49.6	50.4
	40%以上	39	12.8	10.3	33.3	23.1	15.4	5.1	56.4	43.6
	└60%以上	14	28.6	14.3	21.4	7.1	21.4	7.1	64.3	35.7
	わからない	101	3.0	18.8	20.8	21.8	14.9	20.8	42.6	57.4
事業規模別	100億円未満	50	6.0	20.0	22.0	18.0	12.0	22.0	48.0	52.0
	100～499億円	50	4.0	10.0	30.0	28.0	18.0	10.0	44.0	56.0
	500億円以上	100	8.0	13.0	28.0	23.0	20.0	8.0	49.0	51.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	20.0	36.0	24.0	8.0	0.0	68.0	32.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	4.0	8.0	36.0	32.0	8.0	12.0	48.0	52.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	18.0	38.0	18.0	14.0	4.0	64.0	36.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	20.0	8.0	12.0	16.0	44.0	28.0	72.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	4.0	12.0	24.0	24.0	28.0	8.0	40.0	60.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	8.0	18.0	28.0	26.0	12.0	34.0	66.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	7.1	17.0	43.3	20.6	8.5	3.5	67.4	32.6
	└自社部門	128	7.8	18.0	44.5	16.4	9.4	3.9	70.3	29.7
	└外部	9	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	66.7
	└その他	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	5.9	15.7	30.1	19.9	17.6	10.8	51.6	48.4
	外部	75	2.7	21.3	17.3	18.7	18.7	21.3	41.3	58.7
	その他	19	5.3	5.3	15.8	10.5	15.8	47.4	26.3	73.7

Q20 人材の採用意向

もし、「スポーツ経営人材」の要件を満たす採用候補者がいれば、積極的に採用したいと思いませんか？

- ・ 「スポーツ経営人材」の要件を満たす採用候補者の採用意向は39.0%であった。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』の「採用したい・計」は61.5%で、『非スポーツ事業』（16.5%）に比べ圧倒的に高い。また、海外売上比率別では『40%以上』が53.8%と高い。
- ・ 現在、『スポーツマーケティングを自社部門で行っている企業・団体』は、「採用したい・計」が69.5%と、高い。

		横%	大変 そう 思う	そう 思う	どちら かと言 えば	どち らは 思わ ない 言え ば	そ うは 思わ ない	全 くそ うは 思わ ない	採 用し たい ・ 計	採 用し たく ない ・ 計
		全体(N)								
全体		400	2.5	8.5	28.0	23.8	17.5	19.8	39.0	61.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	4.5	15.0	42.0	22.5	10.0	6.0	61.5	38.5
	非スポーツ事業	200	0.5	2.0	14.0	25.0	25.0	33.5	16.5	83.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	4.0	11.5	26.5	26.5	16.5	15.0	42.0	58.0
	非営利団体	200	1.0	5.5	29.5	21.0	18.5	24.5	36.0	64.0
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	7.0	20.0	40.0	21.0	9.0	3.0	67.0	33.0
	営利・非スポーツ	100	1.0	3.0	13.0	32.0	24.0	27.0	17.0	83.0
	非営利・スポーツ	100	2.0	10.0	44.0	24.0	11.0	9.0	56.0	44.0
	非営利・非スポーツ	100	0.0	1.0	15.0	18.0	26.0	40.0	16.0	84.0
海外売上比 率別	40%未満	260	2.3	7.7	29.6	20.8	18.8	20.8	39.6	60.4
	40%以上	39	7.7	23.1	23.1	28.2	10.3	7.7	53.8	46.2
	└60%以上	14	14.3	28.6	28.6	14.3	7.1	7.1	71.4	28.6
	わからない	101	1.0	5.0	25.7	29.7	16.8	21.8	31.7	68.3
事業規模別	100億円未満	50	6.0	8.0	28.0	18.0	18.0	22.0	42.0	58.0
	100~499億円	50	2.0	10.0	30.0	36.0	16.0	6.0	42.0	58.0
	500億円以上	100	4.0	14.0	24.0	26.0	16.0	16.0	42.0	58.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	16.0	52.0	16.0	4.0	0.0	80.0	20.0
	スポーツ事業×100~499億円	25	4.0	16.0	44.0	28.0	4.0	4.0	64.0	36.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	6.0	24.0	32.0	20.0	14.0	4.0	62.0	38.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	0.0	4.0	20.0	32.0	44.0	4.0	96.0
	非スポーツ事業×100~499億	25	0.0	4.0	16.0	44.0	28.0	8.0	20.0	80.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	2.0	4.0	16.0	32.0	18.0	28.0	22.0	78.0
「現在」部門 別	スポーツマーケ実施企業・団体	141	5.7	19.9	41.1	19.9	8.5	5.0	66.7	33.3
	└自社部門	128	6.3	20.3	43.0	17.2	8.6	4.7	69.5	30.5
	└外部	9	0.0	11.1	33.3	44.4	11.1	0.0	44.4	55.6
	└その他	4	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	75.0
「将来」担うべ き部門別	自社部門	306	3.3	9.8	30.7	23.9	17.6	14.7	43.8	56.2
	外部	75	0.0	5.3	22.7	24.0	20.0	28.0	28.0	72.0
	その他	19	0.0	0.0	5.3	21.1	5.3	68.4	5.3	94.7

Q21 人材の採用形態

あなたがお勤めの企業・団体において「スポーツ経営人材」の望ましい採用形態についてお考えをお聞かせください。(いくつでも)

- ・ 「スポーツ経営人材」の望ましい採用形態は、「正社員(担当レベル)」(47.8%)、「正社員(管理職)」(35.5%)が並び高い。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ関連事業』の「正社員(担当レベル)」が58.0%で、『非スポーツ企業』(37.5%)に比べ高い。
- ・ スポーツ関連事業別×事業規模別では、『スポーツ事業×500億円以上』は、「正社員(担当レベル)」が64.0%と高い。

		横%	正社員 (担当レベル)	正社員 (管理職)	顧問、 アドバイザー等	非正規契約社員	社外取締役	社内取締役	その他
		全体(N)							
全体		400	47.8	35.5	25.5	10.3	7.0	4.5	2.8
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	58.0	40.0	25.5	9.5	7.5	4.0	0.5
	非スポーツ事業	200	37.5	31.0	25.5	11.0	6.5	5.0	5.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	46.0	41.5	23.0	11.0	9.0	4.5	2.0
	非営利団体	200	49.5	29.5	28.0	9.5	5.0	4.5	3.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	59.0	49.0	20.0	8.0	10.0	5.0	1.0
	営利・非スポーツ	100	33.0	34.0	26.0	14.0	8.0	4.0	3.0
	非営利・スポーツ	100	57.0	31.0	31.0	11.0	5.0	3.0	0.0
	非営利・非スポーツ	100	42.0	28.0	25.0	8.0	5.0	6.0	7.0
海外売上比 率別	40%未満	260	46.5	37.7	26.2	10.0	7.7	5.4	2.3
	40%以上	39	56.4	35.9	23.1	2.6	2.6	0.0	5.1
	└60%以上	14	42.9	28.6	28.6	7.1	0.0	0.0	7.1
	わからない	101	47.5	29.7	24.8	13.9	6.9	4.0	3.0
事業規模別	100億円未満	50	42.0	38.0	24.0	16.0	6.0	8.0	4.0
	100～499億円	50	40.0	44.0	22.0	8.0	14.0	8.0	2.0
	500億円以上	100	51.0	42.0	23.0	10.0	8.0	1.0	1.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	64.0	64.0	16.0	8.0	8.0	4.0	0.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	44.0	48.0	20.0	8.0	12.0	12.0	4.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	64.0	42.0	22.0	8.0	10.0	2.0	0.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	20.0	12.0	32.0	24.0	4.0	12.0	8.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	36.0	40.0	24.0	8.0	16.0	4.0	0.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	38.0	42.0	24.0	12.0	6.0	0.0	2.0

※全体のスコアで降順ソート頂ソート

			取 締 役 ・ 計	正 社 員 ・ 計
			横%	
			全体(N)	
	全体	400	9.5	70.3
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	9.0	80.0
	非スポーツ事業	200	10.0	60.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	11.5	71.0
	非営利団体	200	7.5	69.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	12.0	84.0
	営利・非スポーツ	100	11.0	58.0
	非営利・スポーツ	100	6.0	76.0
	非営利・非スポーツ	100	9.0	63.0
海外売上比 率別	40%未満	260	10.8	70.4
	40%以上	39	2.6	76.9
	└ 60%以上	14	0.0	64.3
	わからない	101	8.9	67.3
事業規模別	100億円未満	50	12.0	56.0
	100～499億円	50	18.0	74.0
	500億円以上	100	8.0	77.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	8.0	88.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	20.0	80.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	10.0	84.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	16.0	24.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	16.0	68.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	6.0	70.0

※全体のスコアで降順ソート

Q22 人材採用時の年収

あなたがお勤めの企業・団体において「スポーツ経営人材」採用時の妥当だと思われる年収レベルについてお考えをお聞かせください。

- ・ 「スポーツ経営人材」採用時の妥当だと思う年収は、「500～999万円」が55.3%で過半数を占めた。
- ・ スポーツ関連事業別では、『非スポーツ事業』は「499万円以下」が30.5%と高い。
- ・ 営利・非営利別では、『非営利団体』の「999万円以下」が85.5%で、『営利企業/団体』(68.0%)に比べ高い。
- ・ 海外売上比率別が『40%以上』の企業は、「1,000万円以上」が53.8%、「1,500万円以上」も17.0%と高い。

		4 9 9 万 円 以 下	5 0 0 万 円 以 下	1 0 4 0 9 0 万 円 以 下	1 1 5 0 9 0 万 円 以 下	2 0 4 0 9 0 万 円 以 上	2 0 0 0 万 円 以 上	2 5 0 0 万 円 以 上
		横% 全体(N)						
全体		400	21.5	55.3	16.3	3.8	1.8	1.5
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	12.5	61.5	16.5	6.5	1.5	1.5
	非スポーツ事業	200	30.5	49.0	16.0	1.0	2.0	1.5
営利・非営利 別	営利企業/団体	200	16.0	52.0	22.0	5.5	2.0	2.5
	非営利団体	200	27.0	58.5	10.5	2.0	1.5	0.5
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	8.0	56.0	21.0	10.0	2.0	3.0
	営利・非スポーツ	100	24.0	48.0	23.0	1.0	2.0	2.0
	非営利・スポーツ	100	17.0	67.0	12.0	3.0	1.0	0.0
	非営利・非スポーツ	100	37.0	50.0	9.0	1.0	2.0	1.0
海外売上比 率別	40%未満	260	22.7	56.5	15.4	3.1	1.5	0.8
	40%以上	39	7.7	38.5	35.9	10.3	5.1	2.6
	└60%以上	14	7.1	50.0	42.9	0.0	0.0	0.0
	わからない	101	23.8	58.4	10.9	3.0	1.0	3.0
事業規模別	100億円未満	50	32.0	56.0	10.0	2.0	0.0	0.0
	100～499億円	50	14.0	68.0	14.0	2.0	2.0	0.0
	500億円以上	100	9.0	42.0	32.0	9.0	3.0	5.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	8.0	84.0	4.0	4.0	0.0	0.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	12.0	68.0	16.0	4.0	0.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	6.0	36.0	32.0	16.0	4.0	6.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	56.0	28.0	16.0	0.0	0.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	16.0	68.0	12.0	0.0	4.0	0.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	12.0	48.0	32.0	2.0	2.0	4.0

			9 9 9 万 円 以 下	1 0 0 0 万 円 以 上	1 5 0 0 万 円 以 上
		横%			
		全体(N)			
全体		400	76.8	23.3	7.0
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	74.0	26.0	9.5
	非スポーツ事業	200	79.5	20.5	4.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	68.0	32.0	10.0
	非営利団体	200	85.5	14.5	4.0
営利/非営利 × スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	64.0	36.0	15.0
	営利・非スポーツ	100	72.0	28.0	5.0
	非営利・スポーツ	100	84.0	16.0	4.0
	非営利・非スポーツ	100	87.0	13.0	4.0
海外売上比 率別	40%未満	260	79.2	20.8	5.4
	40%以上	39	46.2	53.8	17.9
	└ 60%以上	14	57.1	42.9	0.0
	わからない	101	82.2	17.8	6.9
事業規模別	100億円未満	50	88.0	12.0	2.0
	100～499億円	50	82.0	18.0	4.0
	500億円以上	100	51.0	49.0	17.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	92.0	8.0	4.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	80.0	20.0	4.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	42.0	58.0	26.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	84.0	16.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	84.0	16.0	4.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	60.0	40.0	8.0

Q23 MBA 学位プログラム国内設置の意義

「スポーツ経営人材」を育成するために、大学院レベルのスポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムを国内に創設することは意義が大きいと思われますか？

- ・ スポーツ MBA を国内に創設することに対して、「意義があると思う・計」と答えたのは 47.5%であった。
- ・ スポーツ関連事業別では、『スポーツ事業』の「意義があると思う・計」が 57.5%で高い。
- ・ 営利/非営利×スポーツ関連事業別では、『営利・スポーツ』企業・団体も「意義があると思う・計」が 66.0%で高い。

		横%									
		全体(N)	大変 そう 思う	そう 思う	どちら かと言 えば	どち らは 思わ ない	そ うは 思わ ない	全 くそ うは 思わ ない	意 義が ある と 思 う・ 計	意 義 が な い と 思 う・ 計	
	全体	400	3.5	9.0	35.0	24.3	16.3	12.0	47.5	52.5	
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	4.0	12.0	41.5	22.0	13.0	7.5	57.5	42.5	
	非スポーツ事業	200	3.0	6.0	28.5	26.5	19.5	16.5	37.5	62.5	
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	4.5	8.0	36.0	24.0	15.5	12.0	48.5	51.5	
	非営利団体	200	2.5	10.0	34.0	24.5	17.0	12.0	46.5	53.5	
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	5.0	14.0	47.0	17.0	10.0	7.0	66.0	34.0	
	営利・非スポーツ	100	4.0	2.0	25.0	31.0	21.0	17.0	31.0	69.0	
	非営利・スポーツ	100	3.0	10.0	36.0	27.0	16.0	8.0	49.0	51.0	
	非営利・非スポーツ	100	2.0	10.0	32.0	22.0	18.0	16.0	44.0	56.0	
海外売上比 率別	40%未満	260	2.3	9.6	38.8	21.5	16.5	11.2	50.8	49.2	
	40%以上	39	7.7	12.8	28.2	25.6	15.4	10.3	48.7	51.3	
	└60%以上	14	14.3	14.3	28.6	14.3	7.1	21.4	57.1	42.9	
	わからない	101	5.0	5.9	27.7	30.7	15.8	14.9	38.6	61.4	
事業規模別	100億円未満	50	6.0	4.0	44.0	14.0	12.0	20.0	54.0	46.0	
	100～499億円	50	0.0	10.0	30.0	32.0	24.0	4.0	40.0	60.0	
	500億円以上	100	6.0	9.0	35.0	25.0	13.0	12.0	50.0	50.0	
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	8.0	64.0	4.0	4.0	8.0	84.0	16.0	
	スポーツ事業×100～499億円	25	0.0	20.0	36.0	20.0	20.0	4.0	56.0	44.0	
	スポーツ事業×500億円以上	50	4.0	14.0	44.0	22.0	8.0	8.0	62.0	38.0	
	非スポーツ事業×100億円未満	25	0.0	0.0	24.0	24.0	20.0	32.0	24.0	76.0	
	非スポーツ事業×100～499億	25	0.0	0.0	24.0	44.0	28.0	4.0	24.0	76.0	
	非スポーツ事業×500億円以上	50	8.0	4.0	26.0	28.0	18.0	16.0	38.0	62.0	

Q26 使用言語

スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの創設にあたって望ましい使用言語についてお答えください。

- ・ スポーツ MBA における望ましい使用言語は、「日本語、英語の両言語併用」が 64.0%であった。
- ・ 海外売上比率が『40%以上』の企業・団体は、「日本語、英語のいずれでも良い」が 23.1%で、『40%未満』(14.6%)に比べ高い。
- ・ 事業規模別が『100~499 億円』の企業・団体は、「日本語、英語の両言語併用」が 72.0%と高い。

		横%	日	英	両	い
		全体(N)	本	語	日	日
			語	の	本	本
			の	み	語	語
			み		併	で
					用	も
					英	英
					語	語
					の	の
	全体	400	18.3	1.5	64.0	16.3
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	18.5	1.0	66.0	14.5
	非スポーツ事業	200	18.0	2.0	62.0	18.0
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	18.0	2.5	63.5	16.0
	非営利団体	200	18.5	0.5	64.5	16.5
営利/非営利 × スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	18.0	1.0	67.0	14.0
	営利・非スポーツ	100	18.0	4.0	60.0	18.0
	非営利・スポーツ	100	19.0	1.0	65.0	15.0
	非営利・非スポーツ	100	18.0	0.0	64.0	18.0
海外売上比 率別	40%未満	260	18.8	0.8	65.8	14.6
	40%以上	39	12.8	5.1	59.0	23.1
	└60%以上	14	0.0	14.3	64.3	21.4
	わからない	101	18.8	2.0	61.4	17.8
事業規模別	100億円未満	50	22.0	0.0	64.0	14.0
	100~499億円	50	16.0	0.0	72.0	12.0
	500億円以上	100	17.0	5.0	59.0	19.0
スポーツ関連 事業別 × 事 業規模別	スポーツ事業 × 100億円未満	25	16.0	0.0	68.0	16.0
	スポーツ事業 × 100~499億円	25	16.0	0.0	80.0	4.0
	スポーツ事業 × 500億円以上	50	20.0	2.0	60.0	18.0
	非スポーツ事業 × 100億円未満	25	28.0	0.0	60.0	12.0
	非スポーツ事業 × 100~499億	25	16.0	0.0	64.0	20.0
	非スポーツ事業 × 500億円以上	50	14.0	8.0	58.0	20.0

Q27 開講形態

スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの開講形態として望ましい開講形態についてお答えください。

- ・ スポーツ MBA プログラムの開講形態について、「開講形態にはこだわらない」が 49.8%と半数を占めた。
- ・ 海外売上比率別が『40%以上』の企業・団体は、「全日制」が 35.9%で、『40%未満』（19.2%）に比べ高い。

		横%	全日制	お平日 よび夜間 土曜日 開講	こ開 だ講 わ形 ら態 な い は	望ま し の 他 の 形 態 が
		全体(N)				
	全体	400	23.0	27.0	49.8	0.3
スポーツ関連 事業別	スポーツ事業	200	23.0	27.5	49.5	0.0
	非スポーツ事業	200	23.0	26.5	50.0	0.5
営利・非営利 別	営利企業 / 団体	200	24.5	30.5	44.5	0.5
	非営利団体	200	21.5	23.5	55.0	0.0
営利/非営利 ×スポーツ関 連事業別	営利・スポーツ	100	29.0	28.0	43.0	0.0
	営利・非スポーツ	100	20.0	33.0	46.0	1.0
	非営利・スポーツ	100	17.0	27.0	56.0	0.0
	非営利・非スポーツ	100	26.0	20.0	54.0	0.0
海外売上比 率別	40%未満	260	19.2	31.2	49.2	0.4
	40%以上	39	35.9	17.9	46.2	0.0
	└60%以上	14	42.9	7.1	50.0	0.0
	わからない	101	27.7	19.8	52.5	0.0
事業規模別	100億円未満	50	20.0	26.0	54.0	0.0
	100～499億円	50	22.0	32.0	46.0	0.0
	500億円以上	100	28.0	32.0	39.0	1.0
スポーツ関連 事業別×事 業規模別	スポーツ事業×100億円未満	25	28.0	28.0	44.0	0.0
	スポーツ事業×100～499億円	25	20.0	32.0	48.0	0.0
	スポーツ事業×500億円以上	50	34.0	26.0	40.0	0.0
	非スポーツ事業×100億円未満	25	12.0	24.0	64.0	0.0
	非スポーツ事業×100～499億	25	24.0	32.0	44.0	0.0
	非スポーツ事業×500億円以上	50	22.0	38.0	38.0	2.0

(5) 出口調査

「TIAS 修了生調査」

【調査概要】（再掲）

教育目的がスポーツ MBA と部分的に交差する TIAS の修了生を対象として、修了後の実務経験を通して、スポーツマネジメントに対するグローバルな視点や提供すべき教育プログラムやカリキュラムの内容に関する示唆を得た。結果サンプル数は 28 名である。（配信数 36 件、回収率 78%）

a. 調査対象

TIAS の修了生 36 名を対象とした追跡調査を行う。

b. 調査方法

Google アンケートフォームによる Web 質問票調査を行う。
実施時期は 1 月。

c. 調査項目

- ・ 卒業年
- ・ 年齢
- ・ 国籍
- ・ 性別
- ・ TIAS の期待充足度
- ・ TIAS プログラムの評価
- ・ 就業状況
- ・ TIAS 修了とスポーツ産業への就業

d. 分析方法

- ・ 基礎統計およびクロス集計

Q1 修了年

Your graduation year

Please answer about your profile.

(和訳) 修了年

あなたのプロフィールについてお答えください。

- ・ 2017年修了生が11名、2018年修了生が17名の総勢28名であった。

		3 2		3 2	
		月 0		月 0	
		1		1	
		7		8	
		年		年	
		件数			
		全体(N)			
全体		28	11	17	
年齢別	29歳以下	14	6	8	
	30-39歳	8	5	3	
	40-49歳	2	0	2	
	50-59歳	3	0	3	
	60歳以上	0	0	0	
	答えたくない	1	0	1	
性別	女性	15	6	9	
	男性	12	4	8	
	答えたくない	1	1	0	
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	6	12	
	修了前:× 修了後:○	2	1	1	
	修了前:○ 修了後:×	5	2	3	
	修了前:× 修了後:×	3	2	1	

Q2 年齢

Your age

(和訳)年齢

- ・ 「29歳以下」が14人、「30代」が8人で多数を占めた。

		件数 全体(N)	2 9 歳 以 下	3 0 3 9 歳	4 0 4 9 歳	5 0 5 9 歳	6 0 歳 以 上	答 え た く な い
全体		28	14	8	2	3	0	1
修了年別	2017年3月	11	6	5	0	0	0	0
	2018年3月	17	8	3	2	3	0	1
性別	女性	15	9	2	1	2	0	1
	男性	12	5	5	1	1	0	0
	答えたくない	1	0	1	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	8	5	2	3	0	0
	修了前:× 修了後:○	2	2	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	2	2	0	0	0	1
	修了前:× 修了後:×	3	2	1	0	0	0	0

Q3 国籍

Nationality

Please write your nationality at the bottom column or write "prefer not to say" if you prefer not to say.

(和訳)国籍

一番下の欄にあなたの国籍をお書きください。

回答したくない場合は「答えたくない」とお書きください。

- ・ 「日本国籍」が6人、「インド国籍」が2人、その他は1人ずつであった。

		件数 全体(N)	日本 国籍	イン ド 国 籍	ア メ リ カ 国 籍	中 国 国 籍	台 湾 国 籍	籍 マ レ ー シ ア 国	国 籍 シ ン ガ ポ ー ル	国 籍 イ ン ド ネ シ ア
全体		28	6	2	1	1	1	1	1	1
修了年別	2017年3月	11	2	0	0	1	0	1	0	1
	2018年3月	17	4	2	1	0	1	0	1	0
年齢別	29歳以下	14	4	1	1	1	1	0	0	1
	30-39歳	8	0	1	0	0	0	1	0	0
	40-49歳	2	0	0	0	0	0	0	1	0
	50-59歳	3	2	0	0	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0
性別	女性	15	5	0	1	1	1	0	0	0
	男性	12	1	2	0	0	0	1	1	1
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	3	2	0	0	1	1	1	1
	修了前:× 修了後:○	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	1	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	3	0	0	1	1	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	オランダ国籍	スリランカ国籍	ルワンダ国籍	ブラジル国籍	タンザニア国籍	ガーナ国籍	ハンガリー国籍	答えたくない
全体		28	1	1	1	1	1	1	1	7
修了年別	2017年3月	11	0	1	0	0	0	1	1	3
	2018年3月	17	1	0	1	1	1	0	0	4
年齢別	29歳以下	14	1	1	0	0	0	0	0	3
	30-39歳	8	0	0	1	1	0	1	1	2
	40-49歳	2	0	0	0	0	0	0	0	1
	50-59歳	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	1
性別	女性	15	1	1	0	0	0	0	1	4
	男性	12	0	0	1	1	1	1	0	2
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	1
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	1	1	1	1	1	0	0	4
	修了前:× 修了後:○	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	0	0	0	0	0	1	0	3
	修了前:× 修了後:×	3	0	0	0	0	0	0	1	0

※全体のスコアで降順ソート

Q4 性別

Gender

(和訳)性別

- ・ 「女性」が15人、「男性」が12人であった。

		件数 全体(N)	女性	男性	答えたくない
全体		28	15	12	1
修了年別	2017年3月	11	6	4	1
	2018年3月	17	9	8	0
年齢別	29歳以下	14	9	5	0
	30-39歳	8	2	5	1
	40-49歳	2	1	1	0
	50-59歳	3	2	1	0
	60歳以上	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	0	0
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	7	10	1
	修了前:× 修了後:○	2	1	1	0
	修了前:○ 修了後:×	5	4	1	0
	修了前:× 修了後:×	3	3	0	0

Q5 就労国

In which country do you work as of now?

(和訳)あなたは今の国で働いていますか？

- ・ 「日本」が14人、「インド」が2人、その他は1人ずつであった。

		件数 全体(N)	日 本	イ ン ド	英 国	マ レ ー シ ア	シ ン ガ ポ ー ル	イ ン ド ネ シ ア	ス リ ラ ン カ	ル ワ ン ダ
全体		28	14	2	1	1	1	1	1	1
修了年別	2017年3月	11	3	0	1	1	1	1	1	0
	2018年3月	17	11	2	0	0	0	0	0	1
年齢別	29歳以下	14	8	1	0	0	1	1	1	0
	30-39歳	8	1	1	1	1	0	0	0	1
	40-49歳	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	50-59歳	3	2	0	0	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	0	0	0	0	0	0	0
性別	女性	15	12	0	0	0	1	0	1	0
	男性	12	2	2	1	1	0	1	0	1
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	6	2	0	1	1	1	1	1
	修了前:× 修了後:○	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	3	0	1	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	3	3	0	0	0	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	タ ン ザ ニ ア	カ ン ボ ジ ア	ブ ラ ジ ル	答 え た く な い
全体		28	1	1	1	3
修了年別	2017年3月	11	0	0	0	3
	2018年3月	17	1	1	1	0
年齢別	29歳以下	14	0	1	0	1
	30-39歳	8	0	0	1	2
	40-49歳	2	0	0	0	0
	50-59歳	3	1	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	0	0
性別	女性	15	0	0	0	1
	男性	12	1	1	1	1
	答えたくない	1	0	0	0	1
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	1	1	1	2
	修了前:× 修了後:○	2	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	0	0	0	1
	修了前:× 修了後:×	3	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

Q6 TIAS 各プログラムの満足度(TOP2)

In the TIAS programme, were your expectations met in the following categories.

(和訳)TIAS プログラムを通して、次にあげるカテゴリーであなたの期待は満たされましたか？

- ・ TIAS プログラムで満足(TOP2)したのは、【インターンシップ】金銭的支援、【学生全体】性別の多様性、【学生全体】文化的多様性、【学生全体】年齢の多様性などであった。

		件数 全体(N)	金銭的支援 【インターンシップ】	性別の多様性 【学生全体】	文化的多様性 【学生全体】	年齢の多様性 【学生全体】	文化的多様性 【学部】	業界の多様性 【学生全体】	大学全体のサポート 【インターンシップ】	週ごとの選択科目のスケジュールリング 【学生全体】
全体		28	25	25	25	24	20	19	18	17
修了年別	2017年3月	11	10	11	11	9	10	9	6	6
	2018年3月	17	15	14	14	15	10	10	12	11
年齢別	29歳以下	14	12	11	12	11	10	9	8	7
	30-39歳	8	8	8	8	8	7	7	5	6
	40-49歳	2	2	2	1	1	0	0	2	1
	50-59歳	3	2	3	3	3	2	2	2	2
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	1	1	1	1	1	1	1
性別	女性	15	12	13	13	12	10	8	7	8
	男性	12	12	11	11	11	10	10	10	9
	答えたくない	1	1	1	1	1	0	1	1	0
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	16	17	16	14	12	13	14	12
	修了前:× 修了後:○	2	1	1	1	2	2	1	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	5	4	5	5	4	4	2	4
	修了前:× 修了後:×	3	3	3	3	3	2	1	1	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	【学生全体】 キャリアレベルの多様性	【カリキュラム】 選択科目の種類	【学部】 研究へのアドバイス（修士論文）	【コース・スケジュール】 年間の必修科目のスケジュールリング	【学部】 自国のスポーツMBAの認知度	【学部】 専門知識の多様性	【学部】 ガイダンス（修士論文以外のアドバイス）	【コース・スケジュール】 授業期間
全体		28	17	16	16	16	16	15	15	15
修了年別	2017年3月	11	6	6	6	6	6	5	5	5
	2018年3月	17	11	10	10	10	10	10	10	10
年齢別	29歳以下	14	9	6	6	7	8	8	5	6
	30-39歳	8	4	5	7	5	5	5	5	4
	40-49歳	2	1	1	0	1	0	0	1	2
	50-59歳	3	2	3	2	2	2	1	3	2
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	1	1	1	1	1	1	1
性別	女性	15	9	8	8	6	8	5	6	6
	男性	12	7	8	7	10	8	10	8	9
	答えたくない	1	1	0	1	0	0	0	1	0
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	11	11	10	12	11	10	12	13
	修了前:× 修了後:○	2	1	1	1	1	1	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	4	3	4	3	3	4	2	2
	修了前:× 修了後:×	3	1	1	1	0	1	1	1	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	【コース・スケジュール 1コースあたりの授業数 【学部】 教育 【カリキュラム】 講師から提供された教材の質 【プログラムの評判】 自国のスポーツやオリンピック研究に おける修士号の認定度 【プログラムの評判】 筑波大学MBA-IBプログラムの認知度 【プログラムの評判】 自国のMBA修了証の認知度 【コース・スケジュール】 年間の選択科目のスケジューリング 【インターシップ】 プログラムの期間	14	14	14	13	13	13	
	全体	28	15	14	14	14	14	13	13	
修了年別	2017年3月	11	3	5	5	5	6	5	5	6
	2018年3月	17	12	9	9	9	8	8	8	7
年齢別	29歳以下	14	4	5	7	6	5	5	5	4
	30-39歳	8	6	6	4	5	6	5	4	5
	40-49歳	2	1	0	0	0	0	0	0	1
	50-59歳	3	3	2	2	2	2	2	3	2
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	1	1	1	1	1	1	1
性別	女性	15	7	6	8	7	7	5	6	6
	男性	12	8	8	6	7	7	8	7	7
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	10	9	10	8	10	9	10	9
	修了前:× 修了後:○	2	0	1	1	1	1	1	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	3	4	2	4	3	3	2	3
	修了前:× 修了後:×	3	2	0	1	1	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	【カリキュラム】 T I A S プログラムの 内容	【プログラムの評判】 自国における筑波大学の 認知度
全体		28	12	12
修了年別	2017年3月	11	4	5
	2018年3月	17	8	7
年齢別	29歳以下	14	3	5
	30-39歳	8	4	4
	40-49歳	2	1	0
	50-59歳	3	3	2
	60歳以上	0	0	0
	答えたくない	1	1	1
性別	女性	15	5	5
	男性	12	7	7
	答えたくない	1	0	0
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	10	10
	修了前:× 修了後:○	2	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	1	1
	修了前:× 修了後:×	3	0	0

※全体のスコアで降順ソート

Q7 TIAS コースについての意見(TOP2)

Please specify your opinions on the following aspects of the TIAS courses.

(和訳)TIAS コースの以下の側面についてあなたの意見をお答えください。

- ・ TIAS コースについての意見として、「個人の知識や成長を高めた」「インターンシッププログラムは不可欠だった」「当初の期待を叶えた」などが聞かれた。

		件数 全体(N)	個人 の知識 や成長 を高めた	イン ター ンシ ップ プ ロ グ ラ ム は 不 可 欠 だ っ た	当 初 の 期 待 を 叶 え た	ネ ッ ト ワ ー ク 能 力 を 高 め た	卒 業 生 ネ ッ ト ワ ー ク は キ ャ リ ア に と っ て 重 要 で あ る	専 門 職 へ 就 く 準 備 が で き た	指 導 的 立 場 に な る 準 備 が で き た	男 女 平 等 の 考 え が 高 ま っ た
全体		28	25	25	23	22	22	19	19	18
修了年別	2017年3月	11	11	11	9	9	9	8	6	9
	2018年3月	17	14	14	14	13	13	11	13	9
年齢別	29歳以下	14	11	12	11	10	10	9	9	9
	30-39歳	8	8	8	7	7	7	5	5	6
	40-49歳	2	2	2	1	1	1	1	1	1
	50-59歳	3	3	2	3	3	3	3	3	2
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	1	1	1	1	1	1	1	1
性別	女性	15	14	14	11	12	10	9	9	7
	男性	12	10	10	11	9	11	9	9	10
	答えたくない	1	1	1	1	1	1	1	1	1
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	16	16	15	15	15	14	14	12
	修了前:× 修了後:○	2	1	1	2	1	2	2	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	5	5	4	5	4	2	3	3
	修了前:× 修了後:×	3	3	3	2	1	1	1	1	2

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	知識とスキルを向上させた	T I A S の教育戦略は	雇用可能性を高めた	スポーツマネジメント求人市場への	世界的なスポーツビジネスへの準備を整えられた	収益力が高まった
全体		28	18	17	16	14		
修了年別	2017年3月	11	9	7	7	6		
	2018年3月	17	9	10	9	8		
年齢別	29歳以下	14	7	9	6	7		
	30-39歳	8	7	5	6	4		
	40-49歳	2	0	1	1	0		
	50-59歳	3	3	2	2	2		
	60歳以上	0	0	0	0	0		
	答えたくない	1	1	0	1	1		
性別	女性	15	8	7	6	7		
	男性	12	9	9	9	6		
	答えたくない	1	1	1	1	1		
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	18	12	15	12	10		
	修了前:× 修了後:○	2	2	1	1	1		
	修了前:○ 修了後:×	5	3	0	2	2		
	修了前:× 修了後:×	3	1	1	1	1		

※全体のスコアで降順ソート

Q8 現在の職業

What is your current working status? (Select an appropriate choice and write answer)
 (和訳)あなたの現在の職場はどちらですか? (適切な選択肢をお選びください)

- ・ 現在の職業は、「勤める会社が変わった」が13人、「同じ会社で働き続けている」が10人であった。「他大学で高等教育を受けている」が2人であった。
- ・ 「自分で事業を始めた」は0人であった。

		件数 全体(N)	勤める 会社が 変わった	同じ 会社で 働き 続ける ている	他 大学 で 高 等 教 育 を 受 け て い る	筑 波 大 学 で よ り 高 度 な 研 究 を 追 求 し て い る	別 の 会 社 で 働 く た め に 仕 事 を 探 し て い る	自 分 で 事 業 を 始 め た	そ の 他
全体		28	13	10	2	1	1	0	1
修了年別	2017年3月	11	5	4	2	0	0	0	0
	2018年3月	17	8	6	0	1	1	0	1
年齢別	29歳以下	14	9	2	1	1	1	0	0
	30-39歳	8	3	4	1	0	0	0	0
	40-49歳	2	1	0	0	0	0	0	1
	50-59歳	3	0	3	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	1	0	0	0	0	0
性別	女性	15	7	5	1	0	1	0	1
	男性	12	5	5	1	1	0	0	0
	答えたくない	1	1	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	9	8	0	0	0	0	1
	修了前:× 修了後:○	2	1	0	0	1	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	5	2	1	1	0	1	0	0
	修了前:× 修了後:×	3	1	1	1	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	大学 で学修 ・計	会社 勤め ・計
全体		28	3	23
修了年別	2017年3月	11	2	9
	2018年3月	17	1	14
年齢別	29歳以下	14	2	11
	30-39歳	8	1	7
	40-49歳	2	0	1
	50-59歳	3	0	3
	60歳以上	0	0	0
	答えたくない	1	0	1
性別	女性	15	1	12
	男性	12	2	10
	答えたくない	1	0	1
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	0	17
	修了前:× 修了後:○	2	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	1	3
	修了前:× 修了後:×	3	1	2

※全体のスコアで降順ソート

Q10 キャリア開発への貢献度

Overall, how much did TIAS contribute to your career development?

(和訳)全体として、TIAS はあなたのキャリア開発にどの程度貢献しましたか？

- ・ TIAS が自身のキャリア開発に「貢献した」(TOP3)と答えたのは 20 人であった。

		件数 全体(N)	非常に 貢献した	←	←	→	→	全く 貢献し なかつた	貢献 した・ 計	貢献 しなかつた ・ 計
全体		28	6	10	4	5	3	0	20	8
修了年別	2017年3月	11	3	4	1	2	1	0	8	3
	2018年3月	17	3	6	3	3	2	0	12	5
年齢別	29歳以下	14	4	2	4	2	2	0	10	4
	30-39歳	8	1	5	0	2	0	0	6	2
	40-49歳	2	0	1	0	0	1	0	1	1
	50-59歳	3	1	2	0	0	0	0	3	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	0	1	0	0	0	1
性別	女性	15	3	3	3	4	2	0	9	6
	男性	12	3	6	1	1	1	0	10	2
	答えたくない	1	0	1	0	0	0	0	1	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	4	8	4	0	2	0	16	2
	修了前:× 修了後:○	2	1	0	0	1	0	0	1	1
	修了前:○ 修了後:×	5	0	1	0	3	1	0	1	4
	修了前:× 修了後:×	3	1	1	0	1	0	0	2	1

Q12 スポーツ業界での就業有無

What is your working experience at sports industry?

(和訳) スポーツ業界でのあなたの実務経験をお答えください。

- ・ TIAS 前後で務めている業界では、「TIAS 学修前も後も、スポーツ業界で働いている」が 18 人で最も多く、「TIAS 学修前は、スポーツ業界で働いていた」が 5 人で続く。

		件数 全体(N)	ス ポ ー ツ 業 界 で 働 い て も 後 も い る	ス ポ ー ツ 業 界 で 働 い て い な い	ス ポ ー ツ 業 界 で 働 い て い た	ス ポ ー ツ 業 界 で 働 い て い な い
全体		28	18	2	5	3
修了年別	2017年3月	11	6	1	2	2
	2018年3月	17	12	1	3	1
年齢別	29歳以下	14	8	2	2	2
	30-39歳	8	5	0	2	1
	40-49歳	2	2	0	0	0
	50-59歳	3	3	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	1	0
性別	女性	15	7	1	4	3
	男性	12	10	1	1	0
	答えたくない	1	1	0	0	0

Q13S1 スポーツ業界での職業(学修前)

The following question is addressed to only those who marked “1” at Q12.

What are your previous and current careers before and after studying at TIAS?

Please select the most recent career for each status.

【Before】

(和訳)次の質問は、Q12で「1」と選択した人だけお答えください。TIASで学修する前後のあなたの職業は何ですか？各ステータスの最新のキャリアを選択してください。

【学修前】

※「TIAS 修了前後ともにスポーツ業界で働いている」人のみ回答

- TIAS で学ぶ前のスポーツ業界に勤めていた人は、「スポーツのための州や地方自治体のスタッフ」が8人で最も多い。

		件数 全体(N)	州や地方自治体のスタッフ	スポーツのためのスタッフ	大学の研究者または教授	スポーツチームのトレーナー	スポーツエージェント	スポーツ選手やチームの広報担当者	スポーツ医学の専門家	スポーツ記者	プロのビジネスマネージャー
全体		18	8	1	1	1	1	0	0	0	
修了年別	2017年3月	6	2	1	1	0	0	0	0	0	
	2018年3月	12	6	0	0	1	1	0	0	0	
年齢別	29歳以下	8	2	1	1	0	1	0	0	0	
	30-39歳	5	3	0	0	0	0	0	0	0	
	40-49歳	2	1	0	0	0	0	0	0	0	
	50-59歳	3	2	0	0	1	0	0	0	0	
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
性別	女性	7	1	1	1	1	0	0	0	0	
	男性	10	7	0	0	0	1	0	0	0	
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
スポーツ業界での就業経歴別	修了前:○ 修了後:○	18	8	1	1	1	1	0	0	0	
	修了前:× 修了後:○	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	デ ア パ ー ト メ ン ト の 管 理 者	ア ス レ ッ チ ツ ク	ナ シ ョ ナ ル ス ポ ー ツ 連 盟 の 管 理 者	体 育 教 師	そ の 他
全体		18	0	0	0	0	6
修了年別	2017年3月	6	0	0	0	0	2
	2018年3月	12	0	0	0	0	4
年齢別	29歳以下	8	0	0	0	0	3
	30-39歳	5	0	0	0	0	2
	40-49歳	2	0	0	0	0	1
	50-59歳	3	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0
性別	女性	7	0	0	0	0	3
	男性	10	0	0	0	0	2
	答えたくない	1	0	0	0	0	1
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	0	0	0	0	6
	修了前:× 修了後:○	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

Q13S2 スポーツ業界での職業(学修後)

The following question is addressed to only those who marked “1” at Q12.

What are your previous and current careers before and after studying at TIAS?

Please select the most recent career for each status.

【After】

(和訳) 次の質問は、Q12で「1」と選択した人だけお答えください。TIASで学修する前後のあなたの職業は何ですか？各ステータスの最新のキャリアを選択してください。

【学修後】

※「TIAS 修了前後ともにスポーツ業界で働いている」人のみ回答

- ・ TIAS 修了後も「スポーツのための州または地方自治体のスタッフ」が 8 人で最も多い。

		件数 全体(N)	州 や地 方自 治体 の ス タ フ	ス ポ ー ツ の た め の ス タ フ	大 学 の 研 究 者 ま た は 教 授	ス ポ ー ツ エ ー ジ ェ ン ト	プ ロ の ビ ジ ネ ス マ ネ ー ジ ャ ー	ス ポ ー ツ チ ー ム の ト レ ー ナ ー	ス ポ ー ツ 医 学 の 専 門 家	ス ポ ー ツ 選 手 や チ ー ム の 広 報 担 当 者	ス ポ ー ツ 記 者
全体		18	8	1	1	1	0	0	0	0	0
修了年別	2017年3月	6	3	1	0	0	0	0	0	0	0
	2018年3月	12	5	0	1	1	0	0	0	0	0
年齢別	29歳以下	8	3	1	0	1	0	0	0	0	0
	30-39歳	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	40-49歳	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	50-59歳	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性別	女性	7	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	男性	10	7	0	0	1	0	0	0	0	0
	答えたくない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	8	1	1	1	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:○	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

		件数 全体(N)	デ ア パ ー ト メ ン ト の 管 理 者	ア ス レ ッ チ ン グ	ナ シ ョ ナ ル ス ポ ー ツ 連 盟 の 管 理 者	体 育 教 師	そ の 他
全体		18	0	0	0	0	7
修了年別	2017年3月	6	0	0	0	0	2
	2018年3月	12	0	0	0	0	5
年齢別	29歳以下	8	0	0	0	0	3
	30-39歳	5	0	0	0	0	2
	40-49歳	2	0	0	0	0	2
	50-59歳	3	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0
性別	女性	7	0	0	0	0	4
	男性	10	0	0	0	0	2
	答えたくない	1	0	0	0	0	1
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	0	0	0	0	7
	修了前:× 修了後:○	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0

※全体のスコアで降順ソート

Q15 スポーツ業界以外での職業(学修前)

The following question is addressed to only those who marked “2” at Q12.

If you have changed your job from non-sport industry to sport industry, what was the sport industry after studying at TIAS?

Please select the most recent career.

(和訳)次の質問は、Q12で「2」と選択した人だけお答えください。

スポーツ業界以外からスポーツ業界に仕事を変えた方は、TIAS学修後の職業は何ですか？最新のキャリアを選択してください。

- ・ 2名とも「その他」との回答であった。
 └うち1名はTIAS修了以前は「学生」、1名は無回答、であった。

		件数 全体(N)	大学の研究者または教授	ナース スポーツチームのトレーナー	スポーツ医学の専門家	スポーツエージェント	報道担当者	スポーツ選手やチームの広報	スポーツ記者	プロのビジネスマネージャー	アスレチックデパートメントの管理者
全体		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修了年別	2017年3月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2018年3月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年齢別	29歳以下	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30-39歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40-49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	50-59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性別	女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界での就業経験別	修了前:○ 修了後:○	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:○	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		件数 全体(N)	ナ ス タ ツ フ ま た は 管 理 者	ナ シ ヨ ナ ル ス ポ ー ツ 連 盟 の	ス ポ ー ツ の た め の 州 ま た は 地 方 自 治 体 の ス タ ツ フ	体 育 教 師	そ の 他
全体		2	0	0	0	0	2
修了年別	2017年3月	1	0	0	0	0	1
	2018年3月	1	0	0	0	0	1
年齢別	29歳以下	2	0	0	0	0	2
	30-39歳	0	0	0	0	0	0
	40-49歳	0	0	0	0	0	0
	50-59歳	0	0	0	0	0	0
	60歳以上	0	0	0	0	0	0
	答えたくない	0	0	0	0	0	0
性別	女性	1	0	0	0	0	1
	男性	1	0	0	0	0	1
	答えたくない	0	0	0	0	0	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:○	2	0	0	0	0	2
	修了前:○ 修了後:×	0	0	0	0	0	0
	修了前:× 修了後:×	0	0	0	0	0	0

Q18 TIAS 修了前後の昇進状況

If you have been working at sport industry before and after studying at TIAS, have you been promoted after graduation?

(和訳) TIAS 修了前後ともにスポーツ業界で働いていた方は、修了後に昇進しましたか？

- ・ TIAS 修了前後ともにスポーツ業界で働いている、『修了前○ 修了後○』の人の昇進状況は、「まだ昇進していない」が7人、「昇進した」(TOP2)が11人であった。

		件数 全体(N)	昇進 した 1年 以内 に	昇進 した 2年 以内 に	いま まだ 昇進 して ない	昇 進 した ・ 計
全体		28	10	1	17	11
修了年別	2017年3月	11	2	1	8	3
	2018年3月	17	8	0	9	8
年齢別	29歳以下	14	5	1	8	6
	30-39歳	8	3	0	5	3
	40-49歳	2	0	0	2	0
	50-59歳	3	2	0	1	2
	答えたくない	1	0	0	1	0
性別	女性	15	4	0	11	4
	男性	12	6	1	5	7
	答えたくない	1	0	0	1	0
スポーツ業界 での就業経 験別	修了前:○ 修了後:○	18	10	1	7	11
	修了前:× 修了後:○	2	0	0	2	0
	修了前:○ 修了後:×	5	0	0	5	0
	修了前:× 修了後:×	3	0	0	3	0

Q18×Q13 TIAS 修了後に昇進した修了生のスポーツ業界での職業

The following question is addressed to only those who marked “1” at Q12.

What are your previous and current careers before and after studying at TIAS?

Please select the most recent career for each status.

【After】

(和訳) 次の質問は、Q12で「1」と選択した人だけお答えください。TIASで学修する前後のあなたの職業は何ですか？各ステータスの最新のキャリアを選択してください。

【学修後】

※「TIAS 修了前後ともにスポーツ業界で働いている」人のみ回答

- ・ 『昇進した』修了生の職業は、「スポーツのための州や地方自治体のスタッフ」「プロのビジネスマネージャー」である。
- ・ 『まだ昇進していない』修了生の職業は「大学の研究者または教授」「スポーツエージェント」である。

		件数 全体(N)	州 ス ポ ー ツ の た め の ス タ フ	マ プ の ビ ジ ネ ス	大 学 の 研 究 者 ま た は 教 授	エ ス ポ ー ツ エ ジ ェ ン ト	そ の 他
全体		18	8	1	1	1	7
昇進状況別	昇進した	11	6	1	0	0	4
	まだ昇進していない	7	2	0	1	1	3

※『昇進した』で降順ソート

(6) 海外スポーツマネジメント大学院の提携関係に
関するフィージビリティ調査

【調査の目的】

本調査の目的は、我が国の大学院と国際的なスポーツ組織に多くの修了生を輩出し、実践的なスポーツビジネス教育を実施している海外のスポーツマネジメント大学とネットワーク構築のための条件を明らかにすること、そして連記強化にむけた可能性を検討するのが目的である。

【調査方法】

欧州において国際的なスポーツ組織に修了生を多く輩出している3大学院、AISTS (International Academy of Sports Science and Technology)、MESGO (Executive Master in Sport Governance)、FIFA Master の運営者を対象としたインタビュー調査を実施した。期間は12月5日および6日で。インタビューはスイス・ジュネーブで開催されるPALAEXPOおよびスイス・ニヨンのUEFA事務局でそれぞれ40分程度行った。

【調査結果の概要】

3大学院に対するインタビュー調査から、AISTSとMESGOはアジアに強い関心を持っていること。そして中国やシンガポールなどが我が国と競合になる可能性があることが判明した。筑波大学TIASの実績は、評価されており、筑波大学のブランド力、TIASの運営力がAISTSやMESGOとの共同事業を実施できた理由であることが明らかとなった。日本においてスポーツMBAを新たに設置する場合は、ブランド力と運営力が伴う必要があり、今後国際的な大学院と連携したスポーツMBAへの参入を考える場合の条件が明らかとなった。またFIFA Masterは、FIFAの資金によるサッカーマネジメントの普及の意味もあり、直接的な大学院自体とMOUを締結することはなく、短期プログラムを共同で開催することが可能であることが判明した。また費用もFIFAが負担することもあり、推薦者となる日本サッカー協会との関係性が重要であることがわかった。

【調査結果1】AISTS

○Information concerning business alliances by sports management graduate schools (スポーツマネジメント大学院のビジネスアライアンスに関する情報)

1. スポーツ MBA について

最近是中国からの引き合いが強い(北京大学、清華大学、杭州大学など)。いずれも MBA コースを有しており、AISTS からはスポーツビジネスモジュール(ある一定の期間をスポーツ関連科目だけを集中して学習)を提供することを提案している。具体的な科目には、Major Events、ROI from Big Events(ケース事例: Formula-e and Esports)、Infrastructure、Buying and Selling Players、Sponsorship Rights Activation、Future of Sports Business などがあげられている。

これから大型スポーツイベントを控える中国では非常に重要なトピックであり、MBA にスポーツビジネスコースを設置するのは中国では主流である。また、Sports Singapore (政府機関)にも同様の提案を行っており、先方は興味を示している。

2022年には北京冬季オリンピック、杭州アジア大会を控えていることもあり、中国では人材育成プランの構築はすでに始まっている。育成プランは2020年からを予定しているが、2019年にはAISTSが1週間の短期プログラムを北京大学で実施する予定である。杭州大学のケースでは、1年間のMBAコースのうち、1ヶ月をスポーツに焦点を当てた集中講義を予定している。

2. AISTS アジアオフィスの設置について

AISTS は、アジアオフィスを Sports Singapore の財政的サポート(ファンディング)により、シンガポールに設立予定である。シンガポール国内での”スポーツ”需要は人口の関係からは少ないように思われるが、周辺国(マレーシア、インドネシア、タイ、インド等)ではスポーツイベントも開催され、また国内ではF1もあり需要拡大が見込める。良い提案があれば、東京と組むことも可能性としてある。

今後の筑波大学との連携については、筑波大学に International MBA があることは非常にプライオリティがあると考え。MBA の領域にスポーツビジネスの要素を取り込むことにより、修了生のキャリアデベロップメントに繋がる。スポーツビジネス大学院を立ち上げることにより、東京の産業も拡大するのではないかと考える。筑波大学で実施するのであれば、杭州大学のケース同様、まずはMOUを締結し、集中講義としてできるのではないかと考える。

○Collaboration results with partner graduate school

(パートナー大学院との連携による成果)

現在、スイス国内の5つの大学、IOC、ローザンヌ市、ボー州の連携協力によってAISTSは運営されている。複数組織が連携することで有利な点は、IOCとの関係からは、リサーチ力の提供ができること、オリンピック大会のレガシー調査を担当していること、最新の情報へのアクセスが可能であることなど、双方にメリットがある。AISTSは教育機関として、古い情報では意味がないと考え、常に最新の情報に接し、学生に伝えていく必要があると考えている。IOCとのコラボレーションによって、ほかの”IOCファミリー”(IFやスポーツ関連組織)との提携も可能となるのが強みである。

個別でいえば、Ecole hôtelière de Lausanne (EHL) は、イベントマネジメント、ホスピタリティマネジメントで伝統と実績で世界有数である。EHLはホスピタリティのスペシャリストであり、イベント開催時等の”おもてなし”について、知見を得ることが可能となっている。École

polytechnique fédérale de Lausanne (EPFL) は教室の貸与、ゲストスピーカーの招聘を担当し、教育プログラムの充実に貢献している。

○A choice condition in a business partner graduate school

(ビジネスパートナーの大学院の条件)

戦略的アライアンスを組む条件は、AISTS の設立団体である IOC、EHL、IMD、EPFL などの審査が厳しいため、パートナー大学がトップランクスクールであることが重要である。また、認証評価を受審していることはより好ましい。(例えば、スポーツビジネスインターナショナル誌が発刊する世界のスポーツマネジメント大学院ランキングにランクインしているなど) 特に学位をだす EPFL の審査は厳しく、筑波大学 TIAS とのパートナーシップ締結前にも AISTS の理事会で審査を行った。筑波大学は、日本では伝統的な大学であり、オリンピック・ムーブメントの歴史があることから審査は通った。

例えば中東の UAE やカタールなどの大学からも現在 AISTS とのアライアンスの依頼はあるが、AISTS はパートナーシップの締結は行っていない。提携は金額ではなく、著名な教育機関ではない場合、AISTS のブランドが毀損される恐れを考えている。AISTS は、ブランド力のない教育機関とは基本的にはパートナーシップの締結は行わない。

【調査結果2】MESGO

○Information concerning business alliances by sports management graduate schools

(スポーツマネジメント大学院のビジネスアライアンスに関する情報)

ガバナンスの観点からも、常に多くのパートナーと協力することができるものではないが、プログラムをより有意義なものとするため、異なるプログラムや教員とのコラボレーションを継続することは重要であると考えます。

MESGOは、エグゼクティブマスターであるため、社会（ビジネス）経験豊富な学生がいる。学生を通じてコネクションの拡大を見込むことができる。スポーツビジネスの実務家とのコネクションは非常に重要であり、産業界との繋がりにより、ゲストスピーカー招聘等、コラボレーションの機会も広がる。

○Collaboration results with partner graduate school

(パートナー大学院との連携による成果)

筑波大学つくば国際スポーツアカデミー（以下、TIAS）をパートナーとして選んだ理由は、Tokyo2020、International program、筑波大学の伝統的な reputation（評判）などがある。筑波大学TIASを選択した理由には、International program（※英語でスポーツマネジメントの授業を行うコースがあること）、東京には Olympic（※オリンピック等の国際スポーツイベントの開催国であること）、Traditional University（伝統的な大学）であることがある。TIASに在籍する学生の年齢層、経験（バックグラウンド）など、ダイバーシティの観点からもバランスが取れていると考えられた。

○A choice condition in a business partner graduate school

(ビジネスパートナーの大学院の条件)

1. Executive Education に対応できる

大学院間のアライアンスを考える時に、その大学院が実務者とのネットワークがあるかが評価の基準である。※スポーツスポンサー（企業）とのコネクションはTIASの強みでもある。

2. 場所の利便性

アメリカでのセッションは、NYのSt. John's Universityで実施した。マンハッタンにあり、利便性も高いのが理由である。つまり、アライアンスを組む国の利便性は重要であり、日本であれば東京に設置されたキャンパスが理想的であり、アライアンスを組む条件となる。

3. アジアに対する高い関心

MESGOがアジアへ進出する理由は、デモグラフィック（異文化特性）への関心の高さや現在行われているビックスポーツイベントのスポンサーの多くがアジアにあることが一因である。（東京2020とTIASの関係性のように）中国では2022年に北京で冬季オリンピックが開催されることもあり、MESGOも次回は北京（パートナー校は未定）でのセッションを予定している。

【調査結果3】 F I F A M a s t e r

○Information concerning business alliances by sports management graduate schools

(スポーツマネジメント大学院のビジネスアライアンスに関する情報)

CIES/FIFA Master とアライアンスを組む場合は、承認プロセスが非常に重要となる。日本の場合、JFA から FIFA へのオフィシャルレターが必須となる。(JFA とのコネクションがない限り) アカデミックサイト (大学) とのコラボは難しいと考える。

提携するのであれば、FIFA Master ではなく、Executive Programme in Sports Management となる。本プログラムは主に有職者を対象としており、プログラムは平日夜間や土曜に実施される。

最近ではインドとのコラボ実績があるが、CIES としてコンテンツを提供し、その国やエリアに応じてローカライズできる。例えば、当地で使用されている言語でプログラムを構築できるほか、当地のスポーツカルチャー (日本なら野球など) に合わせたコンテンツを入れることも可能である。

○Collaboration results with partner graduate school

(パートナー大学院との連携による成果)

1. Alumni イベント

FIFA master ALUMNI として、2 年毎に alumni gathering を行なっている。今年は W 杯に合わせ、モスクワのビジネススクールとのコラボイベントを 3 日間に渡り実施した。会場はモスクワが手配・提供。次は Tokyo 2020 に合わせて東京で開催したいと思っている。過去のイベント協力の関係性からも電通を入れることになると思うが、基本的には大学側がオーガナイズすることになる。リオデジャネイロオリンピックの際にも実施。メディア等へのプロモーションは開催地側が担当した。

2. 大学との提携について

FIFA/CIES Executive Programme in Sports Management は、FIFA Master の修士学位ベースではなく、講座ベースとなる。すでに 15 カ国、15 大学と提携しており、3300 人の修了生を輩出している。6 つのプログラムによって構築されている。こちらも、大学とパートナーシップを組む際に各国のサッカー協会の推薦が必要である。新プログラムの構築には 2 年以上かかると予想される。

すでに TIAS で実施しているように、当地の制度 (大学) に合わせてのカスタマイズも可能である。希望者全員参加型ではなく、受講生のセレクション (選考) を行う。選考自体は、当大学で実施することになるが、その過程においては CIES も協力 (立ち会いなど) することになる。合格者は、学費をその大学に納付する。Executive プログラムを修了後、FIFA マスターへ進学するアカデミックパスもある。

○A choice condition in a business partner graduate school

(ビジネスパートナーの大学院の条件)

ロケーションはそれほど重要ではない。プロモーション等について、大学の強いコミットが重要である。当地のフットボールフェデレーション（日本はJFA）とのコネクションは必須である。

(7) 有識者会議

日時：平成 31 年 3 月 13 日

場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎

有識者：

岡部泰英 TEAM MARKETING Head of Asia Sales

半田 裕 大阪経済大学教授

大塚眞一郎 日本トリアスロン連合専務理事

村中悠介 DMM.com COO

デボラ ジョーンズ ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会

西脇智洋 シティ・フットボール・グループ パートナーシップセールス マネージャー

議事録：有識者は匿名化し「有識者」とし、スポーツ庁と筑波大学関係者は「事務局」とした。

○スポーツ経営人材育成・活用に係る調査結果を事務局から説明

1. 海外スポーツビジネス大学院ランキング上位 40 校 を対象とした文献調査の説明

有識者：スポーツマネジメントとスポーツビジネスの違いは何か？

事務局：コース名称にマネジメントと入れているか、ビジネスと入れているか。内容の定義というよりは表面上の言葉としてどちらを使っているかで分けた。

有識者：1～3 で分類されていて、日本だとコース累計 1 型が多い。一部マネジメントが入ってくると 1.5 くらい。それが日本でいうスポーツビジネス学科。コース累計 1、コース類型 2・3 である意味分解したほうがいいのでは。コース累計 1、コース類型 2・3 で、全体として見て総括的な違いがもし感じたところがあれば教えてほしい。

事務局：科目の中まではインターネットでは調べられないので科目の名称で分けた場合、科目名称の全体に占める割合がどの程度あるか調べたもの。MBA であればジェネラルマネジメントの科目名を使うのが全体の 3 割くらいあると受け取ってもらえればと思う。スポーツスタディはコース類型 1 のスポーツ関連修士学位の中でスポーツマネジメントを扱う場合は 16.9% くらいある。科目名が多くなればなるほどパーセンテージが上がることになる。コース区分割合 3 がまさしくその割合になっている。日本と比較しないとわかりにくいところだが、スポーツ関連修士の中でスポーツマネジメントと強く言っているのは、上位 40 校はスポーツビジネスとはうたっているが、58% は残っている。それ以外スポーツビジネスを置いているのは 41.5%。ほぼ 40%、60% くらいの割合で 40 校は分けている。日本のことを言うと、29 の大学院がある。スポーツビジネスと設置しているコース、専攻は 1 つもない。日本はコース類型 2・3 に入ってくるのはほぼ 0% で、コース類型 1 が 100 という感じになっている。世界と比べると大きく違うことがわかっている。

有識者：科目の特長をざっと見ると、Business and Sport Analytics、Economics、General Management とか、そういうものが累計 1 に比べると多い。アメリカだと MBA にデータサイエンスが入ってきている。より実践的というか、データをどう扱うかという話がわりと多いのか。

事務局：調査をやった感想として、ジェネラルマネジメントはスポーツロー、リーダーシップ、ヒューマンリソース、MBA にある科目はビジネスのほうが多い。スポーツマネジメントはそこま

では取り入れていない。Marketing and Communications, Finance Accounting, Economics、日本でもスポーツマネジメントコースにそういうことが入ってきている。

有識者：日本のスポーツマネジメントと言われている大学との比較で言うと、感覚値でいくと General Management, Marketing and Communications, Finance はあまり入っていないような気がする。海外のやつプラス日本となると。

事務局：日本を入れるとさらに大きく割合が違うと思う。

有識者：日本のスポーツビジネスを養成する学科は海外には追いついていないというのをイメージ的に言う上で、比較があると面白いと思う。

事務局：比較すれば、大きく違いが出るというのは間違いないと思う。587科目が745になるというのは、同じ科目名でいろいろな大学でやっているから全てリスト化をすると数が増えてしまう。コース類型1、2、3が373、113、259と違うが、スポーツマネジメントといっているスポーツ科学系の大学院の中において、数が多いから様々な科目名称が出てきている。科目名称も Sport Studies の63が大きく引っ張ってきている。スポーツに趣に置くとスポーツの名前がつくような科目に大量に出てきて科目数が増えている。General Management でいうと80と79で同じくらいだが、スポーツ系の科目が増えてくるから、General Management の割合が低く見えてくるという見方がたぶん良いと思う。

2. その他の調査の説明

質疑応答

有識者：. スポーツ業界への就職の定義として、例えば TIAS を卒業してスポンサー企業に行ったら、それはスポーツ業界への就職なのか。

事務局：スポーツの仕事はしていないということになると思う。商社に入る。日本の商社としては英語もできて日本の大学院に出たという人はすごく使える。商社は引き抜く。スポーツ業界に行くよりもより高い給料をもらえる。TIAS はスポーツの幹部を育てると言っているが、よりよい仕事を見つけるとそちらに行くことがあり得る。

○調査報告を踏まえた今後のスポーツ MBA 設置に向けた論点

今後のスポーツ MBA 設置に向けた論点について、有識者委員との意見交換

有識者：. グローバルな MBA を目指しているのか、日本のスポーツ市場で働く人材を育てるのを目指しているのか。それで答えも変わってくると思う。

事務局：両方からもらえたらと思う。あまり絞りすぎると議論も出てこない。現状でいうと、そもそも日本にスポーツビジネスをしっかりと学べるところはない。グローバルで活躍するというのも両面作っていく必要があると思っている。

有識者：ターゲットはいくつくらいの人か。

事務局：社会人大学院は35歳くらいだ。

有識者：企業対象調査の前提を聞きたいのだが、「スポーツ経営の人材がほしいと思いますか」という質問を企業の誰にしているのか。

事務局：ネット上に登録された企業の社長ではなく35～64歳のかなり幅の広い人。企業経営、企画・マーケティング、広報業務に就いている人。年齢は30～64歳以下なので、ヒラかもしれないし、課長かもしれないし、役員かもしれない。ネットに登録している人。

有識者：誤解があったかもしれないと思ったので聞いてみた。「スポーツ経営の人材がほしいですか」と聞かれたとき、スポーツ経営を特殊だと感じ、そういう人は会社にいませんと答えたのではと思った。スポーツ経営という言葉が特殊っぽい。何をやるのかを伝えずに、スポーツ経営人材がほしいですかと聞かれたら、「そんな人はうちの会社にはいません」と答える気がしてならない。

事務局：ご指摘の通りだと思う。仮に自分がアンケートに答える立場だとすると、自分が働くとしたら、雇う側というところで、若干の誤差は出ると思う。結果として数字として出てきている。精緻性でいうと、おっしゃる通りで難しいと思う。この数字が100%合っているとは思わないが、それを前提にお話をいただけたらと思う。

有識者：スポーツマネジメントと言った途端、社長になる会長になるといったらサッカークラブだったりプロ野球になったり限定されてしまうようなものがあるとしたら、マーケティングだったら企業のマーケティング局に入ってスポーツマーケティングを担当しているというのはいくらでもあり得る。大学でスポーツマーケティング、スポーツマネジメントを担当している。その定義が本当に難しい。何もわからない人にどう教えるのか。今日ヒントをもらいたいと思っている。

有識者：スポーツ経営と経営とはほぼ変わらない。たまたま経営の中にスポーツがあるだけで、ビジネスとそんなに変わらない。

事務局：スポーツ経営人材について、「スポーツ関連事業・マーケティングを主体に実践していく人材をスポーツ経営人材と称します」と定義づけた上で「現在お勤め先の企業・団体に、自力でスポーツ関連のマーケティング・事業運営を実施する能力は十分にあると思いますか？」という聞き方をしている。

事務局：スポーツ経営人材はスポーツ団体で働く人というイメージだった。去年修正をした。スポーツを活用してマーケティングをする人、周りの企業にそういう人を送り込んでいく必要があると方向修正をした。まだスポーツ経営というのが出ている。スポーツをビジネスとして活用するとか、スポーツをビジネスとする、というようなワーディングにしたほうが、良いと思う。

有識者：この大学院を出て、日本サッカー協会の会長になれると思うか。なれない。ビジネスサイドにいるプロサッカークラブ、プロ野球のチームの社長ならなれると思う。上がっていく階段が全く違う。

有識者：その通り。スポーツ競技団体にターゲットをし始めていたところを、幅を広げてきたというのは正解だと思う。NFの会長を作ろうという目的ではないというのが明確になった。オリンピックパートナーは60数社集まってきて、この60数社の中で、いかに自分達のアクションプランをするか、アドバタイジングをしようかと動いている人達は、まさにスポーツ経営をやり始めているあらたな人材。そういうところがマーケットにある。ここからいかにスポーツ庁の方針と結びつけていくかというのがポイントだと思う。

有識者：オリンピックに成功をしたら、企業の会長が宣伝担当の役員に、「次はどこでやるのか」と聞く。「フランスです、パリです」「どうするんだ」となったとき、答えられる人材ができたらずばらしいと思う。

事務局：そういう結果なのだと思う。自社にはそういう満足な人材がない。昨年まではスポーツ団体、NFリーグ、いかに経営幹部層に持っていくかという議論をずっとしていた。企業ニーズ調査の「スポーツマーケティングの担当部門はどちらにありますか？」という質問に対して、自社広報部門が34.8%。広報部門にマーケティング部門を置いているという認識が全体の35%。スポンサーシップ、広告代理店を使ってCMを流している。それをスポンサーシップ、それをマーケティングと考えている。企業側にアクションを含めたハンドリングができて、マーケティング部門に予算を取れるという人材が圧倒的に不足している。オリンピック・パラリンピックのスポンサーさんにそこを強化しましょうと。

有識者：広告代理店でも権利は買ってくるがそういう人はいない。

有識者：競技団体だけではなく、企業側も見てきましょうと。

事務局：15兆を実現するとき、最初はスポーツ団体側で大きくなりましょうという話なのだが、逆にスポーツの価値を高めるのは外からいい人材が入ってくるとか、プレイヤーが3倍になったほうが市場は3倍になる。スポンサーとか、そういう人達にスポーツの価値を高めてもらう。スポーツの人達にはスポーツのことをしてもらうのが一番の仕事。

有識者：プロ野球、Jリーグも増えていくし、Bリーグもある。そこでトップになる人の新しい日本人像は作りたい。

有識者：クラブとかチームの日本のビジネス、アップサイドは経営的にほとんどない。どうやってアップサイドを取っていくのか。企業からの投資を取っていく必要がある。企業からスポーツを事業として使ってビジネスをする。そう考えるとそういったスポーツを使って企業経営をしていくという人材はマッチしていると思う。

事務局：MBAを持った人が昔スポーツに入ろうとして参入障壁になったのは具体的にはどこだったのか

有識者：時代が違うから参考になるかはわからない。結局MBAで学んだ経営方式、アカウントのたて方が、役に立たなかった。商標権は確立されていたが、今の中国ほどではないが日本でもいろいろな偽物があった。放映権の確立もやっと立ち上がった時代だった。プロパティの発掘もまだまだ成り立たない時代だった。そこにMBAを持った人が広告代理店から来ても、そこで

勝負をできなかった時代が 80 年代、90 年代前半。それを大きく転換させるのが日本のサッカー、ビジネス。それで現在に至っている。時代背景を踏まえた人材育成を考えてほしい。これからのこと、今のことをうまく照らし合わせていき、どういう時代背景の元でスポーツ、ビジネスを広げてくか考えてもらえればと思う。

有識者：例えばサッカーJリーグがあるが、アジアの選手でいい選手が増えていく。日本は教育のシステムでクオリティは担保されている。日本の企業側からアジアの選手を日本経由で売って、というビジネスモデルを企業側が作れるかどうか。そういう発想を持った人を作ってほしい。それをするには企業の人達はスポーツ組織のルール、専門的な知識が不足している。企業からするとスポーツの組織、ディテールも含めて学ばないといけない。一方でスポーツ組織の人間は企業のビジネスを学ばないといけない。そういうプログラムが必要。企業からするとスポーツ組織の実態を知らない。そうするとビジネスではできない。

有識者：スポーツビジネスだから格別難しいとは思っていない。経営ができる人材、ビジネスができる人材はできると思う。うちはほとんど MBA、会計士、弁護士、コンサルタント。欧米であったらそういう人が多い。そういう人材はスポーツにきたらできると思う。スポーツの業界に MBA が入りづらかっただけではなく、日本で MBA 自体があまり評価されていないのではないかという問題がある。MBA を出てもだいたいやめて外資にいつてしまう。そもそも日本の企業、ビジネスで MBA がどれだけ評価されて使えるものとして企業がとってくれるのか。そこは 1 つクエスチョン。今はどうなっているのか。

有識者：MBA の役割は日本と海外は全く違う。来ている人は自費で来ている。目的はかなっていて、3 割くらいは 1 年以内に転職をする。典型的な日本の企業で働いていた人が外資に行く。在学中に同級生の紹介で転職をする人も多い。もともとスポーツを目的として入ってくるのか。MBA はスペシャリストを養成しない。ゼネラリスト、どこでもマネージャーとして働ける能力を育成する。スポーツに特化し起点になるものを設けないと、せっかくスポーツ MBA に入ったのに IT 企業にいつてしまう。

有識者：大学のあり方として、輩出力はすごく大事だと思う。この大学を出てどこにいつたのか。紹介できるかどうかは、次に来る人のモチベーションに係る。それをどう仕組み化するかはわからないが、外部の人材会社を使うのか、われわれのネットワークで卒業したやつはどこかにぶちこむか。輩出力はポイントだと思う。そこを出たら 8 割すごいところで活躍しているらしいよと。ブランディング。

事務局：そこは日本の大学院は全くできていない。キャリアデベロップメントという講座もない。海外はキャリアデベロップメントの担当者がいて輩出先をどんどん探してくる。スポーツ MBA を日本でするのであれば、その観点は大事だ。

有識者：キャリアデベロップメントというのをカリキュラムに入れているのか？

事務局：世界ビジネス 40 校はほとんど入っている。双方必要だと思っている。人の問題、大学側の問題というよりは受け手側の問題として、MBA をとった人をちゃんと扱えない、そもそも必要性を感じていない。スポーツ科学の中に専門的なビジネス科目を導入するコースは、スポーツ団体会長になるような人達に「スポーツはビジネスとして可能性があるね」とわかってもら

うというだけでもやらないといけない。スポーツ団体側の意識を変える。MBA 側でいうと、日本で MBA をやっている人にスポーツビジネスという概念はあまりないと思う。MBA をとろうとしている人のほうがビジネスとしては優秀だと考えると、科目に 1 つでも 2 つでもいいからスポーツ系を入れることで、スポーツにこういう可能性があるねと感じてもらう。例えば企業のスポーツのマーケティングのディレクターになる。そういうところに入っていき流れができればいい。両方向から責めない。スポーツ団体側、スポーツ関連の人が受け入れないと意味はない。日本は今後この 2 つが必要になってくるというのが仮説である。

有識者：お金のことでいうと、欧米の大学として MBA はコストマシンの。エクゼクティブ MBA で稼ぐ。授業料がすごく高く、コーポレートで払ってくれる。MBA を通して自分達の大学のブランドを上げるためにいろいろと投資をしている。そういう意味では両輪を持っていたほうがいい。

有識者：投資効果がどうあるのかというのを見せるためには給料のいい会社に入れないと。2,000 万もらえるのだから 500 万払うと。

有識者：考え方を変えたらどこの企業にいてもいい。IT 企業にいても、今は全くスポーツをしていなくても。儲ける仕組みで、CSR の価値とか、いろいろな意味での説明をして、スポーツをやらせるかもしれない。一次調査では全然違うところに就職したかもしれないが、そこから次の会社で何か起きたかまで追っていない。そこからどこかにいってまで何とかしようと転職を繰り返しているかもしれない。本質的に何が学べるのか。自信をもって送り出せる内容があれば、いつかスポーツ界に戻ってこられるようにするという考え方もいいと思う。

有識者：スポーツビジネスだといろいろな意味がある。企業、スポーツマーケティング、組織委員会とかいろいろな意味がある。MBA は日本人にはそんなに認識がないので、一番幅が広いほうがいいと思う。いろいろな人がいろいろなことを勉強することができる。あと何年で専門なプログラムを作ることができる。一番幅が広いマーケティングは、バスケットボール、Jリーグの人もできる、企業の人でもできる。だいたい学ぶことも同じかもしれない。

有識者：競技団体は即戦力がある人を、多少時間はかかるかもしれないがこれから求めると思う。フェンシングが導入したようなシステムもある。われわれの事務局にいるのは一般企業から来た人ばかり。MBA をとった人がサッカー業界にいて成功したか失敗したかはわからないが、最後全うしなかった事例も日本にはある。競技団体、スポーツビジネスをマッチングさせるところにおいては相当慎重なやり方が必要だと思う。

有識者：昔、JFA がアディダスで契約をする時に 15 倍くらいのお金を提案していた。「われわれはマーケティングパートナーですよ。1,000 円の T シャツにマークがついたら 3,000 円で売れますよ。いずれはカラスのマークが残るだけでも 3,000 円、4,000 円で売れるなら楽しいでしょ」と提案した。それが今、最も前に進んでいるサッカー協会。そう考えるとおしなべてオリンピックの残り 33 競技団体の状況は察せられる。

有識者：早稲田大学教授の平田さんがサッカー協会の専門理事にいかれたときはすごいことだなと思った。

有識者：平田先生はハーバードのケネディースクールですね。

有識者：受け入れられなかった競技団体が、今は受け入れられるようになってきている。

有識者：日本サッカー協会の専務理事もハーバード MBA です。これからは変わっていくと思う。

有識者：MBA 人材が定着しなくてもいいと思う。人材の流動性に欠けるのが日本のダイバーシティの弱さだと思う。新しい知見を持ってきてダメだと思ったら…。

有識者：アメリカのオリンピック委員会は CEO クラスの人材を抱えている。弱体している競技団体に送り出して、それでどんどん回している。

事務局：ビジネスプロジェクト、インターシップとか、実践的な授業が MBA コースにはある。体育系のスポーツマネジメントはそれをやっていない。論文だけ読んでいる。その違いは大きいかと思う。インターンではなく、科目でコンサルティングプロジェクト。お題は企業をやりたいと出してもらおう。

有識者：インターシップをやってもそんなに得られるものはない。雑用をさせられるだけ。

有識者：MBA があまり日本で認められていないという仮説があったとしても、プロジェクトで実力を示して企業に気に入られたら入れる。そういうウィンドウを作るといい。

事務局：上位 40 校の科目では、ビジネスプロジェクトとコンサルティング。

有識者：MBA 時代には、日本のマーケットエントリーストラテジーをやってくれと言われて、コンサルタント、投資銀行家、マーケティングの 5 人でチームを組んでお金を払われて 1 ヶ月来てやっていた。

有識者：海外の NSA に行き、日本と海外の大学院の何が違うかという、そういう舞台を事務局が準備できるかどうか。事務局にビジネスマンがいて、ビジネスプロジェクト先も全部お金をとって集めてくるというやり方をしている。日本は教えるところで立ち止まっている。そのあたりをどう打開できるかというのは教育機関としては重要な位置づけだと思う。

有識者：このスポーツビジネスを学ぶ大学院は産学連携が簡単にできるのか。

有識者：純粋なビジネスマンがいかにスポーツビジネスに興味を持つきっかけを作れるかがすごく大事だと思う。

有識者：社会人になって MBA を出てスポーツ業界に入った。スポーツビジネスに必要なスキルセットを明確にして、それがあの人に来てもらう。コンサルティングの授業をするとなったとき、基礎的にできる能力がある人が入ってこない。ある程度、どういうアウトプットをするか出口をイメージしてそれにマッチする入り口を設計してやっていかないと初年度は特に。

有識者：スポーツ界では誰でもチャレンジできるような受け皿を作らないといけない。

有識者：アリーナビジネスを回せる人を養成するのはスポーツ庁としてやらないのか。アップサイドを取れるのはそこしかないのにそういう人材が日本にいるのか。

有識者：プロサッカーチーム、野球チームの人が指定管理に入って 365 日回すという視点から入ってもいい。

有識者：一番進んでいるのは野球。サッカーにはいない。アップサイドがあるのはサッカー。365 日、年間 30~40 試合。残りの試合はいかようにでもできる。アップサイドがいっぱいあるのにそこを回せる人材がいない。

有識者：エンターテインメントも含めてスポーツ以外のことも考えられる人でないとできない。

有識者：情報のライブラリがない。ガバナンス、リーグガバナンス、世界中の事例、どこを見てもいいかわからないし、検索しても出てこない。世界でこうやってうまく活用しているというようなことを、国内でスポーツに携わっている人、これから興味がない人が知ることができる場所が必要。

有識者：そういうコースだったらいいと思う。

事務局：スポーツビジネスの日本の文献を探してもない。日本の研究をしたビジネス関連、スポーツビジネス関連の研究をした英語の文献も全然出てこない。中国、韓国、欧米がほとんど。日本はスポーツをビジネスとしてとられていない。

事務局：FIFA マスターを運営している CIS という国際スポーツセンターはデータを FIFA に提供している。アカデミックも FIFA マスターも運営しているというモデルが海外にはある。

有識者：そういう大学院がほしい。

有識者：ライブラリを整えてほしい。海外でどうやってスタジアムを回しているかなどの情報がない。まずは知る、知識を提供してほしい。

有識者：学校がノウハウを蓄積する。すごい情報が集まる。日本スタイルみたいなものを開発していく。トライアスロン、野球、サッカー、バスケットボールなどいろいろな競技団体にアプローチをすることによって向こう側も変化する。

有識者：日本には教育機関と実務機関が一緒にやっていない。それが海外の大学と明らかに違うところ。教育機関が研究データを蓄積していくことをやっていないのが一番うまくいかない原因。交流がないから情報も入ってこない。

事務局：スポーツイノベーションプラットフォームでは、スタートアップ、新しくビジネスを立ち上げて世の中に事業化していこうとなった瞬間、科学的に実証されるとか、逆にシックスパッドのようにもともあった EMS 理論が学術からビジネスに入った。その両方が出てくるのが望ましいと思う。

IV. 補足資料

【付録1】 (2) 国内有識者へのインタビュー調査 質問票

スポーツ庁では「スポーツMBA」コースの設置にむけた調査をしています。「スポーツMBA」コースに必要な要素についてアドバイスいただきたく思います。

1. スポーツビジネスに関係する既存の大学院では、効果的なスポーツ関連業界との連携がなされていないという委託調査の結果があります。そこでどのようなスポーツ関連業界とのかかわりが必要だと考えられますか？

○スポーツ関連業界との人的・組織的なつながりを持つことに対するご意見と、その可能性についてのご意見をお願いします。

○スポーツ関連業界と地理的に近いことが重要でしょうか？

○スポーツ関連業界との出会いがあることは学生、スポーツ関連業界双方にとって有益かと思われませんが、どのように機会を提供することが良いのでしょうか？

○「スポーツMBA」コースの同窓会や卒業生のネットワークをどのように活かすとよいでしょうか？

○「スポーツMBA」コースの価値を上げるために必要なことは、就職実績、卒業生の多様な人材、卒業生の活躍状況などあると考えますが、ほかには何が必要になると思いますか？

2. 「スポーツMBA」コースの教育の質についてお尋ねします。

○どのような教育コンテンツ（講義内容及びインターンシップなどの実践科目等）が必要でしょうか？

○設置した大学や協力する組織のブランド力は必要でしょうか？

○体育大学等の単科大学や総合的な大学がありますが、規模や多様な分野の教育がなされるべきでしょうか？

○教授陣もしくは講師についてはどのようなことが求められますか？

3. 入学する学生の質についてお尋ねします。

○どのような学生（学生の質・多様性・バックグラウンド）を入学させるべきでしょうか？

○企業もしくはスポーツ団体が欲しいと思う優秀な学生の基準はどうお考えでしょうか？

**【付録2】 (3) 入口調査「社会人のためのスポーツマネジメント教育に関する調査」
調査項目（調査票）**

最初に、あなたご自身のことについてお聞かせください。

Q1. 筑波大学体育系の卒業年はいつですか。

- 2018年
- 2017年
- 2016年
- 2015年
- 2014年
- 2013年
- 2012年
- 2011年
- 2010年
- 2009年
- 2008年
- 2007年
- 2006年
- 2005年
- 2004年
- 2003年
- 2002年
- 2001年

Q2. 性別についてお教えてください。

- 女性
- 男性
- 非回答

Q3. 現在、スポーツ関係の業種に携わっておられますか？

- はい
- いいえ

Q4. 現在の勤務先の業種は何ですか？

- 製造業
- 販売・流通
- 官庁・国際機関
- IT、ソフトウェア、通信
- 教育
- 運輸・エネルギー
- サービス
- 製薬・医療機器
- 医療・福祉
- コンサルティング

○その他：

Q5. 現在の職位をお聞かせください

- 代表理事・代表取締役・CEO 相当
- 理事・常務・専務・役員相当
- 部長職
- 課長職
- 係長職
- 一般職

Q6. 今後、日本社会において、社会人を対象としたスポーツマネジメントを学べる専門職大学院（以下、スポーツ MBA）に対する市場のニーズは拡大すると思われますか？<SA>

1. 非常に拡大するだろう
2. 拡大するだろう
3. どちらかと言うと拡大するだろう
- 4.それほど拡大しないだろう
5. 拡大しないだろう
6. 全く拡大しないだろう

Q7. もし、筑波大学にスポーツ MBA が開設された場合、入学の検討にあたり、どのような項目が重視されると思われますか？特に重視されると思われる項目を1位から4位まで選択してください。

- ・教員の指導能力
- ・少人数教育
- ・幅広い選択科目の提供
- ・教材の質
- ・教員の多様性（国籍、性別、年齢）
- ・国際交流の機会
- ・国内外におけるインターンシップの機会
- ・日本における「筑波大学にできたスポーツ MBA」の知名度
- ・職場や自宅からの通学時間
- ・勤務との時間配分を考慮した開講スケジュール
- ・リーズナブルな授業料設定
- ・その他

Q8. グローバル対応に向けてプログラムを英語開講することは重要だと思われますか？

1. 非常に重要である
2. 重要である
3. どちらともいえない
4. 重要ではない
5. 全く重要ではない
6. 日本語のみの方がよい

Q9. スポーツ MBA においては、どのような資質や能力を身に着けることが重要だと思われますか？（全く重要ではない～非常に重要である）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| a. 口頭発表力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| b. コミュニケーション力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| c. 論理的思考力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| d. 創造性 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| e. チーム構築力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| f. 戦略的志向性 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| g. メンバーの多様性が高い環境の中での協働力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| h. 国際的な課題への気付き | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| i. 社会貢献への気付き | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| j. 意思決定力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| k. 問題発見力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |
| l. 知識の現場への適用力 | 1 — 2 — 3 — 4 — 5 |

Q10. 貴機関・貴団体・貴社では、将来、スポーツマネジメントの専門知識や技能を修得したスポーツ MBA 修了生が輩出されたら採用したいと思われませんか？

1. 積極的に採用したい
2. 採用したい
3. どちらともいえない
4. 他の候補者と同列に扱う（スポーツマネジメント以外の選考基準の適用）
5. この職種に対する雇用ニーズはない

Q11. スポーツ MBA には、2年間の学修にもとづく専門職学位（修士相当）を授与することが望ましいと思われませんか？あるいは、短期の講習による証明書がよいと思いませんか？

- a. 2年間の学修にもとづく修士相当の学位があった方がよい
- b. 短期の講習による証明書の方がよい
- c. 修士相当の学位プログラムと短期証明書プログラムの双方があるとよい

Q12. もし、筑波大学にスポーツ MBA が設置されたならば、あなたご自身は学びたいと思われませんか？

1. ぜひ学びたい
2. 学びたい
3. どちらともいえない
4. 学びたくない
5. 全く学びたくない

Q13. もし、筑波大学にスポーツ MBA が設置されたならば、あなたの社員を派遣したいと思われませんか？

1. ぜひ派遣したい
2. 派遣したい
3. どちらともいえない
4. 派遣したくない
5. 全く派遣したくない

Q14. その他、スポーツ MBA に関するご意見やご提案がありましたらお聞かせください。

ご協力大変ありがとうございました。

【付録3】 (4)企業・団体調査「スポーツ MBA 設置ニーズ」
調査項目（調査票）

<スクリーニング調査>

※全員に質問を表示

SQ1. あなたの職種をお選びください。（単一回答）※複数あてはまる場合には、メインの業種をひとつだけお答えください。

1. 正社員⇒対象者
2. 正社員（管理職）⇒対象者
3. 会社役員⇒対象者
4. 会社経営⇒対象者
5. 契約社員・嘱託⇒対象外
6. 派遣社員⇒対象外
7. パート・アルバイト・フリーター⇒対象外
8. 公務員⇒対象者
9. 団体職員⇒対象者
10. 医師・看護師⇒対象外
11. 自営業・自由業・フリーランス⇒対象外
12. 専業主婦・主夫⇒対象外
13. 高校生⇒対象外
14. 短大生・専門学校生⇒対象外
15. 大学生・大学院生⇒対象外
16. 予備校生・浪人生⇒対象外
17. 無職・家事手伝い⇒対象外
18. その他⇒対象外

※SQ1 で1-4, 8, 9 と回答した人（有職者のみ）に質問を表示

SQ2. あなたが、お勤め先で携わっている業務は何ですか。携わっている業務を全てお選びください。（複数回答）

1. 営業
2. 人事・労務
3. 法務
4. 財務・経理
5. 企画・マーケティング ⇒対象者
6. 企業経営 ⇒対象者
7. 広報 ⇒対象者
8. 販売・接客
9. 教育・保育
10. 交通・運輸
11. 医療・福祉・介護
12. その他サービス
13. 技術職の業務（素材・化学・食品・医薬品）
14. 技術職の業務（電気、電子、機械）
15. 技術職の業務（建築・土木技術）

16. クリエイティブ（メディア・デザインなど）
17. IT エンジニアの業務（システム開発・SE・インフラなど）
18. その他エンジニアの業務
19. 専門職の業務（コンサルティング・士業など）
20. その他

※SQ1 で 1-4, 8, 9 と回答した人（有職者のみ）に質問を表示

SQ3. お勤め先の事業についてお答えください。（単一回答）

1. 営利企業・営利団体（→SQ4 へ）
2. 非営利団体（→SQ5 へ）

※SQ3 で 1 と回答した人（営利企業・営利団体）に質問を表示

SQ4. お勤め先の事業規模（年間の売上高）についてお答えください。（連結子会社含む）

1. 100 億円未満⇒対象者
2. 100～499 億円⇒対象者
3. 500～999 億円⇒対象者
4. 1000～4999 億円⇒対象者
5. 5000～9999 億円⇒対象者
6. 1 兆円以上⇒対象者

※全員に質問を表示

SQ5. お勤め先の事業は、スポーツ事業（スポーツ用品/グッズの製造や販売、スポーツ教育、スポーツ関連のイベント企画/主催/運営等）と、どの程度関連しているかお答えください。

- | | | |
|---|-------------|--------|
| 1 | まったく関連はない | →非スポーツ |
| 2 | ほとんど関連はない | →非スポーツ |
| 3 | 一部関連がある | →スポーツ |
| 4 | 多くの部分で関連がある | →スポーツ |
| 5 | ほとんどが関連している | →スポーツ |

上記までの 5 問で本調査対象者の絞り込みと営利/非営利×スポーツ/非スポーツのセグメントを行います。

<本調査>

※SQ3=1（営利企業）にのみ表示

Q1. お勤め先の業種についてお答えください。※複数あてはまる場合には、メインの業種をひとつだけお答えください。

- | | | | | | |
|-----------------|------------------|---------------|--------------|---------------|------------|
| 1. 食品・水産 | 2. 建設・鉱業 | 3. 繊維・パルプ・紙 | 4. 化学工業 | 5. 医薬品 | 6. |
| 石油・ゴム・窯業 | 7. 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品 | 8. 機械・精密機械・造船 | 9. 電気 | 10. 自動車・自動車部品 | 11. その他製造業 |
| 12. 教育（株式会社立学校） | 13. 商社 | 14. 小売業 | 15. 銀行・証券・保険 | 16. 不動産・倉庫 | 17. 鉄道・運輸 |
| 18. 電力・ガス | 19. 通信 | 20. その他サービス業 | 21. その他（FA） | | |

Q6. 今後、お勤め先の企業・団体は（さらに）スポーツを通じて、自社のブランド・マーケティング活動を強化していく意図はありますか？/意図があると思いますか？

全くそうは思わない

そうは思わない

どちらかと言えばそうは思わない

どちらかと言えばそう思う

そう思う

大変そう思う

Q7. 2020年の東京オリンピックを契機に、日本企業・団体のスポーツ市場における事業展開の拡大、新規事業への参入の可能性は増加すると思われませんか？

全くそうは思わない

そうは思わない

どちらかと言えばそうは思わない

どちらかと言えばそう思う

そう思う

大変そう思う

Q8. 2020年を契機として、お勤め先の企業・団体はスポーツに関連する事業展開を拡大する/新規事業に参入する計画はありますか？

全くない

おそらくない

どちらかと言えない

どちらかと言えばある

おそらくある

非常にある

【スポーツ経営人材*に期待する資質や能力ならびに職務内容】

*以降、スポーツ関連事業・マーケティングを主体的に実践していく人材を「スポーツ経営人材」と称します。

Q9. 現在、お勤め先の企業・団体内に、自力でスポーツ関連のマーケティング・事業運営を実施する能力は十分にあると思いますか？

全くそうは思わない

そうは思わない

どちらかと言えばそうは思わない

どちらかと言えばそう思う

そう思う

大変そう思う

Q10. 将来的には、どちらの部門（または、外部会社等）が、お勤め先の企業・団体のスポーツ関連事業・マーケティングを主体的に推進していくべきだと思いますか？

1. 自社スポーツマーケティング部門
2. 自社広報部門
3. 自社マーケティング部門
4. 自社経営企画部門
5. 自社事業部門
6. 広告代理店
7. コンサルティング会社・コンサルタント
8. その他（ ）

Q11. 「スポーツ経営人材」には、どのような資質・能力が必要だと考えますか？（1：「全く必要ない」～7：「非常に必要」の間で、当てはまる番号をお選びください。）

全く必要ない ← ← どちらともいえない → → 非常に必要

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. スポーツに対する興味や知識 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 2. スポーツを実際に行ってきた経験 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 3. スポーツ関連事業・マーケティングに関する知識、ノウハウ | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 4. 自社事業に対する理解や事業経験 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 5. 経営戦略、経営管理に関する知識、ノウハウ | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 6. マーケティングの関する基本的な知識、ノウハウ | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 7. リーダーシップ・スキル | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 8. 行動力、実行力 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 9. 交渉力、折衝力 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 10. 英語能力 | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |
| 11. 海外における経験（留学、事業経験等） | 1 … 2 … 3 … 4 … 5 … 6 … 7 |

Q12. その他、「スポーツ経営人材」にとって重要だと考えられる資質・能力があればお聞かせください。

Q13. 想定される「スポーツ経営人材」の職務内容で重要なものは何だと考えますか？（1：「全く重要ではない」～7：「非常に重要」の間で、当てはまる番号をお選びください。）

	全く重要ではない ←	←	どちらともいえない	→	→	非常に重要	
スポーツ団体との関係構築（国内）	1	2	3	4	5	6	7
スポーツ団体との関係構築（海外）	1	2	3	4	5	6	7
スポーツ関連事業・マーケティング計画の策定	1	2	3	4	5	6	7
スポーツ関連事業・マーケティングの実行	1	2	3	4	5	6	7
経営・事業とスポーツ関連事業・マーケティングの連携	1	2	3	4	5	6	7
スポーツチームの管理・育成・強化	1	2	3	4	5	6	7

Q14. その他、「スポーツ経営人材」が担当するうえで重要と考えられる職務内容があればお聞かせください。

Q15. 現在、お勤め先の企業・団体内にて、スポーツ関連事業・マーケティングを推進する（あるいは将来的にできる）「スポーツ経営人材」人材を育成するための取組を行っていますか？

行っている（→Q16へ）

行っていない（→Q17へ）

わからない（→Q17へ）

※Q15で1と回答した人（行っている）のみに質問を表示

Q16. 前問で「スポーツ経営人材」を育成するための取組を「行っている」とお答えになった方にお伺いします。実施されている内容について、できるだけ具体的にお聞かせください。

【スポーツ経営人材雇用に対する需要】

Q17. 現在、お勤め先の企業・団体内に「スポーツ経営人材」の要件を満たす人材はおられますか？

全くいない

おそらくいない

どちらかと言えはいない

どちらかと言えはいる

おそらくいる

十分にいる

Q18. 現在、お勤め先の企業・団体内に「スポーツ経営人材」の要件を将来的に満たすことのできるような候補人材は存在しますか？

全くいない

おそらくいない

どちらかと言えばいない

どちらかと言えばいる

おそらくいる

十分にいます

Q19. 国内において、「スポーツ経営人材」の採用候補者は存在すると思いますか？

全くいないと思う

おそらくいないと思う

どちらかと言えばいないと思う

どちらかと言えばいると思う

おそらくいると思う

十分にいますと思う

Q20. もし、「スポーツ経営人材」の要件を満たす採用候補者がいれば、積極的に採用したいと思いますか？

全くそうは思わない

そうは思わない

どちらかと言えばそうは思わない

どちらかと言えばそう思う

そう思う

大変そう思う

【スポーツ経営人材の採用条件や雇用形態】

Q21. あなたがお勤めの企業・団体において「スポーツ経営人材」の望ましい採用形態についてお考えをお聞かせください。(MA)

1. 社内取締役

2. 社外取締役

3. 正社員（管理職）

4. 正社員（担当レベル）

5. 非正規契約社員

6. 顧問、アドバイザー等

7. その他（ ）

Q22. あなたがお勤めの企業・団体において「スポーツ経営人材」採用時の妥当だと思われる年収レベルについてお考えをお聞かせください。

499 万円以下

500～999 万円

1000 万円～1499 万円

1500 万円～1999 万円

2000 万円～2499 万円

2500 万円以上

【スポーツ MBA 学位の潜在的可能性】

Q23. 「スポーツ経営人材」を育成するために、大学院レベルのスポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムを国内に創設することは意義が大きいと思われますか？

全くそうは思わない (→Q24 へ)

そうは思わない (→Q24 へ)

どちらかと言えばそうは思わない (→Q24 へ)

どちらかと言えばそう思う (→Q25 へ)

そう思う (→Q25 へ)

大変そう思う (→Q25 へ)

※Q23 で 1-3 と回答した人 (意義が大きいとは思わない) のみに質問を表示

Q24. スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの意義が大きいとは思わない、とお考えになった理由をお聞かせください。(→Q26 へ)

※Q23 で 4-6 と回答した人 (意義が大きい) のみに質問を表示

Q25. スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの意義が大きいとお考えになった理由をお聞かせください。

Q26. スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの創設にあたって望ましい使用言語についてお答えください。

日本語のみ

英語のみ

日本語、英語の両言語併用

日本語、英語のいずれでも良い

Q27. スポーツ関連事業・マーケティングについても学べる MBA 学位プログラムの開講形態として望ましい開講形態についてお答えください。

全日制

平日夜間および土曜日開講

開講形態にはこだわらない

その他の形態が望ましい ()

質問は以上です。ご協力大変ありがとうございました。

Q6. In the TIAS programme, were your expectations met in the following categories.

	Not at all	A little	Some	Much	Very much
Curriculum					
Content of core courses					
Variety of electives					
Quality of course materials provided by instructors					
Faculty					
Cultural diversity					
Expertise diversity					
Research advice (master thesis)					
Teaching					
Guidance (advice other than master thesis)					
Course schedule					
Number of class sessions per course					
Duration of class sessions					
Scheduling of core courses over the year					
Scheduling of electives <i>over the week</i>					
Scheduling of electives <i>over the year</i>					
Internship					
Duration of the program					
Financial assistance					
Overall university support					
Student body					
Gender diversity					
Cultural diversity					
Industry diversity					
Age diversity					
Career level diversity					
Name/Reputation of Program					
Recognition of MBA diploma in your country					
Recognition of University of Tsukuba's MBA-IB					
Recognition of MA in Sports management in your country					
Recognition of Master's degree in sport and Olympic studies in your country					
Recognition of University of Tsukuba's TIAS programme in your country					

Q7. Please specify your opinions on the following aspects of the TIAS courses

1.Strongly agree

2.Agree a little

3.Neither agree nor disagree

4.Disagree a little

5.Strongly disagree

- a. Fulfilled your original expectations
- b. Enhanced your intellectual and personal growth
- c. Promoted your ability to network
- d. Prepared you for your professional career
- e. Prepared you for leadership position
- f. Increased your earning power
- g. Prepared you for global sports business
- h. Enhanced your idea for gender equality
- i. Promoted your employability to sport management job market
- j. Internship programme was essential
- k. Alumni network is important for career
- l. Pedagogical strategy of TIAS improve your knowledge and skills

Q8. What is your current working status? (select an appropriate choice and write answer)

- Pursuing higher studies at the University of Tsukuba
- Pursuing higher studies at another university
- Continue working for the same company
- Changed company
- Looking for a job at a different company
- Started your own business
- Other: _____

Q9 If you are pursuing higher studies at another university, where is the University of the country?

(country: _____)

Q10. Overall, how much did TIAS contribute to your career development?

Not at all 1 2 3 4 5 6 To a very high extent

Q11. In your opinion, what are TIAS's strengths and weaknesses?

Strengths:

Weaknesses:

Q12. What is your working experience at sports industry? <SA>

- a. I have been working at sport industry before and after studying at TIAS.
- b. I haven't worked at sport industry before studying at TIAS, but changed to sport industry after graduation.
- c. I had been working at sport industry before studying at TIAS, but changed to another industry after graduation.
- d. I haven't worked at sport industry neither before nor after studying at TIAS

Q13. Following question address only those who marked "a" at Q12.

What are your previous and current careers before and after studying at TIAS? Please check the appropriate items. (please check all applies)

Before

After

- a. Researcher or professor at a university
- b. Trainer with a sport team
- c. Sport medicine specialist
- d. Sport agent
- e. PR agent for an athlete or team
- f. Sports reporter, sports caster
- g. Professional business manager
- h. Athletic department director
- i. Staff or administrator of National Sports federations
- j. State or local governmental staff for sports
- k. Physical education teacher

Q14. Following questions address to only those who marked “b” at Q12.

If you have changed your job from non-sport industry to sport industry, what was the non-sport industry before studying at TIAS?

Q15.If you have changed your job from non-sport industry to sport industry, what was the sport industry after studying at TIAS? Please select the most recent career.

- a. Researcher or professor at a university
- b. Trainer with a sport team
- c. Sport medicine specialist
- d. Sport agent
- e. PR agent for an athlete or team
- f. Sports reporter, sports caster
- g. Professional business manager

- h. Athletic department director
- i. Staff or administrator of National Sports federations
- j. State or local governmental staff for sports
- k. Physical education teacher

Q16. Following questions address to only those who marked “c” at Q12.

If you have changed your job from sport industry to non-sport industry, what is the non-sport industry after studying at TIAS?

Q17. Following questions address to only those who marked “b” or “c” at Q12.

Why did you switch your industry before and after studying at TIAS?

Q18. If you have been working at sport industry before and after studying at TIAS, have you been promoted after graduation?

1. Yes, promoted within 1 year
2. Yes, promoted within 2 years
3. No, not promoted yet

Thank you very much for your time and cooperation